

コール・シャンティ

Chorus Shanteius (Chor Shantey)

MISSA ORDINARIUM

ミサ通常文のラテン語解説

Editio Tertia Emendata

改訂第3版

目 次

1. <u>はじめに</u>	2
2. <u>ラテン語の字母</u>	3
3. <u>テキストによる差異</u>	3
4. <u>ラテン語解説</u>	4
<u>Kyrie</u>	4
<u>Gloria</u>	4
<u>Credo</u>	15
<u>Sanctus</u>	34
<u>Benedictus</u>	35
<u>Agnus Dei</u>	36
5. <u>発音記号</u>	38
6. <u>ミサ曲文章構造</u>	40
7. <u>ミサ曲ラテン語辞書</u>	42
<u>格変化・活用表</u>	50
参考書	57

1. はじめに

この冊子はミサ曲（Kyrie, Gloria, Credo, Sanctus Benedictus, Agnus Dei）で使われるミサ通常文について、純粹にラテン語の文章としての解説をしたものです。

ラテン語は文法的に大変難しく、それゆえ早期に死語になってしまった言葉の1つです。名詞、形容詞、動詞すべてが複雑な活用を持っていて、それを知らなければラテン語の文章は理解できません。活用を覚えることがラテン語学習の9割を占めるといっても過言ではないでしょう。

しかし、ここでは活用を覚えることにはあまり意味がありません。ミサ通常文は文章が決まっており、内容はキリスト教に関することに限られています。むしろ1つ1つの文章が何を言っているか理解の方が大切です（これは全ての外国語の曲に共通のことですが）。

とは言え、ラテン語は、その文法から逃れて解説するのはほとんど不可能で、文法書的な体裁になるのは致し方ありません。ですが、この冊子に書かれた内容全てを理解しようとするのではなく、ミサ曲の文章が何を言っているのか（つまりその文の中で大切な単語は何か、どう大切なのか）を分かって頂ければ良いと考えています。

ただ、少しでもラテン語に興味を持ってもらえる人がいれば、その後の学習の助けとなるよう、ラテン語特有の文法解説にも立ち入っていますし、巻末にはミサ曲に登場する全ての単語と基本語を辞書形式で掲載しました。是非ご活用下さい。

2005年の第2版に一部誤記がありましたので、この度、訂正しました。

2. ラテン語の字母

ラテン語本来の字母^{じほ}（アルファベット）は次の 20 種類です。

A B C D E F G H I L M N O P Q R S T V X

I は母音の i とヤ行の子音 j の両方を表しており、不便なため、ヤ行の子音の時には J を使って区別することがあります。V も本来は母音の u とワ行の子音 w の両方を表していましたが、現在は母音 u には U を使い、V は英語の v と同じ子音を表すためだけに使います。

さらに、ギリシャ語源の単語を表すのに、ギリシャ語から K Y Z の 3 種類のアルファベットを借りています。ラテン語本来の単語で K, Y, Z を用いる単語はありません。

従って、ラテン語の文章で使われる字は基本の 20 種類に J, K, U, Y, Z を加えた 25 種類で、W だけが使われません。(I, J を区別せず、I だけで通す流儀もあります)

3. テキストによる差異

ミサ通常文は文章が決まっていますが、長い年月の中でいくつかの単語の表記法に流儀が生まれ、テキストによって異なる表記になっているものがあります。

① I, J の区別によるもの

ヤ行の子音を I で表すか J で表すかによって差異があります。表記は変化しても発音は同じです。

例、Iesus Christus / Jesus Christus 「イエス・キリスト」

② 二重母音の表記によるもの

二重母音 ae（教会ラテン語では二重母音アエではなく長母音エー）は時代によって差異があります。表記は変化しても発音は同じです。ae ↔ oe 又は ae ↔ e の交替があります。

例、caelum, caelis 等 / coelum, coelis 等「天」

caelestis / coelestis 「天」

saeculi / seculi 「世の、時代の」

ae, oe は^{ごうじ}合字(ligature)となって **æ, œ** のように表記されることもあります。→④

③ H の有無によるもの

H は教会ラテン語では無音のため、表記されないことがあります。H があっても無くても発音は同じです。

例、Hosanna / Osanna 「オザンナ」

④ 合字によるもの

2 個以上の文字が合体して 1 つの文字になったものを合字といいます。②に挙げた **æ, œ** の他に **&** があります。**&** はもともと記号ではなく単語 Et (et) の合字で、意味も発音も et（英語の and）と同じです。ミサ通常文のテキストでこの合字が見られることはほとんど無いかも知れません。

例、caeli et terrae / caeli & terrae 「天と地の」

4. ラテン語解説

Kyrie

憐れみの讃歌

キリエ エレイソン、クリステ エレイソン

/kí-ri-e e-lé-i-son, krís-te e-lé-i-son/

Kyrie eleison. Christe eleison.

└─ Christe 「キリストよ (呼格)」 ← Christus 「キリスト」 (ギリシャ語 Khristos)
└─ eleison 「憐れみたまえ (ギリシャ語)」
└─ kyrie 「主よ (呼格・ギリシャ語)」

= 「主よ、あわれみたまえ。キリストよ、あわれみたまえ」

ラテン語解説といいつつ、実はこの部分はギリシャ語です。**kyrie** は「主よ」と呼び掛ける言葉で、ギリシャ語では κυριε (=kurie, キュリエ) と書きます。ラテン語にはもともと K も Y もありませんでした。**eleison** は「憐れんで下さい」という意味で、ギリシャ語 ελεησον (=eleêson) の音訳です。現代ギリシャ語の ελεω (=eleô) 「施す」と関係があると考えられます。

Christe は言うまでもなく「キリストよ」という呼び掛けの言葉です。ちなみにキリスト Christus は、ギリシャ語の Χριστός (=khristos、クリストス) 「聖油を塗られた」が語源で、ヘブライ語からの訳語です(「聖油を塗る」は χρίω (=khriô)) そして、元のヘブライ語は מָשִׁיחַ (マシアーフ mashiah) 「聖油を塗られた」、つまり今で言う Messiah 「メシア」の直接の語源なのです。

なお、**eleison** の s は、母音に挟まれていますが発音は /z/ と濁らず /s/ で読むのが通例です。

KYRIE

Kyrie eleison. Kyrie eleison. Kyrie eleison.

主よ、あわれみたまえ

Christe eleison. Christe eleison. Christe eleison.

キリストよ、あわれみたまえ

Kyrie eleison. Kyrie eleison. Kyrie eleison.

主よ、あわれみたまえ

Gloria

栄光の讃歌

グローリア イン エクシエルシース デオー

/gló:-ri-a ín ek-fél-si:s dé-o:/

Gloria in excelsis Deo.

└─ Deo 「神に (与格)」 ← deus 「神」
└─ { in+奪格 「～において」
└─ excelsis 「非常に高いところ (複数奪格)」 ← excelsus 「非常に高い (形容詞)」
└─ gloria 「栄光 (主格)」

◆ 「(天の) 非常に高いところでは、神に栄光が (ありますように)」 ← ◆ は直訳的
= 「天のいと高きところには、神に栄光 (あれ)」 ← = は意識的

※この文は通常、ミサ曲では先唱として1人が唱うため、合唱団の楽譜には書かれませんが、

この文は、ラテン語の特徴をシンプルに示した文です。**Gloria**「栄光」は主格とよばれる主語の形です。一方、**Deo**は「神に」という与格とよばれる形です。「神」という語は **Deus** という形ですが、与格、つまり何かを与えるときとの与え先（動作の向けられる対象）を表すときはこのように形が変化します（これを格変化といいます）。だから、“Gloria Deo.” と言えば「栄光が神にあれ」という文になり、これを “Deo gloria.” と言っても「神に栄光があれ」で意味は変わりません。語順が変わっても意味が変わらないのは、格変化のあるラテン語の最大の特徴でもあります。（日本語も「は」「を」「に」等の格助詞を持つため、語順を変えても意味がさほど変わらない）

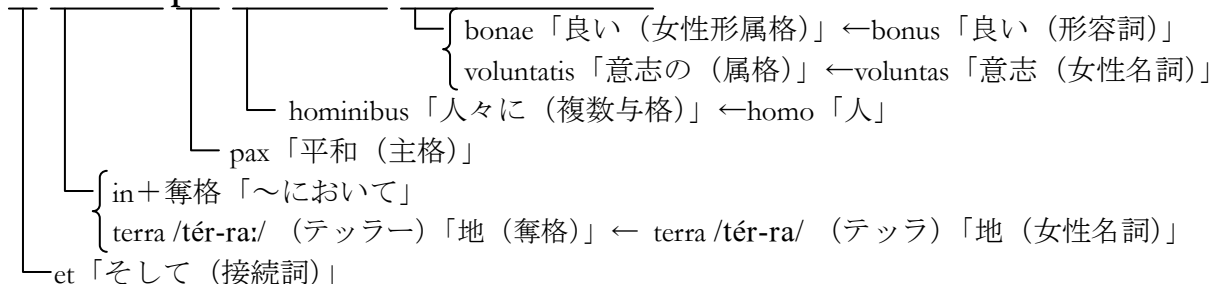
in excelsis は「非常に高いところに」という意味で、**excelsus** が基本形です。なお、**celsus** 自体に「高い」という意味がありますが、**ex-**「超えて」という接頭辞が付いて「非常に高い、これ以上高いところは無いくらい高い」という意味になります。**in** は前置詞で、英語の前置詞 **in** と似ています。また、**excelsis** の発音は /ek-ʃél-si:s/ 「エクシエルスィース」と書きましたが、/eks-ʃél-si:s/ 「エクスチエルスィース」のように読む場合もあります。

この文は、しばしば「天に、神の栄光がありますように」と誤解されます。正しくは、「天においては、神に栄光がありますように（栄光が神に帰属しますように）」ですから注意しましょう。

エトウ イン テッラー パークス オミニブス ボネー ヴォルンターティス

/ét ín térra: pá:ks o-mí-ni-bus bó-ne: vo-lun-tá:-tis/

Et in terra pax hominibus bonae voluntatis.



◆ 「そして、地では、良い意志を持った人々に平和が（ありますように）」
= 「地には、善意の人に平和あれ」

et は **and** 「そして」の意味です。**terra** は女性名詞の単数奪格で、主格は **terra**（同じ形ですが、奪格では最後の **-a** を伸ばして読む）で「地、大地」です。仏語の **terre** の語源ですし、英語でもテリトリー（領土）**territory** とか言います。**terra** の格変化を下に示します。**in terra** で「地には」になります。**pax** はやはり女性名詞の主格で「平和」です。英語の **peace** や仏語の **paix** 「平和」、パシフィック **pacific** の語源でもあります。**the Pacific Ocean** は「太平洋」つまり平和な海というわけです。**hominibus** は男性名詞の複数与格。単数主格は **homo** 「人」です。**hominibus** は「人」の複数与格だから「人々に」なわけですね。ちなみに **homo** は英語の **human** や仏語の **homme** 「人」の語源です。この **ho-** は「ホ」でなく「オ」と読むので注意しましょう。すなわち、**h** は（ごく一部の例外を除き）常に無音です。次の **bonae voluntatis** はまとめて後ろから **hominibus** に掛かっています。**bonae** は形容詞 **bonus** 「良い」の女性形 **bona** の属格で、**voluntatis** は女性名詞 **voluntas** 「意志」の属格です。形容詞が女性形なのは、掛かっている **voluntas** が女性名詞だからです。また、**bona voluntas** 「良い意志」が **bonae voluntatis** 「良い意志の」とどち

名詞	第1格変化（女性名詞）		
	単数	複数	
主格	terra	大地は	terrae
属格	terrae	大地の	terrarum
与格	terrae	大地に	terris
対格	terram	大地を	terras
奪格	terra	大地から	terris
呼格	terra	大地よ	terrae

この2文はよく「あめ(天)にはさかえ(栄)、地に安き」と簡訳されたり、“*In terra pax*”(地に平和を)という歌が出たりしていますが、ラテン語の文章として見る限り、意味があるのは「神に栄光、人に平和」のほうであって、*in excelsis* や *in terra* は単に「天には」「地には」と場所を言っているに過ぎません。だから「天に栄光、地に平和」より「神に栄光、人に平和」のほうが正しい意図と言えます。また、面白いのは神には無条件で栄光をと言っていますが、平和の方は「善意を持った」人に、と限定していることです。善意が必要という考えが見えますね。

今後も格変化のことは避けて通れないので、簡単に触れます。ラテン語の名詞と形容詞には 6 通りの格があり、

- となっています。さらに、単数か複数かの区別があるので、1つの名詞は12通りに格変化します。名詞の格変化の型は5種類あり、第1格変化から第5格変化まであります。

なお、一部の地名や「家」「田舎」「地上」などの場所を表す少数の名詞には、「**地格**（～で）」と呼ばれる格があります。

◆「我々はあなたをほめる。我々はあなたをたたえる」
＝「われら主をほめ、主をたたえ」

laudamus は動詞です。基本形は laudo 「(私は) ほめる」ですが、主語が「私たち」の時は、それ専用の語尾がくっついて **laudamus** という形になります。「我々は～する」という動詞はたいてい **-mus** という語尾で終わります。**te** は人称代名詞で、2 人称単数対格、平たく言えば「あなたを」にあたる言葉です。英語の目的格の you です。te の主格は **tu** 「あなた (は)」で、仏語には tu も te もあります。英語でも古語として「汝」と言うときの thou (目的格 thee) は、**tu** (対格 **te**) が語源です。**benedicimus** も語尾が **-mus** なので「我々は～する」の動詞です。基本形は benedico です。bene は bonus の副詞で「良く」、dico は「言う」ですから、**benedico** で「～のことを良く言う (speak well of～)」つまり「たたえる」というわけです。

アドーラームス テー グローリフィカームス テー

/a-do:-rá:-mus té: glo:-ri-fi-ká:-mus té:/

Adoramus te.

Glorificamus te.

└─adoramus 「我々はおがむ」←adoro, adorare 「おがむ」←ad- 「～に向かって」+oro, orare 「語る」
└─┬─glorificamus 「我々はあがめる」←glorifico, glorificare 「あがめる」
└─┴─↑glori- 「栄光(gloria)」+fico (←facio) 「作る、～にする」

◆「我々はあなたをおがむ。我々はあなたをあがめる」
＝「主をおがみ、主をあがめ」

この辺は同じ形の文が並んでいます。**Adoramus te.** も同じです。

glorificamus の基本形は glorifico です。glori- は **gloria** 「栄光」のことで、-fico (=facio) は「作る、～にする (make)」なので、**glorifico** はいわば「栄光化する」といった感じです。

動詞		第 1 群	第 2 群	第 3 群	第 3B 群	第 4 群	
不定法		laudare	sedere	benedicere	facere	venire	
現在形		ほめる	座る	讃える	作る	来る	
単数	1 人称	laudo	sedeo	benedico	facio	venio	私が～
	2 人称	laudas	sedes	benedicis	facis	venis	あなたが～
	3 人称	laudat	sedet	benedicit	facit	venit	彼が～
複数	1 人称	laudamus	sedemus	benedicimus	facimus	venimus	我々が～
	2 人称	laudatis	sedetis	benedicitis	facitis	venitis	貴方達が～
	3 人称	laudent	sedent	benedicunt	faciunt	veniunt	彼らが～

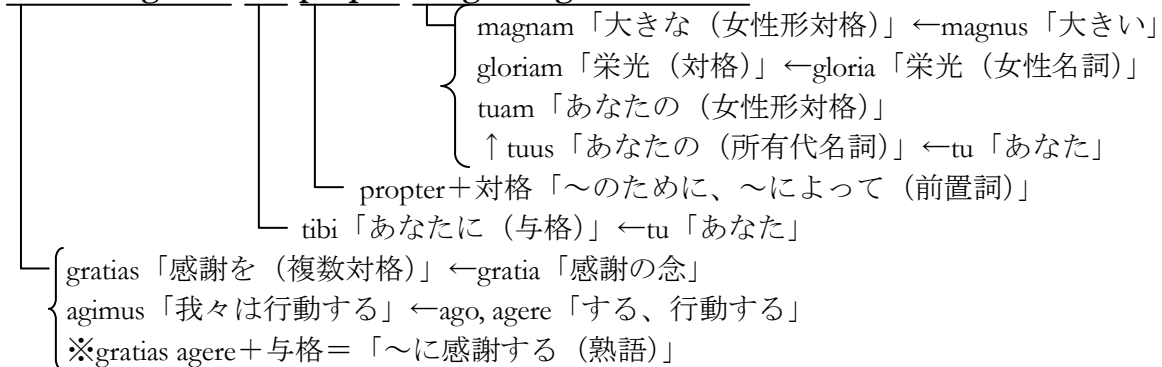
動詞	不規則
不定法	esse
現在形	在る
単数	1 人称 sum
	2 人称 es
	est
複数	1 人称 sumus
	estis
	sunt

※この表の 6 つの動詞はいずれもミサ曲で使われている動詞。
太線四角で囲った語はミサ曲の文章に出てくる活用形であるから覚えておきたい。

グラーツィアース アジムス ティビ プロプテル マーニャム グローリアム トウアム

/grá:tsi-a:s á-dʒi-mus tí-bi próp-ter má:-nam gló:ri-am tú-am/

Gratias agimus tibi propter magnam gloriam tuam.



- ◆ 「我々はあなたに感謝する。あなたの大きな栄光のゆえに」
= 「主の大いなる栄光のゆえに主に感謝してたてまつる」

gratias は女性名詞 **gratia** 「感謝の念」の複数対格です。**agimus** は動詞で基本形 **ago** は「行動する、する(do)」です。**ago** は英語 **act** の直接の語源です。この「**gratias agere** + 与格」は熟語で、「～に (対して) 感謝する」となります。もろに直訳すれば「～に対して感謝の念を行う」ということですね。次の **tibi** は **tu** 「あなた」の与格ですから、確かに熟語の文法通りですね。

propter は前置詞で、後ろに対格を伴って、「～の理由で(because of)」の意味です。**propter** の後ろの **magnam gloriam tuam** は全部対格で、全部主格に戻すと **magna gloria tua** となります。**magna** は「大きい」で、地震の大きさを表すマグニチュード **magnitude** 等の語源です。**tua** は **tu** 「あなた」の所有代名詞 **tuus** 「あなたの(your)」の女性形単数で、掛かる名詞が男性単数なら **tuus**、中性単数なら **tuum** になります。従って、**magna gloria tua** は「あなたの大きな栄光」、**propter magnam gloriam tuam** は「あなたの大きな栄光の故に」となります。この「故に」は **agimus** だけでなく **laudamus** 以降 5 つの動詞に対して、と考えるべきです。教会ラテン語では **magnam** は /má:-nam/ 「マーニャム」と読みます。「マグナム」とは読まないの
で注意しましょう。

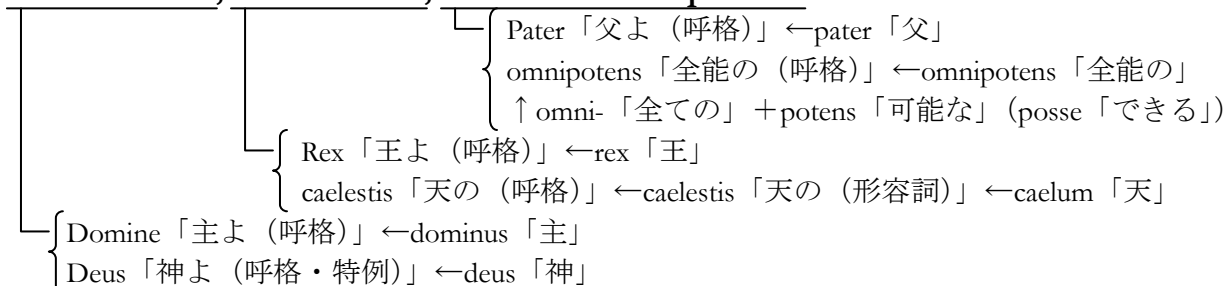
代名詞	2 人称単数		1 人称複数	
主格	tu	貴方は	nos	我々は
属格	tui		nostrum, nostri	
与格	tibi	貴方に	nobis	我々に
対格	te	貴方を	nos	我々を
奪格	te	貴方から	nobis	我々から
所有代名詞 (形容詞)	tuus tua tuum 貴方の		noster nostra nostrum 我々の	

※代名詞の属格は、所有の意味に使えない。

ドミネ デウス、レークス チェーレスティス、デウス パテル オムニポテンス

/dó-mi-ne dé-us, ré:ks tʃe:-lés-tis, dé-us pá-ter om-ní-po-te:ns/

Domine Deus, Rex caelestis, Deus Pater omnipotens.



◆「神なる主よ、天の王よ、全能の父なる神よ」
 =「神なる主、天の王、全能の父なる神よ」

domine は男性名詞 **dominus** 「主」の呼格なので「主よ」です。英語の **dominate** や仏語の **dominer** 「支配する」の語源ですね。**deus** は男性名詞「神」で、英語の **deity** 「神格」や仏語の **dieu** 「神」の語源です。なお、**deus** は **dominus** と同じく第 2 格変化の名詞なので、規則通り変化させると呼格は **dee** のはずですが、語呂が悪いせいか「**deus** は特例で呼格も **deus** である」という個別の規則があります。

rex は「王」で、英語のロイヤル **royal** や **regal** 「王の」、仏語の **roi** 「王」の語源です。**caelestis** は形容詞で「天の」です（ちなみに名詞の「天」は **caelum**）。**caelestis** は、**coelestis** と綴られることもあります。楽器のセレスタ（チェレスタ）**celesta** という鉄琴も、天上界から響くような清い音なのでその名が付けました。

pater は「父」で、英語の **father** や仏語の **père** 「父」の語源です。**pater** を「パーテル」と読む人が（全国的に）多いですが、正しいラテン語としては **pa-** は短く「**パテル** /**pá-ter**/」と読みます。ラテン語では母音の長短で意味が変わるので、歌うときは関係ありませんが読むときには母音の長短に気を付けて欲しいものです。幸い、**pater** には「パーテル」と読む別の単語がありませんが、例えば **malus** は、「**マルス** /**má-lus**/」と読めば「悪」、「**マールス** /**má:-lus**/」と読めば「リンゴ」になります。また、**Maria (maria)** を「**マリーア** /**ma-rí:-a**/」と読めば「マリア様」、「**マリア** /**má-ri-a**/」と読むと「海（複数）」の意味になってしまいます。気を付けましょう（父 **pater** は「**パテル**」ですが、母 **mater** は「**マーテル**」と長母音で読むのが正解です）。

なお、**pater** は、**rex** や **pax** と並んで第 3 格変化をする名詞ですが、実に厄介なことに基本形、つまり単数主格の綴りが一見「不規則」という性質があります。この部類の単語が出てくると、すぐには基本形が分からないので辞書を引くのが困難です（いろいろ類推して引かなければなりません）。**omnipotens** は「全能の」という形容詞で、**omni-** は **omnis** 「全ての」、**potens** は「能力のある (potential)」という意味ですので、合体して **omnipotens** 「全能の」になります。**potens** 自体は、動詞 **posse** 「できる、可能だ (be able to, can)」(基本形は **possum**) の現在分詞です。

名詞		第 2 格変化男性型		第 2 格変化中性型		第 3 格変化第 1 類			
		男性名詞「主」		中性名詞「王国」		男性名詞「父」		女性名詞「平和」	
単 数	主格	dominus	主は	regnum	王国は	pater	父は	pax	平和は
	属格	domini	主の	regni	王国の	patris	父の	pacis	平和の
	与格	domino	主に	regno	王国に	patri	父に	paci	平和に
	対格	dominum	主を	regnum	王国を	patrem	父を	pacem	平和を
	奪格	domino	主から	regno	王国から	patre	父から	pace	平和から
	呼格	domine	主よ	regnum	王国よ	pater	父よ	pax	平和よ
複 数	主格	domini	主らは	regna		patres	父らは	paces	
	属格	dominorum		regnorum		patrum		pacum	
	与格	dominis		regnis		patribus		pacibus	
	対格	dominos		regna		patres		paces	
	奪格	dominis		regnis		patribus		pacibus	
	呼格	domini		regna		patres		paces	

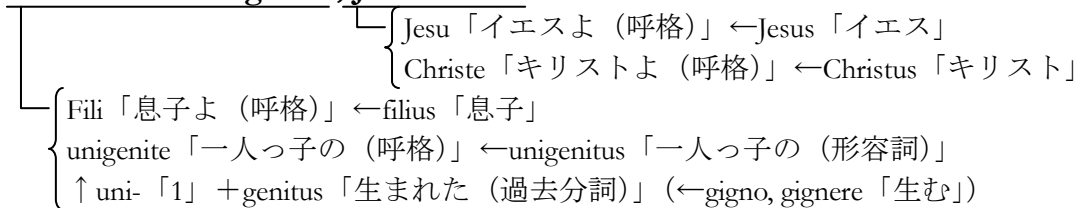
※斜体文字は不規則形。第 3 格変化は単数主格（基本形）と呼格が不規則で、それ以外の格が規則変化。

pater, pax の語形は、共に活用語幹 **patr-, pac-** を綴りの上では明示的に持たないことを表す。

ドミネ フィーリー ウーニジェニテ、イエズー クリステ

/dó-mi-ne fí-li: u:-ni-dʒé-ni-te, jé:-zu: kρίς-te/

Domine Fili unigenite, Jesu Christe.



◆ 「主なる一人っ子の息子よ、イエス・キリスト (救世主イエス) よ」

= 「主なるおんひとり子、イエズス・キリストよ」

fili は男性名詞 **filius** 「息子」の呼格です。第2格変化なので上の格変化規則に従うと呼格は **filie** となるはずですが、「語尾が -ius で終わる固有名詞と **filius** は、呼格は **-ie** でなく **-i**」という決まりがあり、**filius** の呼格は短く **fili** となります (語尾の **-i** は長母音になります)。**unigenite** は形容詞 **unigenitus** 「一人っ子の」の呼格で、**uni-** 「一つ」と **genitus** 「生まれた」が合体して「一人っ子の」という意味になります。

Jesu (Iesu) はイエス (Jesus) で、主格は **Jesus** ですが、聖書中の人名・地名は基本的にヘブライ語由来で、ラテン語の語形変化にうまく合わせられない時は無変化、という決まりがあり、**Jesus** も、対格がラテン語的に **Jesum** となる以外は属格・与格・奪格・呼格すべてが **Jesu** です。

なお、**Jesu** そのものはヘブライ語名ではなく、イエスの元のヘブライ語名は יהושע (Yehoshua、イエホーシュア) です。これが縮まって Yohua ヨーシュアになり、旧約聖書がギリシャ語に翻訳された際に Ιησους イエースース (Iēsous) となり、ラテン語に入って **Jesus** イエーズスとなりました。イエホーシュアという名前は「神ヤハウエは救いなり」という意味で、広く長男に付けられた名前と言われます。יה (Yeh-) の部分が「神ヤハウエ」、הושע (hoshua) が「救い」にあたります。この「救い」הושע (hoshua) は、動詞 הושיע (hoshyia、ホーシアー) 「救う」に由来します。一方、ホーシアーは、後で登場する Hosanna 「オザンナ (原義は『救い給え』)」の語源である הושענא (hoshiana、ホーシアーナ) のホーシアー (= 「救え。助けて!」) の部分と同じです。

Christe は **Christus** の呼格で、こちらは第2格変化で規則通りです。**Christus** 「キリスト」というのは「救世主」という意味の称号ですから、**Jesus Christus** は「救世主イエス」という意味であり、フルネームではありません。いわば、「〇〇先生」とか「△△総理」と呼ぶような感覚です。

ドミネ デウス、アーニウス デー、フィーリウス パトリス

/dó-mi-ne dé-us, á:-nus dé-i:, fí-li-us pá-tris/

Domine Deus, Agnus Dei, Filius Patris.



◆ 「神なる主よ。神の小羊、父の息子」

= 「神なる主、神の子羊、父の御子よ」

agnus は「小羊 (子羊)」、教会ラテン語では「アーニウス」と読みます (古典ラテン語では「アグヌス」と読みました)。**Dei** は先ほども出てきた **deus** 「神」の属格で、「神の」という意味です。つまり、**Agnus Dei** でまとめて「神の子羊」ですね (聖書的表現では「子羊」と書くことが多

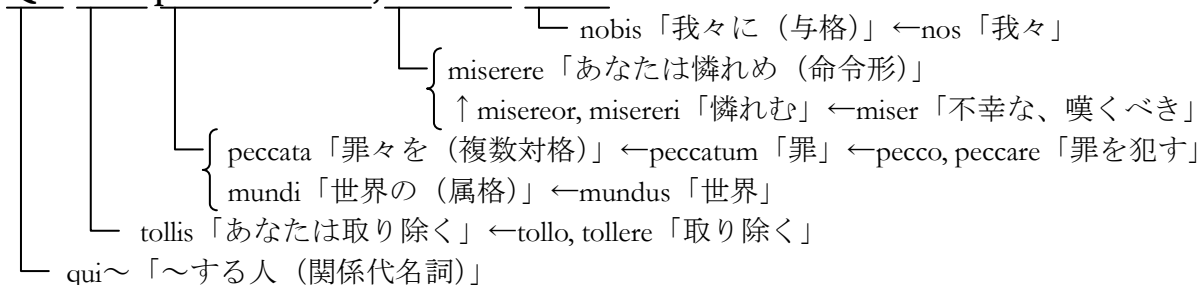
いようです。辞書には「小羊」となっていますが、この場合は似たようなものでしょう)。**Patris** も先ほど出てきた *pater* 「父」の属格で「父の」ですから、**Filius Patris** で「父の息子」です。このようにラテン語では、「A の B」と言うとき、属格の A は、B の後ろに置かれるのが通例です。

この文は、後半だけが呼格でなく主格なのが気になります。通常は全て呼格として訳されますが、原文において後半 (**Agnus Dei, Filius Patris**) が主格のままなのは謎に思われます。

クイー トッリス ペッカータ ムンディー、ミゼレーレ ノービス

/kwí: tól-lis pek-ká:ta mún-di:, mi-ze-ré:re nó:-bi:s/

Qui tollis peccata mundi, miserere nobis.



◆「世界の罪々を取り除くあなたよ、我々を憐れみたまえ」

= 「世の罪を除きたもう主よ、われらをあわれみたまえ」

qui は関係代名詞と呼ばれるもので、前に出てきた名詞をさして「その～は」という文を導きます。**qui** 自体は、疑問詞「誰が～?」という単語但也有ありますが、疑問詞と関係代名詞が同じ形をしているのは英語や仏語も同じですね。ここでは、前に出てきた名詞（先行詞）は、具体的には直前の **Agnus Dei, Filius Patris** であり、要は「主」を指します。**qui** は /kwí:/ と読みますが、これが /ku-í:/ のように U の母音が入らないようにしましょう。綴りでは **u** が入りますが、**qu-** はあくまで /kw/ の子音で、/í:/ からが母音です。/kw/ は実際には /k/ を発音するときには既に唇が /w/ の形になっていなければなりません。そして、/k/ を発音した瞬間に唇を /w/ の子音の位置から /i/ の母音の位置へ大きく動かし（さもないと母音の /u/ が入ってしまいます）。

tollis は動詞で基本形は *tollo* 「取り除く、破壊する」です。**tollis** の主語は文法上 **qui** であり、この場合は動詞は 3 人称単数の *tollit* にすべきですが、ここでは 2 人称単数 (**tu**、あなた) に対応する **tollis** となっています。文法上は規則違反ですが、ここでは呼び掛けの意味合いが「主」つまり「あなた」に対することから、2 人称単数の **tollis** になっていると考えられます。

peccata は中性名詞 *peccatum* 「罪」の複数対格、つまり「罪々を」です。この場合は特に宗教上の罪（原罪）を指します。**mundi** は男性名詞 *mundus* の属格で「世界の」という意味です。**peccata mundi** で「世の中の罪を」という意味になります。

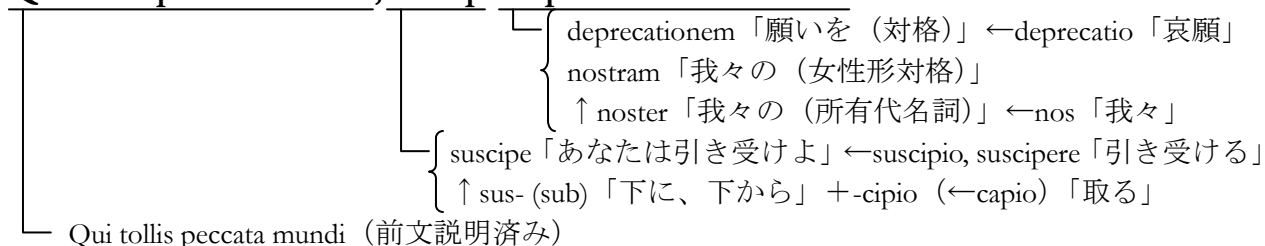
miserere は「憐れむ」という動詞の命令法で、基本形は *misereor* です。これは変わった動詞の一群で、形式受動態動詞（異態動詞、形式所相動詞とも言う）という動詞です。形は受動態（受け身）なのに意味は能動態という変わった動詞です。このような動詞はミサ通常文にもいくつか現れ、**miserere** (基本形 *misereor*)、**natum** (基本形 *nascor*)、**passus est** (基本形 *pator*)、**confiteor**、**locutus est** (基本形 *loquor*) の 5 つです。これらの形式受動態動詞は、形は受動態でも意味は能動態ですから、形に惑わされずに能動態で訳さなければなりません、形式受動態動詞であることを見落として無理に受動態で訳しているものも見受けられますので注意して下さい。

さて、**miserere** は「憐れみたまえ」ですが、要は **eleison** と同じことですね。

nobis は 1 人称複数与格の代名詞で、平たく言えば「私たちに」です。

クィー トッリス ペッカータ ムンディー、スシペ デープレカーツィオーネム ノストウラム
/kwí: tól-lis pek-kái-ta mún-di:, sú-ji-pe de:-pre-ka:-tsi-ó:-nem nós-tram/

Qui tollis peccata mundi, suscipe deprecationem nostram.



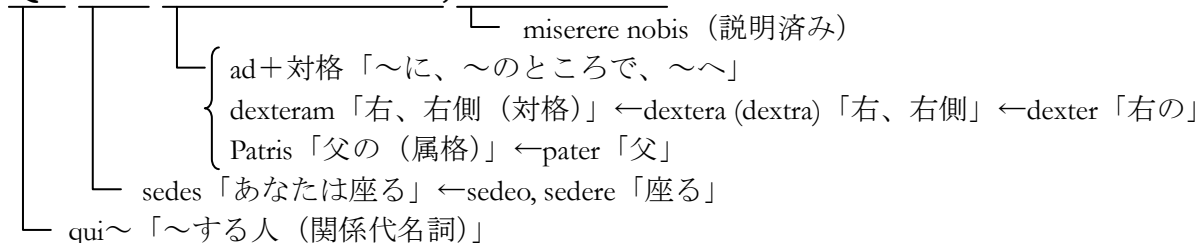
- ◆ 「世界の罪々を取り除くあなたよ、我々の願いを引き受けよ」
= 「世の罪を除きたもう主よ、われらの願いをききいれたまえ」

前半は前の文と同じです。**suscipe** は基本形 **suscipio** 「引き受ける(undertake)」の2人称単数に対する命令形で、「あなたは引き受けなさい」という意味です。**suscipio** の **sus-** (=sub) は「下に(under)、下から」で、**-cipio** (=capio) は「取る(take)」ですから、英語の **undertake** はまさしく **suscipio** の英訳と言えます。**suscipe** の **-sci-** は「シ /ʃi/」と読みます。欧米語っぽく「スイ /si/」のようにならないようにしましょう。ミサ曲で「シ /ʃi/」の発音が現れるのは **suscipe** の1ヶ所のみです。

suscipe の目的語である **deprecationem nostram** はどちらも対格で、主格に直すと **deprecatio nostra** です。**deprecationem nostram** で「私たちの願いを」という意味になります。

クィー セデース アドゥ デクステラム パトゥリス、ミゼレーレ ノービース
/kwí: sé-de:s ád déks-te-ram pá-tris, mi-ze-ré:-re nó:-bi:s/

Qui sedes ad dexteram Patris, miserere nobis.



- ◆ 「父の右側に座るあなたよ、我々を憐れみたまえ」
= 「父の右に^ぎ座したもう主よ、われらをあわれみたまえ」

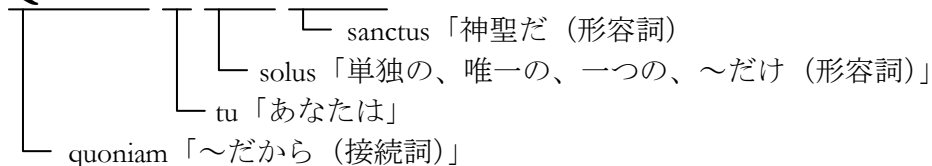
sedes は動詞で、基本形は **sedeo** 「座る」です。**ad** は前置詞で、後ろに対格の名詞句を置いて、「～に、～へ、～の方へ、～の近くへ」という意味になります。**dexteram** は女性名詞 **dextera** 「右側、右手」の単数対格です。**Patris** は **pater** 「父の」の属格ですから、**dextera Patris** で「父の右側」、**ad dexteram Patris** の後ろに置くと「父の右側に」となります。**dextera** は古典ラテン語では **dextra** と綴られ、間の **-e-** はありませんでした。

dextera には「恵まれた、幸福な、好都合な、器用な、気の利いた」といった意味や「約束・誓いの意味での握手」という意味もあります。反対に、**sinistra** 「左」には「あべこべの、逆の、不吉な、悪い、へまな」といったマイナスイメージがあって、当時は「右」の方が尊ばれていたようです。

クオニアム トゥー ソールス サンクトゥス

/kwó-ni-am tú: só:-lus sánk-tus/

Quoniam tu solus sanctus.



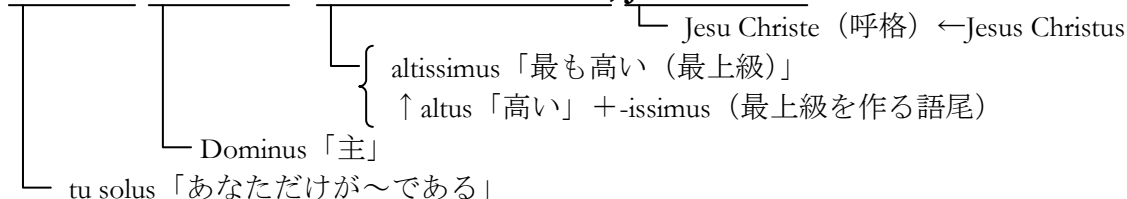
quoniam は接続詞で、「～だから」という意味です。**tu** は「あなた」、**solus** は形容詞で「～だけ (only)、唯一の(the only)」という意味ですので、**tu solus** で「あなただけが」という意味になります。**sanctus** も形容詞で「聖なる」という意味です。英語の sanctuary 「聖域」や、聖人で「聖……」と呼ぶときの Saint 等の語源です。

ラテン語では「A は B である」と言うとき、**A B est.** が一般的ですが、**A est B.** も可能です。また、**B est A.** や、**B A est.** さえ可能です (est は英語の be 動詞にあたる)。さらに、est が自明ならばそれすらも省略可能です。この文も本来は **Quoniam tu solus es sanctus.** ですが、**es** が省略されています (es は主語が「あなた」のときの be 動詞にあたる言葉で、tu es = you are)。

トゥー ソールス ドミヌス、トゥー ソールス アルティッシムス、イエーズー クリステ

/tú: só:-lus dó-mi-nus, tú: só:-lus al-tís-si-mus, jé:-zu: krís-te/

Tu solus Dominus. Tu solus altissimus, Jesu Christe.



Tu solus Dominus. は「あなただけが主です」という意味ですが、意識は Tu を「主」と訳しているためそのままでは「主のみ主なり」とおかしい訳になるためか、「主のみ王なり」と別の言葉を使っているようです。

altissimus は形容詞 **altus** 「高い」の最上級です。語尾の **-issimus** は最上級を作る語尾で、ちょう

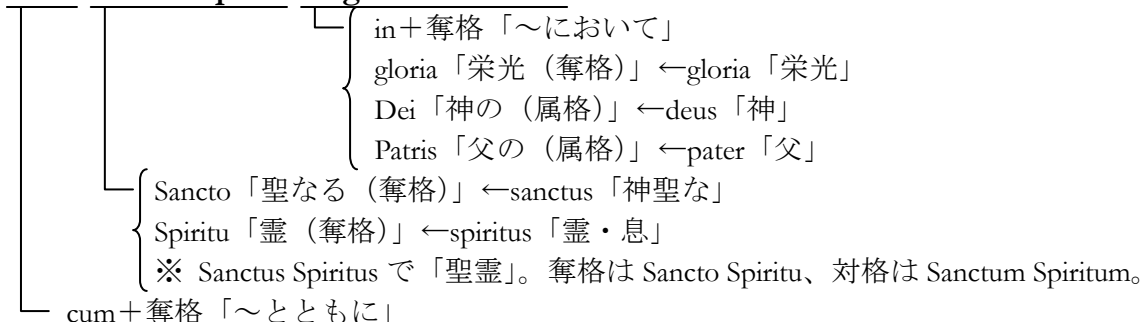
形容詞		高い		長い		幸せな
規則	原 級	altus	高い	longus		<i>felix</i>
	比較級	altior	より高い	longior		felicior
	最上級	altissimus	最も高い	longissimus		felicissimus
		良い	悪い	大きい	小さい	前の
不規則	原 級	bonus	malus	magnus	parvus	(pro)
	比較級	melior	pejor	major	minor	prior
	最上級	optimus	pessimus	maximus	minimus	primus 最初の

イタリア語で piano (**p**)の最上級を pianissimo (**pp**)と呼ぶのと対応します。また、ラテン語の altus は「高い」だけでなく「深い」の意味も持っています。ちなみに声部のアルト alto は、ラテン語 altus 「高い」から来ています。もっと高いソプラノ soprano は何かというと、ラテン語 supernus 「上の、高いところにある」が元で、alto より高い感じです。

クム サンクトー スピーリトゥー イン グローリアー デイー パトゥリス

/kúm sánk-to: spí:ri-tu: in gló:ri-a: dé-i: pá-tris/

Cum Sancto Spiritu in gloria Dei Patris.



◆ 「聖霊とともに、父なる神の栄光において」
= 「聖霊とともに、父なる神の栄光のうちに」

cum は前置詞で、英語の with にあたります。後ろに奪格を置いて「～と共に」という意味を持ちます。cum が無くても奪格だけで「～を以て」という with の意味がありますが、より明確に with の意味を持たせるために前置詞 **cum** を使用することがあります。**Sancto Spiritu** はともに奪格で、主格は Sanctus Spiritus です。どちらも語尾が -us で終わっていますが、sanctus は第2格変化、spiritus は第4格変化のため、主格の語尾が同じでも奪格の語尾は違います。**sanctus** は形容詞で「聖なる」、**spiritus** は英語の spirit そのもので、「息、魂、霊」等の意味です。従って **cum Sancto Spiritu** は「聖霊と共に」となります。

in gloria は「栄光において」ですが、**Gloria** の最初の in terra で述べたように、**in** は後ろに奪格を取ると「～において、～で」の意味になるので、ここの **gloria** は奪格です（奪格になると語尾の -a は長母音になることに注意）。次の **Dei Patris** は共に属格で、主格は Deus Pater 「父なる神」で、これらがまとめて属格になって **gloria** に掛かっています。

名詞	第4格変化
主格	spiritus 霊
属格	spiritus
与格	spiritu, spiritui
対格	spiritum
奪格	spiritu
呼格	spiritus

(単数のみを掲載)

※第4格変化の与格は2つの形がある。

アメン

/á-men/

Amen.

amen 「アーメン。かくあれかし。このようであって欲しい。まことに (ヘブライ語)」
= 「アーメン」

Amen はヘブライ語で、堅苦しく言うと「かくあれかし」、平たく言うと「このようであって欲しいなあ」、さらにくだけて言えば「そうだいいな」ということです。何がそうであって欲しいかということ、これまで述べてきた (Amen の前までの文章の) 通りであって欲しいな、ということになります。ヘブライ語の「まことに」に由来し、ヘブライ語では אמן と書きます。

GLORIA

Gloria in excelsis Deo.
Et in terra pax hominibus bonae voluntatis.
Laudamus te. Benedicimus te.
Adoramus te. Glorificamus te.
Gratias agimus tibi
propter magnam gloriam tuam.
Domine Deus, Rex caelestis,
Deus Pater omnipotens.
Domine Fili unigenite,
Jesu Christe.
Domine Deus, Agnus Dei, Filius Patris.
Qui tollis peccata mundi,
miserere nobis.
Qui tollis peccata mundi,
suscipe deprecationem nostram.
Qui sedes ad dexteram Patris,
miserere nobis.
Quoniam tu solus sanctus.
Tu solus Dominus.
Tu solus altissimus, Jesu Christe.
Cum Sancto Spiritu in gloria Dei Patris.
Amen.

天のいと高きところには、神に栄光あれ。
地には、善意の人に平和あれ。
われら主をほめ、主をたたえ、
主をおがみ、主をあがめ、
主の大いなる栄光のゆえに
主に感謝してたてまつる。
神なる主、天の王、
全能の父なる神よ。
主なるおんひとり子、
イエズス・キリストよ。
神なる主、神の子羊、父の御子よ。
世の罪を除きたもう主よ、
われらをあわれみたまえ。
世の罪を除きたもう主よ、
われらの願いをききいれたまえ。
父の右に座したもう主よ、
われらをあわれみたまえ。
主のみ聖なり。
主のみ王なり。
主のみいと高し、イエズス・キリストよ。
聖霊とともに、父なる神の栄光のうちに。
アーメン

Credo

信仰宣言

Credo はやはりキリスト教の信仰に関わる部分だけに、教会ラテン語特有の単語が多く、文章も **Gloria** より長く難解なものになっています。**Credo** の大きな基本構造は「信じる **Credo**」「(洗礼を) 認める **Confiteor**」「(死者の復活と来世の生命を) 待ち望む **Exspecto**」の3部形式となっており、そのうち「信じる」の部分の基本構造は「父なる神を信じる」「子イエスを信じる」「聖霊を信じる」「教会を信じる」の4部形式になっています。さらに「子イエス」のくだりではイエスの誕生から処刑および復活にまつわる逸話が挿入されています。このような文章上の構造とは無関係に音楽的な切れ目が置かれていることが多いので、それに引きずられて構造上の区切りを考えてしまうことが多いのですが、音楽的な切れ目はあくまで音楽的なものと考え、文章上の切れ目がどこにあるかをしっかり把握することが重要です。

なお、Credo の全文を構造的に解釈したものを P41 に付けましたので参照して下さい。

クレードー イン ウーヌム デウム

/kré:-do: ín ú:-num dé-um/

Credo in unum Deum.

- └ credo 「私は信じる」 ← credo, credere 「信じる」
- └ in+対格 「～に対して、～に向かって」 (前置詞) → credo in+対格 「～を信じる」
- └ unum 「一つの、一人の、唯一の (形容詞対格)」 ← unus 「一つの、1」
- └ Deum 「神を (対格)」 ← deus 「神」

◆ 「私は唯一の神を信じる」

= 「われは信ず、唯一の神」

※この文は Gloria 同様、1 人が先唱として唱うため、合唱団の楽譜にはありません。

credo とは「私は信じる」という動詞で、英語の “I believe ～” にあたります。日本語でもおなじみのクレジットカードのクレジット **credit** とか、「信じられない」と驚くときの **incredible** や、仏語の croire 「信じる」の語源です。Credo は、**Credo in unum Deum.** で始まり、以下数文は対格だけの文が並んでいますが、これらはみんな「私は～を信じます」という文が並んでいるわけです。「信仰宣言」と言われるゆえんですね。「私は～を信じます」の内容は、**Credo** 以下、**Confiteor** の手前まで全てです。この辺については、後述の文章構造のところを見ていただけると全体の様子がわかると思います。ここの前置詞 **in** は後ろに奪格でなく対格をとり、陳述に際して意向・態度・行状に関して「～に対して、～に向かって」という意味を持ちます。この場合、**in** はあっても無くてもさほど意味が変わりません。

文章の形だけ見ると、“Credo in unum Deum.” は、Gloria 冒頭の “Gloria in excelsis Deo.” と文型がよく似ていますね。

パトゥレム オムニポテンテム

/pá-trem om-ni-po-tén-tem/

Patrem omnipotentem

- └ Patrem 「父を (対格)」 ← pater 「父」
- └ omnipotentem 「全能の (対格)」 ← omnipotens 「全能の (形容詞)」
- └ ↑ omni- 「全ての」 + potens 「可能な、勢力のある (現在分詞)」 (← possum, posse 「できる」)

◆ 「全能の父を (私は信じる)」

= 「全能の父、」

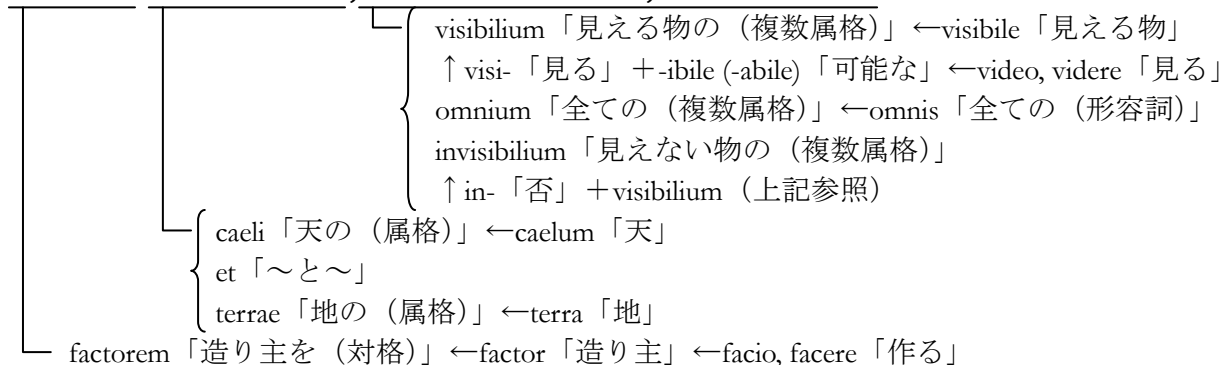
Patrem omnipotentem は対格で、先に出た動詞 **credo** の目的語です。主格に直せば Pater omnipotens 「全能の父」です。**omnipotens** は Gloria でも **Deus Pater omnipotens** として登場していますが、主格の **omnipotens** と対格の **omnipotentem** とではアクセントの位置が違うので注意しましょう。

主格	om-ní-po-tens	オムニポテーンズ	/om-ní-po-te:ns/
対格	om-ni-po-tén-tem	オムニポテンテム	/om-ni-po-tén-tem/

このアクセント位置の違いはラテン語のアクセント位置規則に基づきます。具体的には巻末に述べますが、簡単に言うと、**omnipotens** の場合は、後ろから 2 番目の音節 **-po-** が短い音節 (短母音かつ閉子音が無い) なのでアクセントは後ろから 3 番目の音節の **-ni-** にあり、**omnipotentem** の場合は、後ろから 2 番目の音節である **-ten-** が長い音節 (長母音があるか、または閉子音がある) であるのでアクセントがその音節 (後ろから 2 番目の音節) **-ten-** にあるのです。

ファクトーレム チェーリー エトゥ テッレー、ヴィーゾィビリウム オムニウム、エトゥ インヴィーゾィビリウム
/fak-tó:-rem tʃé:-li: ét tér-re:, vi:-zi-bí-li-um óm-ni-um, ét in-vi:-zi-bí-li-um/

factorem caeli et terrae, visibilium omnium, et invisibilium.



◆ 「天と地、全ての見える物と見えない物を作った人を（私は信じる）」
 = 「天と地、見ゆるもの、見えざるもの、すべての造り主を」

factorem も対格で、主格は factor 「作る人」です。facio 「作る」という動詞から派生した語です。**caeli** と **terrae** は、それぞれ中性名詞 caelum 「天」と女性名詞 terra 「地」の単数属格で、どちらも **factorem** に掛かっているの、**factorem caeli et terrae** で「天と地の造り主」というわけですね。terrae は「テッレー」と読むことに注意しましょう（楽譜のテキストによっては、ここを terra と誤記しているものも見受けられますから注意して下さい。また、ミサ曲では Sanctus に “Pleni sunt caeli et terra” という部分（これは正しい）も現れますから注意して下さい）。

なお、「天」caelum は中性名詞ですが、P.34 で述べるように教会ラテン語ではしばしば複数形が男性名詞として格変化します（例えば、複数主格が、中性名詞なら caela となるが、男性名詞化して caeli となる）。ミサ曲でも caelum は複数形で男性名詞格変化になっています。

次の **visibilium** は、中性名詞 visibile の複数属格で「見える物たちの」という意味です。英語の visible 「見える（形容詞）」の語源です。英語の visible は形容詞ですが、ラテン語の visibile は名詞です。visibile は動詞 video 「見る」の分詞 visum に、可能を表す -ibile という語尾を付けた形になっています。なお、現在ビデオ video とかオーディオ audio とか言っているのは、ラテン語の **video** 「私は見る」と、**audio** 「私は聴く」の動詞から来ています。

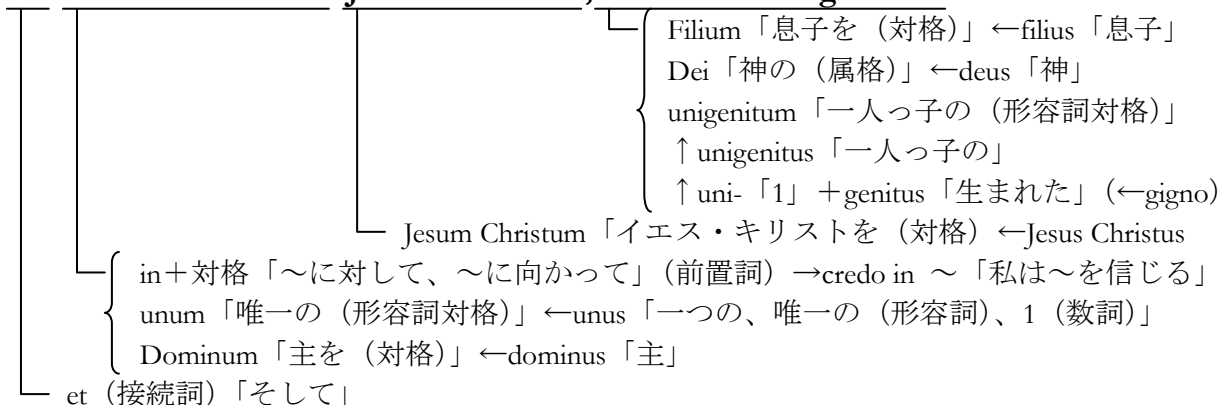
omnium は「全て」という意味の形容詞 omnis の複数属格なので、**visibilium omnium** で「全ての見える物の」という意味です。次の **invisibilium** は、visibilium に in- が付いて否定しているので、「見えない物の」という意味です。従って、**visibilium omnium, et invisibilium (omnium)** は「全ての見える物と全ての見えない物の」という意味になります。これらは全て属格なので、**factorem** に掛かっています。結局 **factorem** は何の造り主かというと、factorem の後ろ全て、つまり **caeli et terrae, visibilium omnium, et invisibilium** 「天と地、全ての見える物と見えない物」の造り主、ということです。

なお、**visibilium omnium** は、「全ての可視物」（visibilium が中性名詞 visibile の複数属格、omnium が形容詞 omnis の中性複数属格）とみることも、「見える全部」（visibilium が形容詞 visibilis の中性複数属格、omnium が中性名詞 omne の複数属格）とみることも可能です。

Credo から上記の部分までの節では、in ① unum Deum. ② Patrem omnipotentem ③ factorem caeli et terrae, visibilium omnium, et invisibilium. と、3つの言葉を使って、すべて「父なる神」に対する信仰を表現しています。「唯一の神」「全能の父」「全ての造り主」は、どれも「父なる神」を表す様々な表現です（別々のものを指しているのではなく、同一の物に対する異なる表現です）。

エトウ イン ウーヌム ドミヌム イェズム クリストウム、フィーリウム デイー ウーニジェニトゥム
/ét ín ú:-num dó-mi-num jé:-zum krís-tum, fí:-li-um dé-i: u:-ni-dʒé-ni-tum/

Et in unum Dominum Jesum Christum, Filium Dei unigenitum.



- ◆ 「唯一の主を、イエス・キリストを、神のひとり子を (私は信じる)」
= 「(我は信ず) 唯一の主、イエズス・キリストを。神のおんひとり子」

この文は、前の部分と続いて、語尾が **-m** で終わる単語のオンパレードです。これは「私は信じる」の対象が「in+対格」の形で列挙されているため (単数対格はほとんどの格変化で **-m** で終わる)、その分ははっきりと語尾の **-m** を発音しなければなりません。

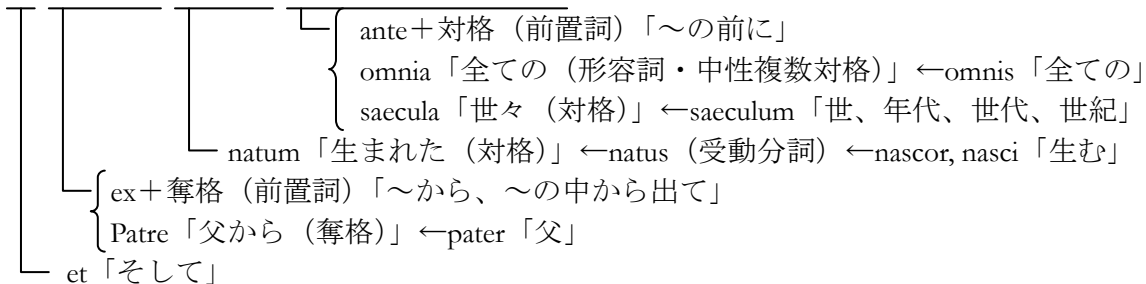
unum は「一つの(one)、唯一の(the only)」という意味の形容詞 **unus** の対格です。**unus** は仏語の **un, une** 「1」、イタリア語やスペイン語の **un, uno, una** 「1」、英語の **one, only** や **an, a** (冠詞)、ドイツ語の **Ein** 「1」等の語源である他、**unit** 「ユニット、単位」や **unite** 「一体化する」等の語源でもあります。**unus** は形容詞ですが、属格が **unius**、与格が **uni** です (共に男・女・中性で共通)。**Dominum** は **dominus** 「主」の対格、**Jesum Christum** は **Jesus Christus** 「イエス・キリスト」の対格です。

次の部分の **Filium Dei unigenitum** は「対格・属格・対格」の語順ですが、格が同じ物をワンセットにして **[Filium unigenitum] Dei** と並べてやることで、**Filium unigenitum** 「一人っ子の息子」に **Deus** 「神」の属格 **Dei** 「神の」が掛かっていることが分かります。従って、**Filium Dei unigenitum** は「神の、一人っ子の息子を」ということになります。このように、ラテン語はワンセットになるものは格や性が連動するので、ある程度語順が入れ替わっていても格と性でちゃんと言葉の掛かり合いが分かるのも特徴です。これは、書くときには便利ですが、読むときは不便ですね。

この1文では、**in** ①**unum Dominum** ②**Jesum Christum**, ③**Filium Dei unigenitum**. と、ここでも3つの言葉を使って、すべて「イエス・キリスト」に対する信仰を表現しています。「唯一の主」「イエス・キリスト」「神のひとり子」は、どれも「子なるイエス」を表す様々な表現です (別々のものを指しているのではなく、同一の物に対する異なる表現です)。

エトウ エクス パトゥレ ナートウム アンテ オムニア セークラ
/ét éks pá-tre ná:-tum án-te óm-ni-a sé:-ku-la/

Et ex Patre natum ante omnia saecula.



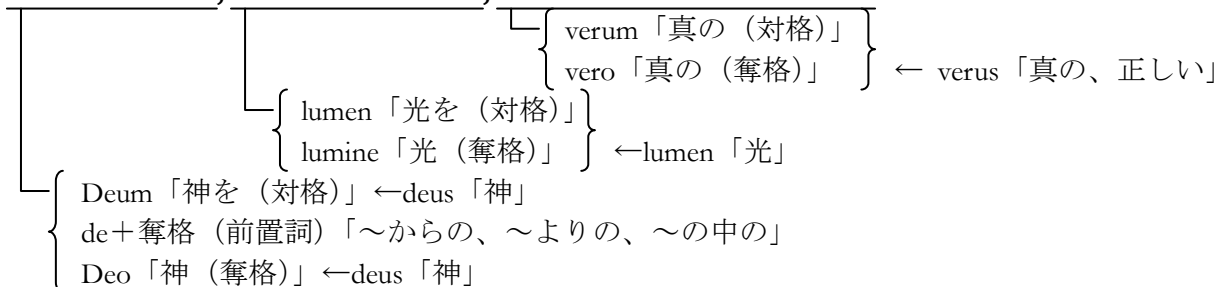
◆「そして、(その主イエスは) 全ての世々の前に、父から生まれた」
 = 「(主は) よろず世のさきに父より生まれ、」

ex は前置詞で英語の from や out of にあたり、「～の中から出て」という意味です。**ex** は後ろに奪格を取ります。**Patre** は確かに pater 「父」の奪格であり、**ex Patre** で「父から出て」となります。**natum** は natus 「生まれた(born)」の対格で、前に出てきた **unum Dominum Jesum Christum** へ後ろから掛かって形容しています(**unum Dominum Jesum Christum** が対格(**credo in**＋対格)なので、**natum** も対格です)。**ante** は前置詞で、英語の before 「～の前に」にあたり、後ろに対格を取ります。**omnia** は前にも挙げた「すべて」という意味の形容詞 omnis の中性複数対格です。**saecula** は中性名詞 saeculum 「年代、世代、世紀」の複数対格ですから、**omnia saecula** で「全ての時代、全ての世」(対格)ということで、**ante omnia saecula** で「全ての世に先立って」となります。

この部分は、前の **unum Dominum Jesum Christum** を形容している長い句ですが、これを後ろから訳し下すと大変面倒になるので、訳すときは「その主は～であった」と付け加えるのが良いでしょう(実際、聖書的な訳はそのようになっています)。

デウム デー デオー、ルーメン デー ルーミネ、デウム ヴェールム デー デオー ヴェーロー
 /dé-um dé: dé-o:, lú:-men dé: lú:-mi-ne, dé-um vé:-rum dé: dé-o: vé:-ro:/

Deum de Deo, lumen de lumine, Deum verum de Deo vero.



◆「神の中の神を、光の中の光を、真の神の中の真の神を」
 = 「神よりの神、光よりの光、まことの神よりのまことの神」

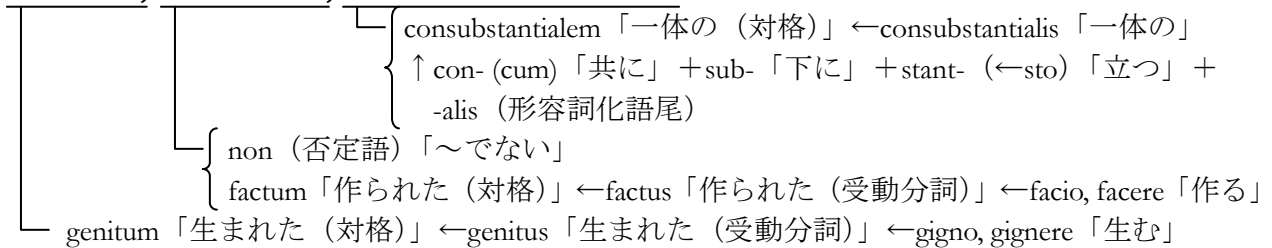
ここは「対格＋**de**＋奪格」という形が3つ並んでいます。前置詞 **de** は奪格を伴って「～から」という意味です。**ex** も「～から」という意味でしたが、ニュアンスとしては **ex** は中から外へ出る動作を伴う使い方、**de** は英語の from や of のような普通の「～から」「～に由来して」のような関係を表すと考えられます。**Deum** は Deus 「神」の対格、**Deo** はその奪格です。**Deum** が対格なのは、いまだ冒頭の「**Credo in**＋対格」の構文の中にいるから、**Deo** が奪格なのは前置詞 **de** の奪格支配の中にいるからです。**Deum de Deo** は「神からの神を」ということですが、これは「神の中の神を」といった感じでしょう。ラテン語としての表現がシンプルすぎるために、ラテン語を母語とした当時の人々の言語上のニュアンスを、他言語でつかみきれない表現の1つです(英語でも訳すときは直訳で、“God of God, Light of Light, very God of very God.”です)。

lumen は中性名詞 lumen 「光」の対格(形は同じ)で、**lumine** はその奪格です。**verum** は形容詞 verus 「正しい、真実の」の対格で、**vero** はその奪格です。なお、verus は形容詞のため、日本語に訳すときは対格であろうが奪格であろうが「まことの」という訳しかたに変わりはありません(名詞との訳しかたの違いに注意)。verus は英語の verify 「正しいことを確かめる」、veritable 「真実の」や very 「非常に、まさしく」や、仏語の vrai 「正しい」等の語源です。

ジェニトゥム、ノーシ ファクトゥム、コーンスプスタンツィアーレム パトゥリ

/dʒé-ni-tum, nó:n fák-tum, ko:n-sup-stan-tsi-á:-lem pá-tri/

Genitum, non factum, consubstantialem Patri:



◆ 「(主イエスは) 作られずして生まれ、父と一体である」

= 「造られずして生まれ、父と一体なり」

genitum 「生まれた」は動詞 gigno 「生む、生み出す」の完了受動分詞 genitus の男性単数対格です。完了受動分詞という点で難しいですが、受け身の意味（～された）と、完了時制の受動態（～された）を作るのに使います。英語の過去分詞にあたります。一方、**factum** 「作られた」も動詞 facio 「作る」の完了受動分詞 factus の男性単数対格です。ここでは **non** で否定しているので「作られずに」という意味になります。

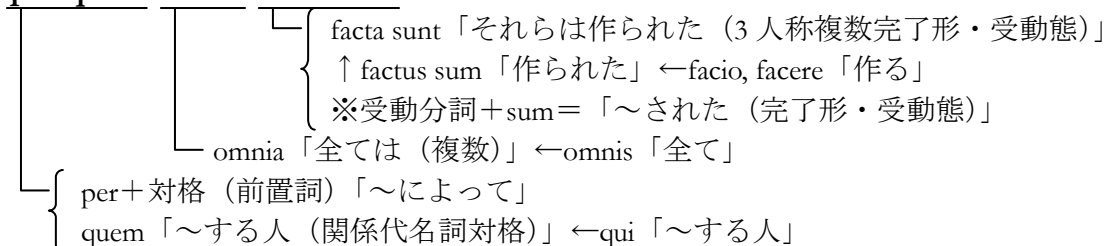
consubstantialem は形容詞 consubstantialis 「一体の」の対格です。con- とは前置詞 cum 「～と一緒に」のことで、「何かが付加される・何かが一緒である」という意味合いが込められます。substantia は、sub- 「～の下、～の基をなす」 + stantia 「本質(essence)」であり、英語の substance 「物質、実体」にあたります。stantia 自体は動詞 sto 「立つ」の名詞形の1つです。従って、consubstantia で「実体と一緒にになること、一体化すること」で、さらに -alis で形容詞化していますから、**consubstantialem** は「一体の」ということです。**Patri** は「父」pater の与格ですが、文法上、**consubstantialem** の対象の矛先を向けられているので、「父と一体の」という意味になります。キリスト教ではさらに「聖霊 Spiritus Sanctus」も加えた3者が一体である「三位一体(Trinitas、英語は Trinity)」の考え方が重要です。ここでは、「子であるイエス」と「父である神」が「一体である」と考えると、「子=父」となって問題が混乱します。ここでいう「一体」とは、「信仰の対象(格、ペルソナ)として同質である」と考えるべきでしょう。「子イエスに対する信仰上の格と、父なる神に対する信仰上の格は、同質である」と言うのと、まどろっこしいけれども、しっくりくるでしょうか。

なお、**consubstantialem** の途中の **-b-** は「ブ /b/」と濁らず、「プ /p/」で読みます。これは、**-bs-** という綴りは /ps/ と読むという発音規則があるためで、発音も /ko:n-sup-stan-tsi-á:-lem/ 「コーンスプスタンツィアーレム」のようになります (-bt-も同じ)。bs や bt の b を濁らず p で読むのは現代仏語にもそのまま受け継がれています。

ペル クェム オムニア ファクタ スントゥ

/pér kwém óm-ni-a fák-ta súnt/

per quem omnia facta sunt.



◆ 「その人 (主) によって、全ては作られた」

= 「すべては主によりて造られたり」

per は前置詞で、「～によって(by)、～を通じて(through)」という意味です。**quem** は関係代名詞 **qui** の男性単数対格で、**per** の後ろにあるので対格になっています。**per quem** は「その～によって (by whom)」という意味になります。**quem** は前に話題にした名詞を指していますから、ここでは主 (**unum Dominum Jesum Christum**) となります。**omnia** は **omnis** 「全て」の複数対格です。「全て」に単数・複数があるのは奇異かも知れませんが、普通、全体を 1 つのものとして見るときは単数、たくさんの物としてとらえるときは複数で扱います (これは英語の **all** も同じ語法です)。

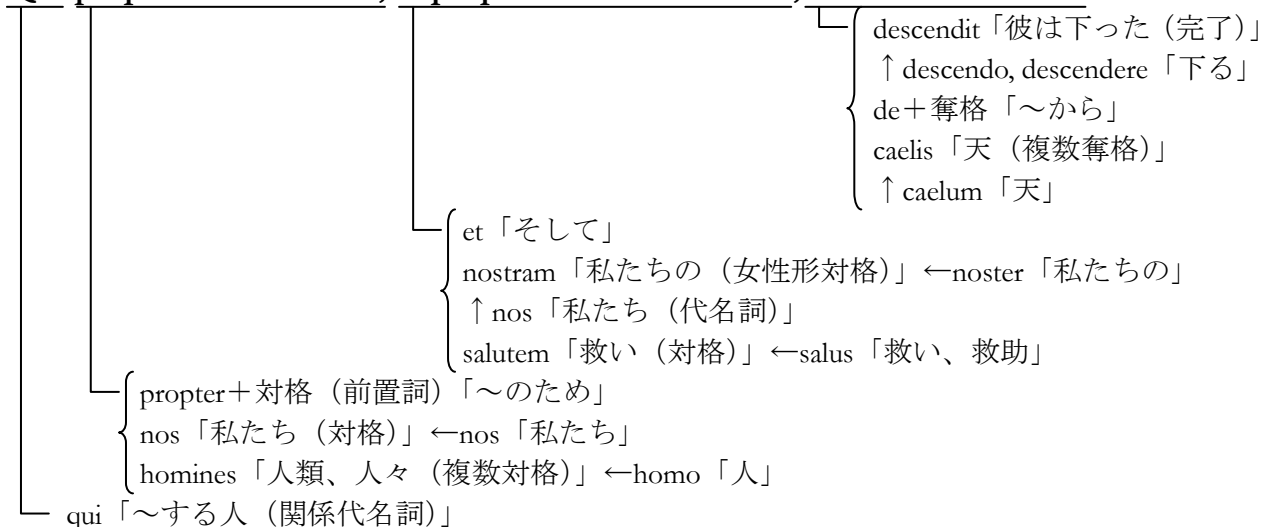
最後の **facta sunt** というのは動詞 **facio** 「作る」の活用で、直説法完了の受動態、平たく言えば「～されました」という、受身と過去を同時に表現する言い方です。**facta** は完了受動分詞 **factus** の中性複数で、主語の **omnia** 「全て」(中性複数) と性・数・格が一致しています。**sunt** は、P.7 でも述べたように英語の **be** 動詞にあたる **esse** (基本形 **sum**) の 3 人称複数に対応した活用です。つまり「完了受動分詞+**esse** (**sum**)」は完了形受動態になります。英語の「**be**+過去分詞」が受動態なのと似ていますね。ただし、ラテン語では **sunt** が現在形でも、**facta sunt** と言うと 2 単語で完了時制 (過去形) になることに注意しましょう。

動詞	facio 「作る」 (3 人称複数のみ掲載)	
	能動態	受動態 (受け身)
現在形	faciunt それらは作る	(fiunt)* (それらは作られる)
完了形	fecerunt それらは作った	facti sunt (男性複数) factae sunt (女性複数) facta sunt (中性複数) それらは作られた

※**facio** の現在形は受動態がない。別の動詞 **fio** 「作られる」を使う。

クィー プロプテル ノース オミネース、エトゥ プロプテル ノストラム サルーテム、デーシェンディトゥ デー チェーリース
/kwí: próp-ter nó:s ó-mi-ne:s, ét próp-ter nós-tram sa-lú:-tem, dei-jén-dit dé:tjé:-li:s/

Qui propter nos homines, et propter nostram salutem, descendit de caelis.

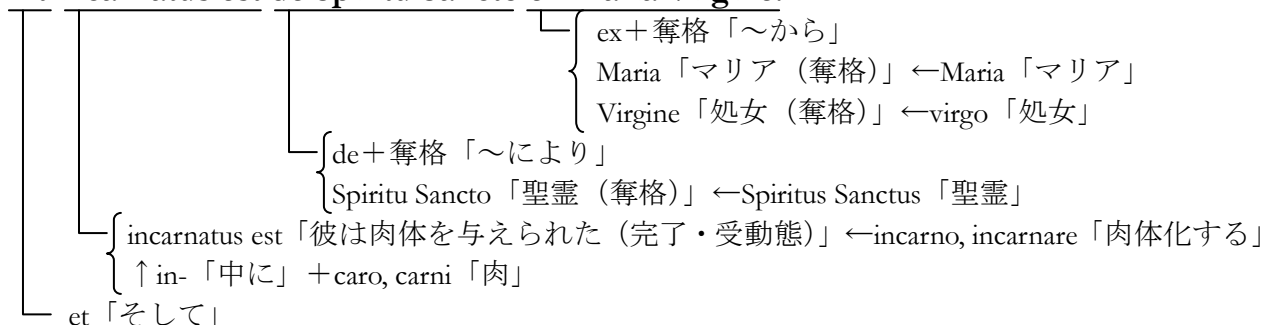


動詞 *salvo* 「救う、守る」と、動詞 *salveo* 「健康である」の両方の名詞形です。ちなみに後者の命令形 “*Salve.*” (相手が複数なら “*Salvete.*”) はラテン語で「こんにちは」の挨拶です。覚えておく
と便利かも知れません。反対に「さようなら」は “*Vale.*” (相手が複数なら “*Valete.*”) と言います。

次の **descendit** は、このミサ曲で初めて出てくる「直説法完了」の活用です (先ほどの完了の受動態)。**descendit** は *descendo* 「下る」という意味です。次の **de caelis** は、**de** が *from* の意味の前置詞、**caelis** が *caelum* 「天」の奪格 (複数形) ですから、「天から」という意味になります。

エトゥ インカルナトゥス エストゥ デー スピーリトゥー サンクトー エクス マリーアー ヴィルジネ
/ét in-kar-ná:-tus ést dé: spí:-ri-tu: sánk-to: éks ma-rí:-a: vír-dʒi-ne/

Et incarnatus est de Spiritu Sancto ex Maria Virgine:



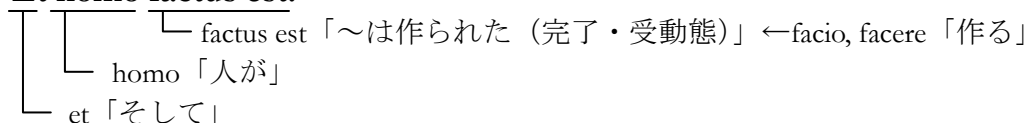
◆ 「そして (彼は) 聖霊により、処女マリア (の中) から肉体を与えられた」
= 「聖霊によりて、処女マリアよりおんからだをうけ、」

この部分は、キリスト教の秘蹟の 1 つである「処女懐胎」をうたったところです。文章としては前の文から続いているのですが、音楽的にはこの部分で一度区切りになることが多いようです。**incarnatus est** は動詞 *incarno* 「肉体化する」の完了受動態です。形としては、**in-**「中に」+ **carni-** (← *caro*) 「肉」という成り立ちで、「肉を中に入れる」ということから「肉体を与える、人間の姿を与える」という意味になります。「何によって」かと言うと、その動作主は **de** 以下で与えられていて、**de Spiritu Sancto** 「聖霊によって」とあります。そして「どこから」かと言うと、**ex Maria Virgine** 「処女マリアから出て」とあります。**Maria** は言うまでもなく人名「マリア」のことです。ここでは奪格として **Maria** となっています。**virgine** は女性名詞 *virgo* 「処女」の単数奪格です。ちなみに星座の「乙女座 (処女宮)」も *Virgo* と言います。**Maria Virgine** は「処女マリア」という一くくりの言葉ですから、間で切らないように注意しましょう (*Jesum Christum* や、*Spiritu Sancto* も同様に間で切ってはいけません)。

なお、*Maria* は日本語では「マ」を強く短く「マリア様」のように呼ぶ習わしがありますが、ラテン語では「リー」の方を強く長く「マリーア」のように呼びます。もしラテン語で「マリア」と読むと、それは *maria* 「複数の海」(複数主格。単数は *mare*) という全く関係のない単語になってしまいます。このように母音の長短とアクセント位置は大変大きな意味を持ちます。

エトゥ オモー ファクトゥス エストゥ
/ét ó-mo: fák-tus ést/

Et homo factus est.



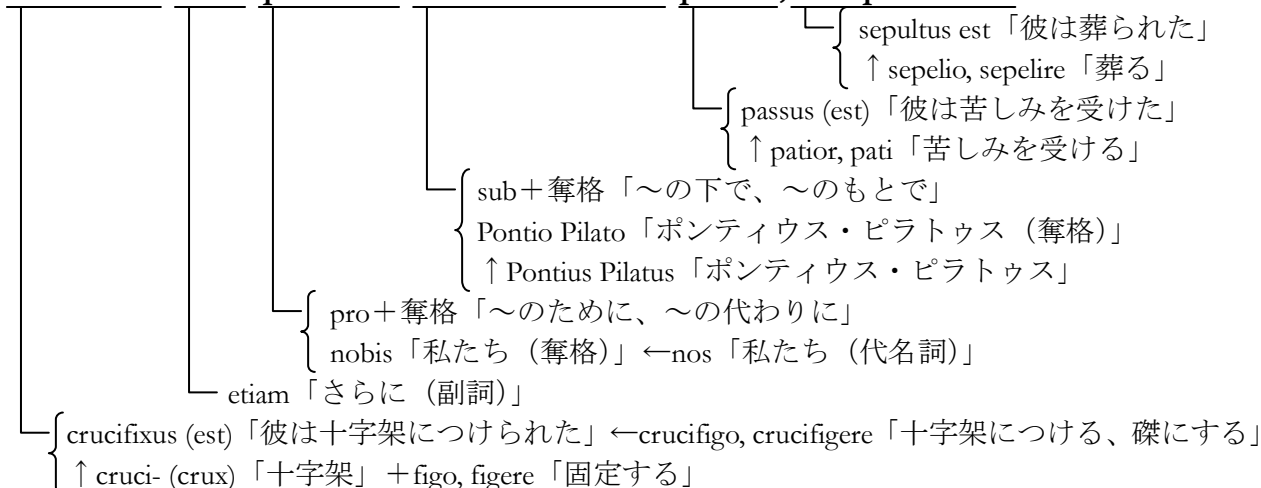
◆ 「そして人が作られた」

= 「人となりたまえり」

homo は「人 (1 人の人)」です。**factus est** は前も述べたように「完了受動分詞 factus + est」で「作られた」という意味ですから、「人が作られた」ということです。

クルチフィクス エツィアム プロー ノービス、サブ ポンティオー ピーラートー パッスス、エトゥ セプルトゥス エストゥ
/kru-tʃi-fi:k-sus é-tsi-am pró: nó:-bis, súb pón-tsi-o: pi:-lá:-to: pás-sus, ét se-púl-tus ést/

Crucifixus etiam pro nobis: sub Pontio Pilato passus, et sepultus est.



- ◆ 「彼はさらに、私たちのために十字架につけられ、ポンティウス・ピラトゥスのもとで苦しみを受け、そして葬られた」
= 「ポンティウス・ピラトゥスのもとにて、われらのために十字架に (まで) つけられ、苦しみをうけ、葬られたまえり」

この 1 節はイエスが磔 (はりつけ) にあい処刑されたところをうたっています。この部分も音楽的な区切りが置かれることが多いですが、文章としてはイエスの過去のエピソードの一部です。

文章的には、この辺は完了受動態のオンパレードです。完了受動態では、必ず英語の be 動詞にあたる **esse** の活用形を用います。しかし、一度に何回も出てくるときは最後の **est** しか書かれません。この文では、**crucifixus est, passus est, sepultus est** の 3 つが並んでいるのですが、3 回 **est** を書くことはせず、最後の 1 つだけになっています (**Crucifixus, passus, et sepultus est.**)。

まず最初の **crucifixus est** は、動詞 crucifigo 「十字架にかける、磔にする」の完了受動分詞 crucifixus + est ですから「十字架にかけられた」という意味です。cruci- (← crux) 「十字架」 + figo 「固定する」という成り立ちです。crux 「十字架」は、英語の cross、仏語の croix、独語の Kreuz 等の語源ですし、英語でも the Crux と言えば「南十字星」を指します。**etiam** は副詞で「さらに、～までも」という意味です。**pro** は前置詞で後ろに奪格をとり、「～のために、～の代わりに」という意味で、英語の for に似た用法です。後ろの **nobis** は nos 「我々」の奪格ですから、**pro nobis** で「我々のために、我々の代わりに」です。

次の **sub** も前置詞で「～の下に、～のもとで」という意味で、やはり後ろに奪格をとります。次の **Pontio Pilato** は人名ですが、これは奪格形で、主格に戻した Pontius Pilatus が本名です。ミサ曲中では奪格の Pontio Pilato の形でしか出てこないのが、これが本名と思われがちですが、あくまで主格の Pontius Pilatus が本来の形です。ポンティウス・ピラトゥスは、イエスが処刑された当時のユダヤ (パレスチナ南部の古代ローマ領) の総督であった人物のことです。ポンティウス・ピラトゥスが本名ですが、教会ラテン語発音に即してポンツィウス・ピラトゥスと呼ばれることもありますし、ミサ曲中の語形に即してポンツィオ・ピラトと呼ばれることもありますし、あるい

は別系統でポンテオ・ピラトなどと呼ばれることもあります。

次の **passus est** は、形の上では完了受動態ですが、これは以前にも出てきた形式受動態動詞（異態動詞）、つまり形は受動態なのに意味は能動態という変な動詞 **pator**「苦しみを被る」の単なる完了形です。難しいことはともかく、**passus est** で「苦しみを受けた」ということです。

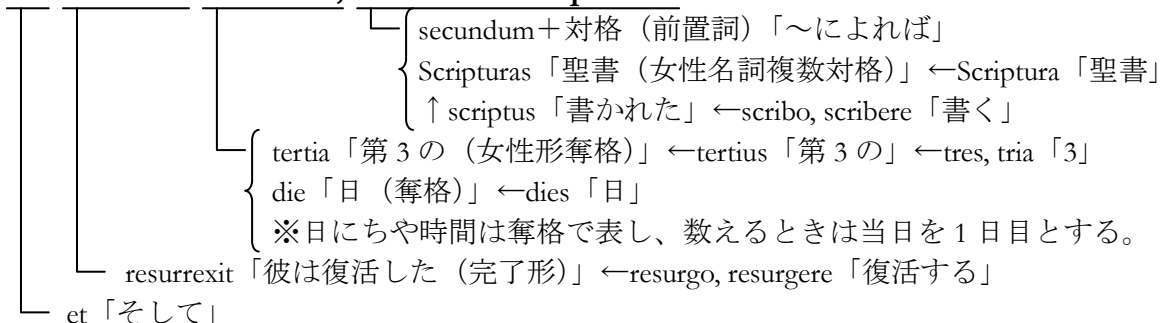
sepultus est は動詞 **sepelio**「葬る」の完了受動態で、「葬られた」の意味です。

3つの動詞が同じ形をしていますが、**crucifixus est** は完了形受動態、**passus est** は「完了形能動態」、**sepultus est** は完了形受動態、と異なります。で、それぞれの **est** は最後の1つを除き省略されている、という形に注意しましょう。

エトウ レズッレークシトゥ テルツィアー ディエー、セクンドゥム スクリープトゥーラース

/ét re-zur-rék-sit tér-tsi-a: dí-e:, se-kún-dum skri:p-tú:-ra:rs/

Et resurrexit tertia die, secundum Scripturas.



◆「そして、聖書によれば、彼は3日目（＝2日後）に復活した」
＝「聖書にありしごとく、三日目によみがえり、」

そしてここは「イエスの復活」というもう1つの秘蹟をうたっています。ここも、音楽的には切れ目が置かれることが多くなっています。

resurrexit は動詞 **resurgo**「再び起きあがる、復活する」の完了形3人称単数で、「彼は復活した、彼はよみがえった」ということです。**surgo** 単独では「起きあがる」という意味で、**re-**「再び」という接頭辞がついて「再び起きあがる＝復活する」という意味になります。

tertia die は奪格句で、主格なら **tertia dies**「第3の日」です。ラテン語では日時の関係は奪格で書く決まりになっています。**tertia** は形容詞 **tertius**「第3の」の女性形で、数詞 **tres**「3」の序数詞です。**dies** はミサ曲唯一の第5格変化の名詞で、これでミサ曲に現れる名詞の格変化は第1～第5まで全種類出揃いました。**dies** は不思議な名詞で、本来男性名詞ですが、特定の日を指すときは女性名詞にもなります。さて、ラテン語の日にちの数え方ですが、重要なポイントとして「何日後」を表す表現が無いということです。かわりに、基準の当日を含めて「第何日目」という表現をします。従って、**tertia die** は「イエス処刑の当日から数えて第3日目に」です。処刑当日が1日目ですから、復活は処刑から3日目＝2日後ですね。3日後ではないから注意しましょう。実際、イエス処刑は金曜であり、イエス復活は日曜ですから、確かに2日後です。

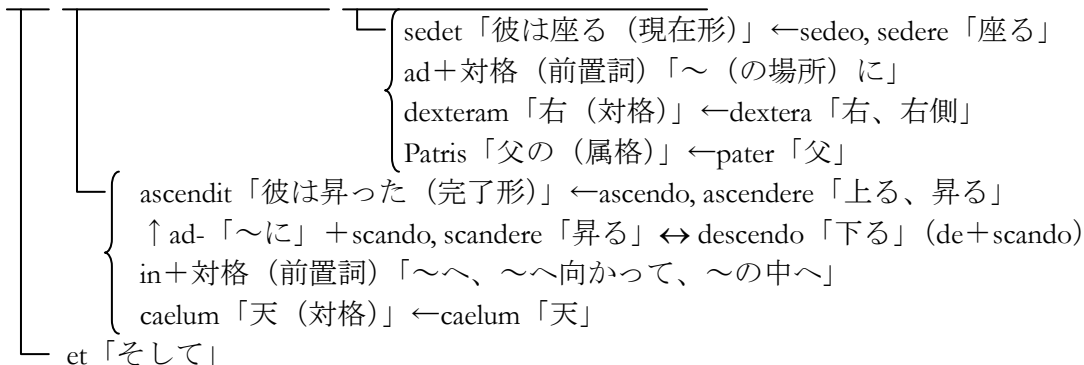
名詞	第5格変化
主格	dies 日は
属格	diei
与格	diei
対格	diem
奪格	die
呼格	dies

(単数のみ掲載)

次の **secundum** は前置詞で「～によると」で、後ろに対格をとります。**Scripturas** は女性名詞 **scriptura**「書いたもの」の複数対格です。大文字ですから限定されて「聖書」を指します。英語でも **Scripture** といえば聖書(Bible)のことを指します。聖書は旧約も新約も1冊の本ではなく、複数の書物の集まりですから(旧約聖書は39冊、新約聖書は27冊)、複数形の **Scripturas** が用いられていると考えられます。

エトウ アーシェンディトゥ イン チェールム、セデトゥ アドゥ デクステラム パトゥリス
/ét a:-fén-dit ín tʃé:-lum, sé-det ád déks-te-ram pá-tris/

Et ascendit in caelum: sedet ad dexteram Patris.



◆ 「そして彼は天に昇った。彼は (今) 父の右に座っている」
= 「天にのぼりて父の右に座したもう」

ascendit は **descendit** の反対語です。 **descendit** 「彼は下った」 が descendo 「下る」 の完了形だったように、 **ascendit** 「彼は昇った」 は ascendo 「昇る」 の完了形です。ちょうど、**de-** が英語の from、**ad-** が英語の to にあたり、動作の向きが反対の言葉になっています。イエスはまず天から下って (descendit)、肉体を受け (=生まれ)、処刑ののち復活して天へ昇った (ascendit) というわけです。

次の **in** は前置詞ですが、ここは極めて重要な用法で使われているので注意しましょう。ミサ曲では何度も **in** という前置詞が出ていますが、そのほとんどは後ろに奪格をとり (in terra や in caelis のように)、「～において」という意味を表します。英語の in や at とほぼ同様です。しかし、**in** という前置詞はもう 1 つ、後ろに対格をとる用法があり、この場合は「～へ、～へ向かって、～の中へ」という英語の into にあたる意味を持ちます。この **in caelum** では、**caelum** 「天」が対格ですから、「天に向かって」という意味になります。

in caelum (対格) 又は in caelos (複数対格) ならば、「天に向かって、天へ」の意味
in caelo (奪格) 又は **in caelis** (複数奪格) ならば、「天において、天で」の意味

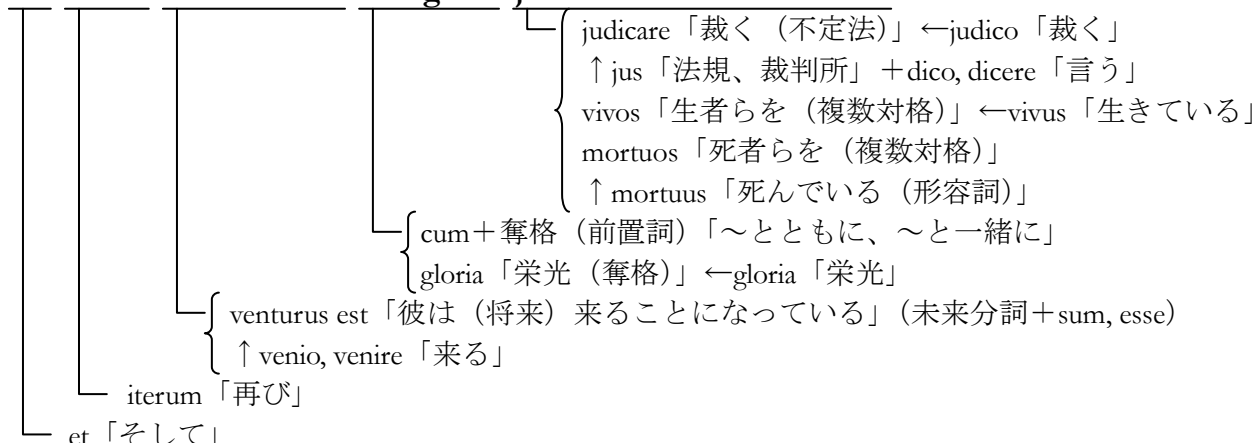
前置詞 **in** がこの用法で使われるケースが少ないため、また対格をとるか奪格をとるかで意味が変わることがあまり知られていないため、また英語の in と同様な意味合いでとられることが多いため、世の中でも誤訳が見受けられます。例えば、“**In Paradisum**” というタイトルに「楽園にて」という訳が付けられていますが、これは正しくは「楽園へ」「楽園に向かって」にすべきです。(Paradisum は Paradisus 「楽園」の対格。もし「楽園にて」と言いたいなら、“**In Paradiso**” でなければならぬ)

sedet は sedeo 「座る」の 3 人称単数で、「彼は座る、座っている」です。ここまでのイエスのエピソードはすべて完了形 (過去のこと) であるのに対し、**sedet** が現在形であるという点に注意しましょう。だから「座った」のではなく、「今なお (この瞬間も) 座っている」のです。**ad dexteram Patris** は、Gloria でも出てきたとおり、「父の右側に」です。従って、sedet ad dexteram Patris で「彼は (今) 父の右に座っている」となります。イエスは昇天後、このミサ通常文が成立したときも、そして今この時も、変わらず父の右に座っている、ということです。

なお、Gloria では、**qui sedes ad dexteram Patris** というように、**sedes** 「あなたは座る」でした (主に対する呼び掛けのため「あなた」が主語になっている)。Credo ではイエスのエピソードとして述べているため **sedet ad dexteram Patris** のように主語は「彼」になっています。**sedes** と **sedet** の違いがあるので注意しましょう。

エトウ イテルム ヴェントウールス エストウ クム グローリアー ユーディカーレ ヴィーヴォース エトウ モルトウオース
/ét í-te-rum ven-tú-rus ést kúm gló-ri-a: ju-di-cá:-re ví-vo:s et mór-tu-o:s/

Et iterum venturus est cum gloria judicare vivos et mortuos.



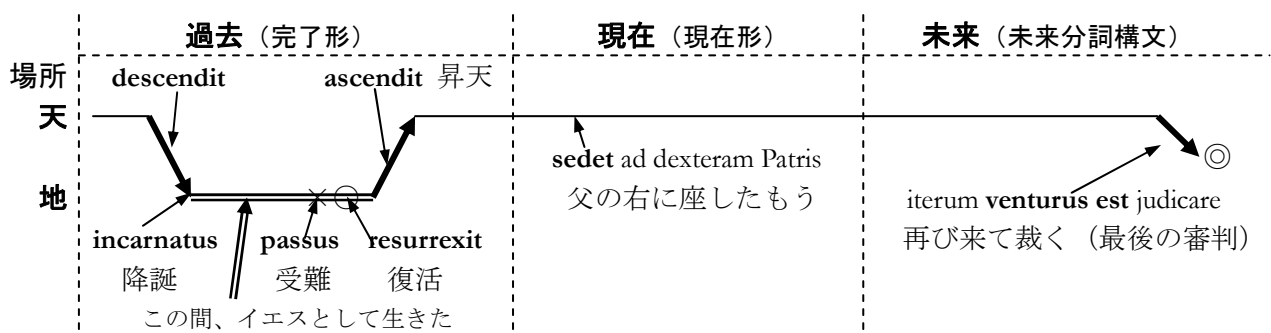
◆「そして(将来)彼は再び栄光と共に来ることになっていて、(その後)生者らと死者らを裁く」
＝「(主は)栄光のうちに再び来たり、生ける人と死せる人とを裁きたもう」

iterum は副詞で「再び」です。**venturus** は動詞 *venio* 「来る」の未来能動分詞というもので、将来の動作に関する言葉です。**venturus est** で概ね未来形のように思っていて、「将来、やって来ることになっていて」という感じです。次の **cum** は英語の *with* ですから、**cum gloria** で「栄光をもって、栄光とともに」(この **gloria** は奪格ですので語尾の **-a** は長母音です) です。

次の **judicare (iudicare)** は、動詞の不定法そのもので、動作の続きや動作の目的を表します。ミサ曲で動詞の不定法が登場するのはここ1ヶ所だけです。**judicare** は「裁く」という意味で、基本形は *judico* です。英語の *judge* 「裁く」の語源です。成り立ちは、*jus* 「法規」+ *dico* 「言う」です(*jus* 「法規」の方は、英語 *justice* の語源です)。**judicare** が不定法になっていますが、不定法は英語の「to 不定詞」に似ていて、動作の目的として「裁くために、将来やって来る」と訳すことも、動作の続き(連続)として「将来やって来て、裁く」と訳し下すことも出来ます。この場合もどちらでも言っていることは同じことになるでしょう。なお、古典ラテン語では不定法を「動作の目的(〜するために)」を表す副詞句に使うのはむしろ稀な用法でした。

次の **vivos** は形容詞 *vivus* 「生きている」の複数対格で「生者たちを」という意味。次の **mortuos** は形容詞 *mortuus* 「死んでいる」の複数対格で「死者たちを」という意味です。この2つは **judicare** 「裁く」の目的語になっているので、**judicare vivos et mortuos** で「生者たちと死者たちを裁くために」となります。

この文の動詞は *venturus est* で未来の内容(予定)でした。ここまでのイエスのエピソードの動詞の時系列を見ると、過去のこと、現在の状態、将来の予定がすべて書かれていて、それが動詞の「時制」を見れば分かるようになっています。



クーユス レーニー ノーン エリトゥ フィーニス

/kú:-jus ré:-ni: nó:n é-rit fí:-nis/

cujus regni non erit finis.

non 「～ない (否定語)」
erit 「それは～だろう (未来形)」 ←sum, esse 「である、在る」
finis 「終わりは (主格)」
cujus 「その人の (関係代名詞属格)」 ←qui 「その人は」
regni 「王国の (属格)」 ←regnum 「王国」 ←rego, regere 「支配する、治める」、rex 「王」

◆ 「その人の王国の終わりは無いだろう」

= 「主の国は終わることなし」

冒頭の **cujus (cuius)** は関係代名詞 qui の属格です。qui が前の名詞を指して「その～は」と主語になるのに対し、**cujus** は前の名詞を指した上で「その～の」となります。英語の関係代名詞 whose にあたります。なお、**cujus** の発音を /kú:-jus/ 「クーユス」で表記しましたが、母音に挟まれた j は手前に余計に i を発音する規則もあり、/kú-i-jus/ 「クイユス」が正しいかもしれません。

cujus が掛かっている **regni** は regnum 「王国」の属格なので、**cujus regni** で「その人の王国の」となります。**regni** の発音は「レーニー /ré:-ni:/」ですので注意しましょう。/ni/ の部分は、agnus と同様、ニヤ行の音です (ただしニヤ行のイなので、「ニ」に近い)。

次の **erit** は sum, esse の未来形で「～だろう、～があるだろう」という意味です。英語の will be です。ここでは **non** で否定しているので、「無いだろう」ということです。何が無いのかというと、最後の **finis** 「終わり、限り、終焉」で、これがこの文の主語です。この **finis** に、先ほどの **cujus regni** 「その人の王国の」が遠くから掛かっている構造になっています。**cujus regni** と **finis** が離れていますが、ワンセットで **cujus regni finis** 「その人の王国の終わりは」となり、それが **non erit** 「無いだろう」と言っているわけです。

この文は「主の国は終わること無し」という訳につられて、主語が「王国」だと勘違いされていますが、ラテン語としての文の解釈では「主の国の終わりは、無いだろう」が正解です。

○ 「主の国の終わりは、無いだろう」

× 「主の国に、終わりは無いだろう」

× 「主の国は、終わることは無いだろう」

わざわざ **finis** を後ろに持っていかに、**cujus regni finis non erit** でも良さそうですが、ラテン語では、be 動詞にあたる動詞 sum, esse (ここでは活用して **erit**) で「A がある (無い)」と言う時は、主語の A は sum の後ろに置くのが通例です。だから、この文でも主語の **finis** だけが分離して後ろへ飛んでいってしまっていると考えられます。

なお、**cujus** の指す名詞は **cujus** の前にあるはずですが、ここでは直前ではなく、ずっとずっと前にさかのぼり、**unum Dominum Jesum Christum** です。

エトゥ イン スピーリトゥム サンクトゥム、ドミヌム エトゥ ヴィーヴィフィカンテム

/ét ín spí:-ri-tum sánk-tum, dó-mi-num ét vi:-vi-fi-kán-tem/

Et in Spiritum Sanctum, Dominum et vivificantem:

in+対格 「～に対して、～に向かって」 → Credo in ～ 「私は～を信じる」の続き。
Spiritus Sanctus 「聖霊を (対格)」 ←Spiritus Sanctus 「聖霊」
Dominum 「主を (対格)」 ←dominus 「主」
vivificantem 「生命の与え主を (対格)」 ←vivificans 「生命の与え主」
↑ vivifico, vivificare 「生命を与える」 ←vivi- 「生命」 + facio, facere 「作る」
et 「そして」

◆「そして私は、聖霊を、主を、生命の与え主を（信じる）」
 = 「(われらは信ず) 主なる聖霊、生命の与え主を」

ここで再び最初の **Credo** の目的語がやってきました。ここは「**Credo in**＋対格」の第3のブロックで、聖霊に関する部分です。従って、この手前で一度音楽的な切れ目になることが多くなっています（Credo の中で、文章ブロックの切れ目と音楽的な切れ目が一致する唯一の場所）。

Spiritum Sanctum（主格は Spiritus Sanctus）は何度も出てきた「聖霊」です。**Dominum** は Dominus の対格で「主を」、**vivificantem** は名詞 vivificans「生命の与え主」の対格で「生命の与え主を」です。**vivificantem** (vivificans)は、vivi-「生命」＋facio, facere「作る」から派生した名詞です。

ここでも Credo の目的語として3つの名詞 **Spiritum Sanctum, Dominum, vivificantem** が列挙されていますが、これらは別々のものを指すのではなく、全て「聖霊」に対する異なる表現です。これは、既に出てきた2つのブロックである「父」「子」の部分でも同じでした。まとめてみますと、

第1ブロック「父」

{	Credo in ① unum Deum	唯一の神
	② Patrem omnipotentem	全能の父
	③ Factorem	天と地、見える物見えない物全ての創造主

第2ブロック「子」

{	Et (credo) in ④ unum Dominum	唯一の主
	⑤ Jesum Christum	イエス・キリスト
	⑥ Filium Dei unigenitum	神のひとり子

第3ブロック「聖霊」

{	Et (credo) in ⑦ Spiritum Sanctum	聖霊
	⑧ Dominum	主
	⑨ vivificantem	生命の与え主

これを見ると、キリスト教の三位一体「父・子・聖霊」の3つがそれぞれこの順序で述べられ、そのそれぞれがまず最初に3つの異なる表現で言及されていることが分かります。構造的に整った（かつキリスト教で大切な3という数字が基調の）構成になっていることが分かります。

（実際には Credo の目的語には第4のブロック「教会」があるのですが）

クィー エクス パトゥレ フィーリオークエ プローチエーディトゥ

/kwí: éks pá-tre fi:-li-ó:-kwe pro:-tjé:-dit/

qui ex Patre Filioque procedit.

{	{	procedit「進み出る（3人称単数）」←procedit, procedere「進み出る」
		↑pro「前へ」+cedo, cedere「歩いていく、行く、動く」
		ex+奪格（前置詞）「～から出て、～の中から」
		Patre「父（奪格）」←pater「父」
		Filioque「息子と（奪格）」←filio「息子（奪格）」+-que「～と」←filius「息子」
{	↑「A B-que」は、「A et B」と同じ。	
	qui「その人は、その～は（関係代名詞）」	

◆「それ（聖霊）は、父と息子とから進み出る」
 = 「聖霊は、父と子とより出で、」

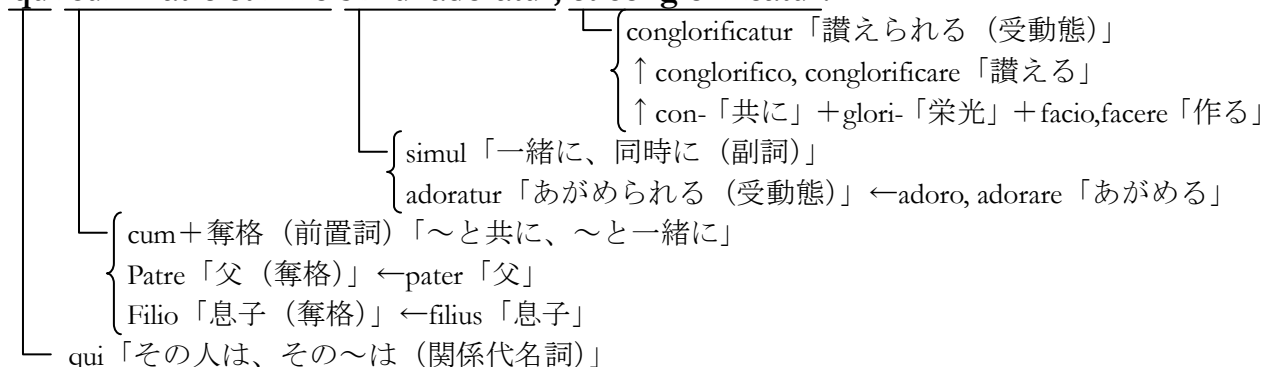
qui は関係代名詞で、ここでは直前に出た「聖霊」を指します。次の **ex Patre Filioque** ですが、

まず **filioque** とは、*filius*「息子」の奪格 *filio* の語尾に **-que** が付いた形になっています。ラテン語では、「A と B と」と言うときに、名詞を並べて *et* で区切る他に、名詞を列挙した上で、2 番目以降の名詞の語尾に **-que** をつける方法があります。よって、**ex Patre Filioque** は、*ex Patre et Filio* と同じで「父と息子とから」という意味になります。なお、**Filioque** の考えはギリシャ語原典には存在せず、「父より出で」だけでした。ギリシャ正教に由来する東方教会と、**Filioque** が加わって「父と子とより出で」とする西方教会との間にあるこの解釈の問題を「**Filioque 問題**」というようです。

procedit は動詞 *procedo*「進む」の 3 人称単数現在形です。英語の *proceed* にあたります。

クィー クム パトゥレ エトゥ フィーリオー スィムル アドーラートゥル、エトゥ コングローリフィカートゥル
/kwí: kúm pá-tre ét fī-li-o: sí-mul a-do:-rá:-tur, ét koŋ-glo:-ri-fi-ká:-tur/

qui cum Patre et Filio simul adoratur, et conglorificatur:



◆ 「その聖霊は、父と息子とともに、同時にあがめられ、讃えられる」
＝ 「父と子とともに拝みあがめられ、」

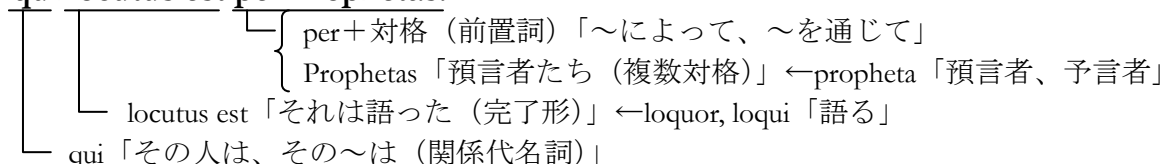
cum Patre et Filio は「父と息子と共に」です。**Patre, Filio** ともに奪格です。**simul** は「同時に、一緒に」という副詞です。英語の *simultaneous* 「同時の」や *simulation* 「シミュレーション」等の語源です。

adoratur はミサ曲で初めて登場する現在形の受動態です (完了形の受動態は何度も出てきました)。**adoratur** は動詞 *adoro*「崇拝する」の受動態「崇拝される」の 3 人称単数にあたる形です。*adoro* という動詞は、*Gloria* でも “**Adoramus te.**” の形で (これは能動態) 登場しました。次の **conglorificatur** は、動詞 *conglorifico*「あがめる」の受動態「あがめられる」です。*conglorifico* は *glorifico* と意味は同じです。*glorifico* は、*Gloria* でも “**Glorificamus te.**” の形で登場しました。

クィー ロクートゥス エストゥ ペル プロフェータース

/kwí: lo-kú:-tus ést pér pro-fé:-ta:s/

qui locutus est per Prophetas.



◆ 「その聖霊は、預言者たちを通じて (介して) 語った」
＝ 「また預言者によりて語りたまえり」

locutus est は動詞 *loquor*「語る、しゃべる」の完了形で、「語った」という意味です。*loquor* という動詞はこれまでも少しだけ出てきた形式受動態動詞 (異態動詞) で、「語る」という能動態に

も関わらず、語形が loquor という受動態の形をしています。従って、これを完了形にすると、形の上では完了受動態になり、locutus est となります。形の上では完了受動態ですが、意味は単なる完了形で「語った」となるから注意しましょう（「語られた」ではありません）。locutus est が形の上では受動態であることや、この前の文章に adoratur, conglorificatur という2つの（本当の）受動態があることから、この文章も誤って受動態に訳してしまうケースがあるようです。異態動詞は少数ながら基本動詞が結構あり、ミサ曲中でも passus est 「苦しみを受けた」（基本形 patior）や miserere 「憐れみたまえ」（基本形 misereor）などが同類です。

per は「～によって」という前置詞ですが、「～を通じて（通って）、～を介して」という意味もあります。Prophetas は propheta 「預言者」の複数対格です。propheta は、第1格変化（女性名詞型）をする数少ない男性名詞です。agricola 「農夫」、poeta 「詩人」、propheta 「預言者」、nauta 「水夫」等が男性名詞なのに女性名詞型の格変化をする例外的な名詞です。

従って、locutus est per Prophetas は「預言者を通じて語った」という意味になります。主語は qui （ここでは「聖霊」）なので、「聖霊は、預言者を通じて語った」となります。聖霊は自分では言葉を発することが出来ないので、神の意志を、預言者を介して（スポークスマンにして）人々に伝えた、という意味です（だから預言者は神の「言葉」を「預かって」伝える者なわけです）。

ここまでは、聖霊に関するブロックです。

エトウ ウーナム サンクタム カトリカム エトウ アポストリカム エックレーズィアム

/ét ú:nam sánk-tam ka-tó-li-kam ét a-pos-tó-li-kam ek-klé:-zi-am/

Et unam sanctam catholicam et apostolicam Ecclesiam.

unam 「一つの、唯一の（女性形対格）」 ← unus 「一つの、唯一の（形容詞）」
 sanctam 「聖なる（女性形対格）」 ← sanctus 「聖なる（形容詞）」
 catholicam 「普遍的な、万人の（女性形対格）」 ← catholicus 「普遍的な（形容詞）」
 apostolicam 「使徒継承の（女性形対格）」 ← apostolicus 「使徒継承の」 ← apostolus 「使徒」
 Ecclesiam 「教会を（対格）」 ← ecclesia 「教会（女性名詞）」
 et 「そして」

◆ 「そして、唯一の、聖なる、万人のための、使徒継承の教会を（私は信じる）」
 = 「(われは) 一・聖・公・使徒継承の教会を信じ、」

この文は、Credo の冒頭から脈々と続いてきた「私は～を信じます」の最後のブロックです。Credo の目的語なので、すべて対格です。また、ある意味で専門用語だらけの文です。まずこの文は、形容詞が4個並んでいます。unam は形容詞 unus 「1つの、唯一の」の女性形単数対格、次の sanctam は sanctus 「聖なる」の女性形単数対格、次の catholicam は catholicus 「普遍的な、万人の」の女性形単数対格、次の apostolicam は apostolicus 「使徒継承の（使徒によって伝えられた）」の女性形単数対格です。catholicus はもともとギリシャ語で、kata+holos （どちらも「全て」の意）から来ています。形容詞 apostolicus は名詞 apostolus 「使徒」の派生語ですが、apostolus ももともとギリシャ語で「使い、メッセンジャー」の意味でした。

Ecclesiam は女性名詞 ecclesia 「教会」の対格で、これももともとギリシャ語の「集会」という言葉であり、ek 「外に」+kaleo 「呼ぶ」= 「呼び出す、召喚する」という語でした。

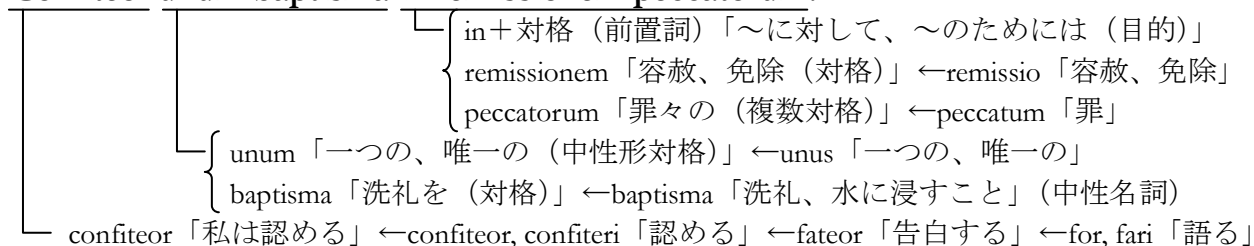
よく「一・聖・公・使徒継承の教会」という訳が見られますが、わざわざ難解に言う必要はありません。早い話が、「唯一の、聖なる、万人のための、使徒によって継承された教会」ということで、その方が分かりやすいと思います。

また、この文は、形容詞4個の途中にある et のせいで、その前後で文を切る誤った解釈もありますが、et はあくまで形容詞4個をつなぐものであり、形容詞4個が全て最後の Ecclesiam に掛かっていますから注意しましょう。

- × unam sanctam catholicam et apostolicam Ecclesiam
(unam で sanctam な catholicam と、apostolicam な教会)
- unam sanctam catholicam et apostolicam → Ecclesiam
(unam で sanctam で catholicam で apostolicam な教会)

コーンフィテオル ウーヌム バプティスマ イン レミッスィオーネム ペッカーートルム
/ko:n-fí-te-or ú:-num bap-tís-ma ín re-mis-si-ó:-nem pek-ka:-tó:-rum/

Confiteor unum baptisma in remissionem peccatorum.



- ◆ 「私は、罪の容赦 (解放) のための唯一の洗礼を認める」
- = 「罪のゆるしのためなる唯一の洗礼を認め、」

confiteor は「認める、告白する」という意味です。1 人称単数現在形なので「私は認める」です。Credo の中の 3 つの大ブロックである **Credo** 「私は信じる」、**Confiteor** 「私は認める」、**Exspecto** 「私は待ち望む」の第 2 番目です (Credo の中で、読み手 (= 私) が主語になる動詞はこの 3 つしかない)。なお、**confiteor** はたびたび登場する形式受動態動詞 (異態動詞) です。

baptisma は「洗礼」という意味で、ギリシャ語で「水に浸すこと」です。ここでは対格で、**confiteor** の目的語になっています。なお、**baptisma** は語尾が -a なので、一見第 1 格変化の女性名詞に見えますが、これはギリシャ語由来の中性名詞 (第 3 格変化) です。従って、直前の **unum** は中性形です。資料によっては、**baptisma** を女性名詞と誤解して unam **baptisma** と誤記するテキストがありますから注意しましょう。第 3 格変化では、単数対格の語尾は -em になることが多いですが (patrem, pacem, remissionem 等)、これは男性名詞・女性名詞の場合であり、中性名詞においては格変化の種類に関わらず主格・対格・呼格の 3 つは常に同じ形です。**baptisma** も中性名詞なので、主格と対格は同じ **baptisma** です。なお、「洗礼」を表す語は、この **baptisma** (第 3 格変化の中性名詞) の他に、**baptismus** (第 2 格変化の男性名詞) もあります。

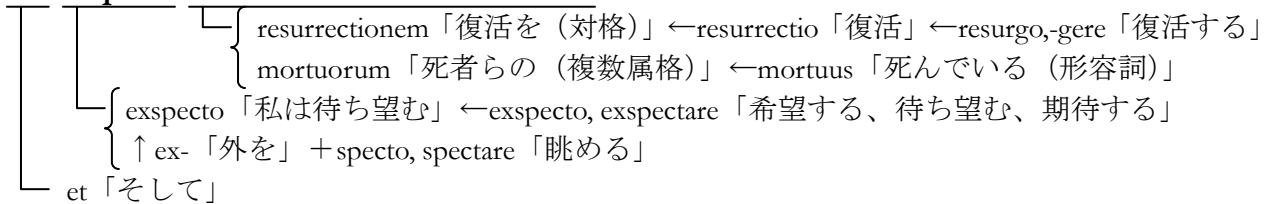
baptisma はギリシャ語からの借用語ですが、これに限らず、前の文にも出てきた catholicus, apostolicus, ecclesia 等の教会用語はことごとくギリシャ語からの借用語です。当のギリシャ語は、ヘブライ語から頑張って「訳した」ものが多いのですが (例、מָשִׁיחַ (Mashiah) → Χριστός (khristos))、ローマ人は訳すのが面倒でギリシャ語の単語をそのままラテン語に取り入れてしまったのでしょうか (例、Χριστός (khristos) → Christus)。本来のラテン語の語彙まで訳されたものは少ないのかも知れません (例、רוּחַ (ru'ah ルーアフ) → πνεῦμα (pneuma プネウマ) → spiritus)。

それはさておき、**remissionem** は女性名詞 remissio 「解放すること」の対格、**peccatorum** は “peccata mundi” で既におなじみの peccatum 「罪」の複数属格「罪々の」ですから、**remissionem peccatorum** で「罪々の解放を (= 罪々からの解放を)」となります。ここの前置詞 **in** も後ろに奪格でなく対格をとっていることに注意しましょう。この場合、目的・規定に関して「～に対し、～のために」という意味なので、**Confiteor unum baptisma in remissionem peccatorum.** は「罪のゆるしの目的のためには、洗礼が有効である、と私は認めます」という意味合いになります。

エトウ エクススペクトー レズッレークツィオーネム モルトウオーラム

/ét eks-spék-to: re-zur-re:k-tsi-ó:-nem mor-tu-ó:-rum/

Et exspecto resurrectionem mortuorum.



- ◆ 「そして私は、死者らの復活を待ち望む」
＝ 「死者のよみがえりと、」

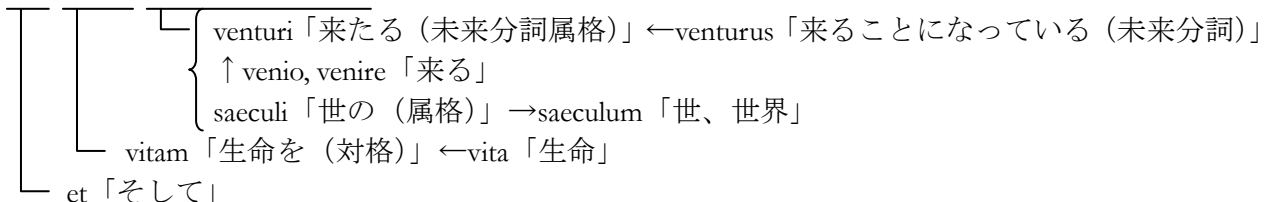
exspecto は「待ち望む、希望する」という動詞の 1 人称単数現在形「私は待ち望む」です。ここが Credo の 3 つめの大ブロックです。**exspecto** は、英語の expect 「期待する」の語源ですが、ラテン語では、**exspecto** と **s** が入ることに注意しましょう。もともと **ex-** 「外」 + **specto** 「眺める」から来て「外を眺める＝期待する、待ち望む」というところから来ました。英語では **s** が落ちて expect のように書きますが、これに引きずられて expecto と誤記するテキストもあるので注意して下さい。**exspecto** は、**ex-** の /eks/ (エクス) と、**-specto** の /spek-to:/ (スペクトー) とで 2 回 /s/ を発音することになりますから、エクスペクトーではなくエクススペクトーです。

次の **resurrectionem** は女性名詞 **resurrectio** 「復活すること」の対格です。イエスの復活のところで登場した **resurrexit** 「彼は復活した」と同じく、動詞 **resurgo** 「復活する」の派生語です。**mortuorum** は前にも出てきた男性名詞 **mortuus** 「死者」の複数属格「死者らの」ですので、**resurrectionem mortuorum** で「死者らの復活を」となります。

エトウ ヴィータム ヴェントゥーリー セークリー

/ét ví:-tam ven-tú:-rí: sé:-ku-li:/

Et vitam venturi saeculi.



- ◆ 「そして来世の生命を (私は待ち望む)」
＝ 「来世の生命とを待ち望む」

この文は前の文の **exspecto** の 2 つめの目的語です。**vitam** は女性名詞 **vita** 「生命」の対格です。**venturi** は動詞 **venio** 「来る」の未来能動分詞 **venturus** 「(将来) 来ることになっている、来たるべき」の属格です。分詞は形容詞扱いなので、掛かっている **saeculi** に合わせて格変化します。**saeculi** は中性名詞 **saeculum** 「年代、時代、世紀」の属格なので、**venturi saeculi** で「将来くる時代の」つまり「来たる世の、来世の」となります。**venturi saeculi** はまとめて前の **vitam** に掛かりますので、**vitam venturi saeculi** で「来世の生命」となります。前の文の **exspecto** は、**resurrectionem mortuorum** 「死者の復活」と、**vitam venturi saeculi** 「来世の生命」の 2 つの目的語をとることになります。

イエスは世界の最後に再臨し、生者と死者を裁くとされています (最後の審判)。死者はこのとき一度甦るとされ、皆、永遠の生命を与えられる者と地獄に落ちる者とに分けると言われています。だから、最後の審判を受けるために「死者の復活」(死した自分も甦れること)を望み、審判の結果が宜しくて「来世の生命を与えられること」を切に望んで今を生きる、というわけです。

アメン

/á-men/

Amen.

└ amen 「アーメン、かくあれかし、そうであって欲しい」
= 「アーメン」

Amen は、Gloria の最後でも書きましたが、「かくあれかし」つまり「こうであって欲しい」という意味です。なお、語頭の A- は、短母音 /a/ であるようです。

C R E D O

Credo in unum Deum.

**Patrem omnipotentem factorem caeli et terrae,
visibilium omnium, et invisibilium.**

**Et in unum Dominum Jesum Christum,
Filius Dei unigenitum.**

Et ex Patre natus ante omnia saecula.

**Deum de Deo, lumen de lumine,
Deum verum de Deo vero.**

**Genitum, non factum, consubstantialem Patri:
per quem omnia facta sunt.**

**Qui propter nos homines,
et propter nostram salutem, descendit de caelis.**

**Et incarnatus est de Spiritu Sancto
ex Maria Virgine: Et homo factus est.**

**Crucifixus etiam pro nobis:
sub Pontio Pilato passus,
et sepultus est.**

Et resurrexit tertia die, secundum Scripturas.

Et ascendit in caelum: sedet ad dexteram Patris.

**Et iterum venturus est cum gloria
judicare vivos et mortuos:
cujus regni non erit finis.**

**Et in Spiritum Sanctum, Dominum et vivificantem:
qui ex Patre Filioque procedit.**

**Qui cum Patre et Filio simul adoratur,
et conglorificatur: qui locutus est per Prophetas.**

**Et unam sanctam catholicam et apostolicam
Ecclesiam.**

**Confiteor unum baptisma
in remissionem peccatorum.**

**Et exspecto resurrectionem mortuorum.
Et vitam venturi saeculi.**

Amen.

われは信ず、唯一の神。

全能の父、天と地、見ゆるもの、
見えざるもの、すべての造り主を。

われは信ず、唯一の主、神のおんひとり子、
イエズス・キリストを。

よろず世のさきに父より生まれ、
神よりの神、光よりの光、
まことの神よりのまことの神。

造られずして生まれ、父と一体なり。
すべては主によりて造られたり。

主はわれら人類のため、また
われらの救いのために、天よりくだり、
聖霊によりて、処女マリアより
おんからだをうけ、人となりたまえり
ポンティウス・ピラトゥスのもとにて、
われらのために十字架につけられ、
苦しみをうけ、葬られたまえり。

聖書にありしごとく、三日目によみがえり、
天にのぼりて父の右に座したもう。

栄光のうちに再び来たり、
生ける人と死せる人とを裁きたもう。
主の国は終わることなし。

われは信ず、主なる聖霊、生命の与え主を。
聖霊は、父と子とよりいで、
父と子とともに拝みあがめられ、
また預言者によりて語りたまえり。

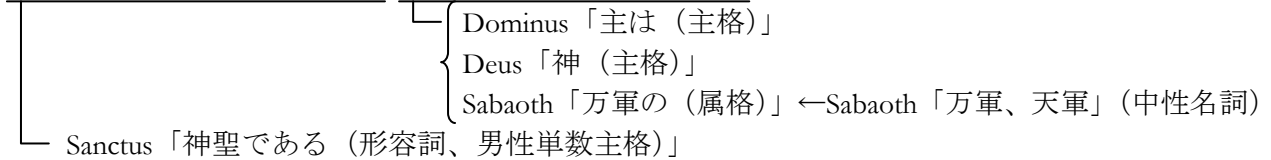
一・聖・公・使徒継承の
教会を信じ、
罪のゆるしのためなる
唯一の洗礼をみとめ、
死者のよみがえりと
来世の生命とを待ち望む。
アーメン

Sanctus

感謝の讃歌

サンクトゥス、サンクトゥス、サンクトゥス ドミヌス デウス サバオートゥ
/sánk-tus, sánk-tus, sánk-tus dó-mi-nus dé-us sá-ba-o:t/

Sanctus, sanctus, sanctus Dominus Deus Sabaoth.

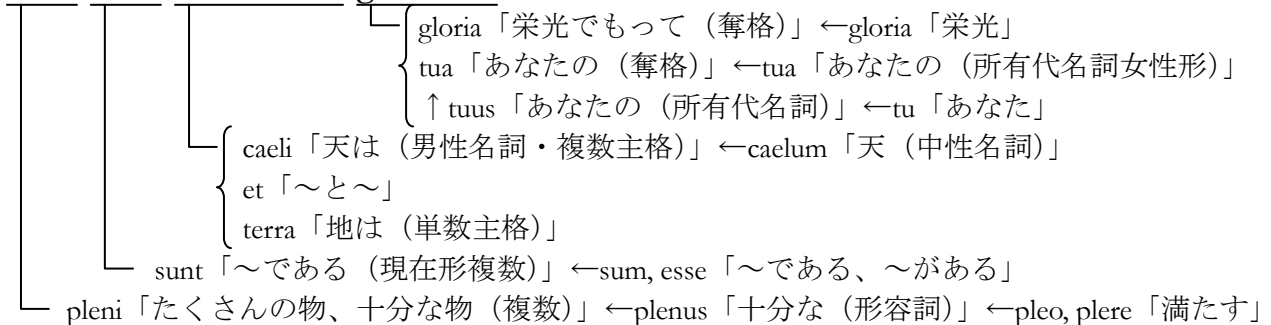


◆ 「神聖である、神聖である、万軍の神なる主は神聖である」
＝ 「聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、万軍の神なる主」

sanctus は毎度おなじみの「聖なる」という形容詞でした。 **Dominus, Deus** も既におなじみの「主」「神」です。 **Sabaoth** というのは「万軍、天軍」という意味の中性名詞ですが、もとは「軍勢、軍隊」という意味のヘブライ語 **צְבָאוֹת** (tsabaōth、ツァバオートゥ) でした。 **צְבָאוֹת** (tsabaōth) は **צָבָא** (tsaba、ツァバ) の複数形ですので、「たくさんの軍隊」ということで「万軍」なわけです。なお、ギリシャ語・ラテン語には ts (ツ) という音が無いので、ヘブライ語の **צ** (ts) は全て S で字訳されます（有名な「シオンの丘 (Sion, Zion)」もヘブライ語では **צִיּוֹן** (tsion、ツィオン) です）。 **Sabaoth** という語はヘブライ語からの借用語でラテン語の語形変化に合わない形をしているため、格変化が全くありません（主格も属格も対格もすべて同じ形）。そのため、一見何の格か分かりませんが、意味的には前の **Dominus Deus** 「主なる神」へ掛かる属格「万軍の」でしょう。

プレーニー スントゥ チェーリー エトゥ テッラ グローリアー トゥアー
/plé:-ni: súnt tʃé:-li: ét tér-ra gló:-ri-a: tú-a:/

Pleni sunt caeli et terra gloria tua.



◆ 「天地は、あなたの栄光でもって十分満たされている」
＝ 「主の栄光は天地にみつ」

pleni は形容詞 **plenus** 「いっぱい、十分な、満ちている」の複数主格で、**sunt** は英語の be 動詞にあたる動詞 **sum** 「～である」の3人称複数ですから、**pleni sunt** で「何かで満ちている」ということです。次の **caeli et terra** がその主語で、**caeli** が **caelum** 「天」の複数形、**terra** 「地」が単数形で共に主格です。 **caelum** は中性名詞ですが、教会ラテン語などではしばしば複数形が男性名詞化します（複数主格が **caeli**）。 **caelum** は「天国」の意味合いで単数にも複数にも使われます。ここでは **caeli** が男性複数、**terra** が女性単数で、合わせて複数として **pleni** が男性複数になっています。

最後の **gloria tua** 「あなたの栄光」は、**pleni sunt** に対する説明で、「あなたの栄光でもって」という奪格の句になっています。従って、**gloria tua** の語尾の **-a** はどちらも長母音です（奪格のた

○「天と地は、あなたの栄光で満ちている」
 ×「あなたの栄光は、天と地に満ちている」

benedictus は動詞 *benedico* 「讃える、ほめる」の完了受動分詞「讃えられた、ほめられた」で、文法的には受け身を表す形容詞になっています。*benedico* は、*Gloria* でも “Benedicimus te.” (我々はあなたを讃える) として登場しました。ここでは文全体の動詞 *sum* 「～である」が省略されています。

関係代名詞 **qui** が導く節がこの文全体の主語で、「～な人は」という感じです。**venit** は動詞 *venio* 「来る」の3人称単数現在形「彼は来る」です。次の **nomine** は中性名詞 *nomen* 「名前」の単数奪格、**Domini** は *dominus* 「主」の属格で **nomine** に掛かっているので、**in nomine Domini** で「主の名前において」ということです。*nomen* は英語の *name* 等の語源です。

オザンナ イン エクシエルスィース

/o-zán-na ín ek-fél-si:s/

Hosanna in excelsis.

(前述参考)

= 「天のいと高きところにホザンナ」

SANCTUS

Sanctus, sanctus, sanctus

Dominus Deus Sabaoth.

Pleni sunt caeli et terra gloria tua.

Hosanna in excelsis.

聖なるかな、聖なるかな、

聖なるかな、万軍の神なる主。

主の栄光は天地にみつ。

天のいと高きところにホザンナ。

BENEDICTUS

Benedictus qui venit in nomine Domini.

Hosanna in excelsis.

ほむべきかな、主の名によりて来たる者。

天のいと高きところにホザンナ。

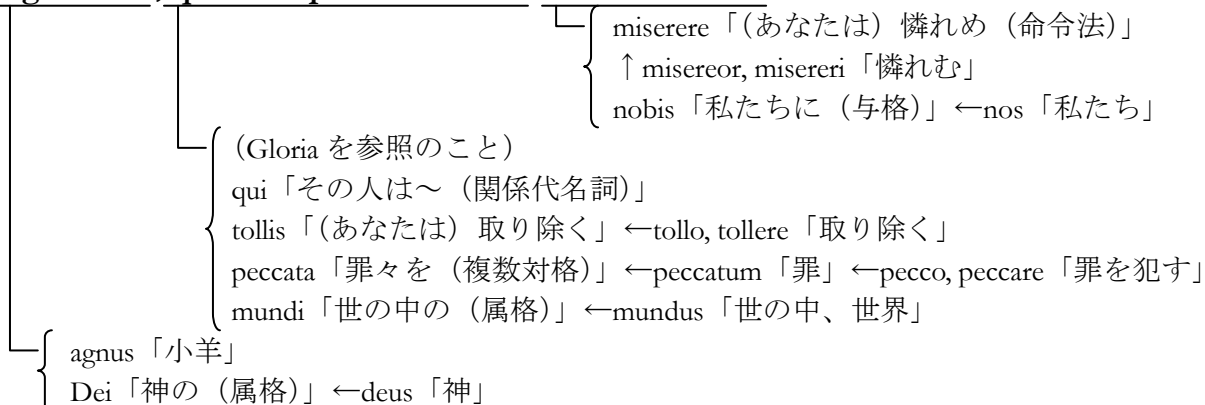
Agnus Dei

平和の讃歌

アーニュス デイー、クイー トッリス ペッカータ ムンディー、ミゼレーレ ノービース

/á:pus dé-i:, kwí: tól-lis pek-ká:-ta mún-dí:, mi-ze-ré:-re nó:-bi:s/

Agnus Dei, qui tollis peccata mundi: miserere nobis.



◆「神の小羊、世の中の罪々を取り除くあなたよ、私たちに憐れみたまえ」
＝「神の子羊、世の罪を除きたもう主よ、われらをあわれみたまえ」

Agnus は男性名詞「小羊、子羊」、**Dei** は deus「神」の属格で「神の」ですから、**Agnus Dei** で「神の子羊」ですね。後ろの文は既に Gloria で登場しています。文法的な解説はそちらを読んで下さい。

アーニユス デーイ、クイー トッリス ペッカータ ムンディー、ドナー ノービス パーチェム
/á:-nus dé-i:, kwí: tól-lis pek-ká:-ta mún-di:, dó:-na: nó:-bi:s pá:-tʃem/

Agnus Dei, qui tollis peccata mundi: dona nobis pacem.

└─ (前文参考)	dona 「(あなたは) 与えよ (命令法)」
	↑ dono, donare 「与える」 ←do, dare 「与える」
	nobis 「私たちに (与格)」 ←nos 「私たち (代名詞)」
	pacem 「平和を (対格)」 ←pax 「平和」

◆「神の小羊、世の中の罪々を取り除くあなた、私たちに平和を与えよ」
＝「神の子羊、世の罪を除きたもう主よ、われらに平安を与えたまえ」

前半部分は前の文と同じです。後半の **dona** は動詞 dono「与える」の命令法 2 人称単数、つまり「あなたは与えよ」という命令形です。英語の donate「寄付する」や臓器提供者を指す donor「ドナー」の語源です。「誰に」与えるのかというと、**nobis**「我々に」(人称代名詞 nos「我々」の与格)、「何を」かということ、**pacem**「平和を」(女性名詞 pax「平和」の対格)」です。

AGNUS DEI

**Agnus Dei, qui tollis peccata mundi:
miserere nobis.**

神の子羊、世の罪を除きたもう主よ、
われらをあわれみたまえ。

**Agnus Dei, qui tollis peccata mundi:
miserere nobis.**

神の子羊、世の罪を除きたもう主よ、
われらをあわれみたまえ。

**Agnus Dei, qui tollis peccata mundi:
dona nobis pacem.**

神の子羊、世の罪を除きたもう主よ、
われらに平安を与えたまえ。

5. 発音記号

この本では、現在ローマ教皇庁の公認する読み方を採用した発音記号を付記しました（古典ラテン語とは異なり、通常「教会ラテン語」と呼ばれます）。発音表記はいろいろと細かい問題がありますが、ここでは最低限必要な表記（例えば母音はその広狭に関わらず、/a/, /e/, /i/, /o/, /u/ の5種類とする等）にとどめました。また、発音記号には母音の長短をしめす記号 /:/ を記しました。これは、歌う際には全く無関係ですが、ラテン語の単語としては母音の長短で意味が変わることから明記しました。母音の長短は資料により誤記が多いので、本書では研究社『羅和辞典』増訂新版に準拠しています。

- (1) /ɲ/ = **gn-** のときで、日本語の「ニャ・ニュ・ニョ」に近い音です。
- (2) /ŋ/ = /k/, /g/ と発音する **c, ch, k, g, x** の前の **n** の「ン」です。
- (3) /ʃ/ = **sci** /ʃi/, **sce** /ʃe/ のときで、「シ・シェ」に近い音です。
- (4) /tʃ/ = **ci** /tʃi/, **ce** /tʃe/, **cae** /tʃe:/, **coe** /tʃe:/ のときで、「チ・チェ」に近い音です。
- (5) /dʒ/ = **gi** /dʒi/, **ge** /dʒe/ のときで「ジ・ジェ」に近い音です。
- (6) /j/ = **j-** のときでヤ行にあたります。/ja/ と書いてあっても「ジャ」ではなく「ヤ」です。

などです。また、全ての単語に /a/ のようにアクセント位置を示しました。

上記以外でも、綴りと発音の関係の主なものをまとめると、

- (7) **ae, oe** は常に長い **e** と同じです（但し **Israel** は **Is-ra-el** /is-ra-el/ のように a と e の間で切る）。
- (8) **s** は通常 /s/ ですが、単独の **s** が前後を母音に挟まれた時には /z/ と濁ります（但し、**eleison** は通例濁らない）
- (9) **ti** は通常 /ti/ ですが、**ti** の後ろに母音があると /tsi/ になります。
- (10) **bs, bt** の2つでは、**b** は濁らず **p** と同じで /ps/, /pt/ となります。
- (11) **c** は通常 /k/, **g** は通常 /g/ ですが、上の(3)~(5)と下の(15)の注意があります。
- (12) **ch** は常に /k/ です。**ph** は **f** と同じ。**th** は **t** と同じです。
- (13) 単独の **h** はハ行にはならず常に無音です。但し、**mihi** /mí-ki/ 「ミキ」、**nihil** /ní-kil/ 「ニキル」の2単語だけ例外で、**h** を /k/ と読みます。
- (14) **y** は常に **i** と同じ発音で母音扱いです。
- (15) **xce** は、**x** /ks/ + **ce** /tʃe/ で /kstʃe/ 「クスチェ」と読む流儀と、**x** を **cs** と見なした **csce** を **c** /k/ + **sce** /ʃe/ で合わせて /kʃe/ 「クシェ」と読む流儀があります。本書では後者に従っています。

等です。（他にも細かい規則があります）

また、2音節以上の単語のアクセントは「後ろから2番目の音節（ペヌルトと言う）に来る」という大原則があります。しかし、3音節以上の長い単語で、後ろから2番目の音節の母音が短母音で、かつその後ろの子音が1つ以下の単語は、後ろから3番目の音節にアクセントが来ます。この場合、**h** は数えません。また、「**r, l** 以外の子音字1つ + **r, l**」は1つの子音と見なされます。

ミサ曲の楽譜の歌詞には、アクセント記号が付記されているものがありますが、それは3音節以上の長い単語に限られます。2音節以下のアクセントの自明な単語には付いていませんが、アクセントが無いわけではありません。また、歌詞上の分綴（ぶんてつ。ハイフン付け）は文法的な分綴（音節区切り）と異なる方法で分けられていますので注意して下さい。

（例えば、**caelestis** は、歌詞では **cae-le-stis**、文法上は **cae-les-tis** と分綴します）

◆教会ラテン語発音一覧表

教会ラテン語における読み方を子音・母音に対する一覧表で示しました。母音の長短は無視してあります。また複合母音は等価な短母音に置き換えてありますので、例えば **caelum** の **cae** は“**ce**”と同じなので「**c-e**」の欄で /tʃe/、**lu** は「**l-u**」の欄で /lu/、最後の **m** は後ろに母音が無いので「**m** の“子音のみ”」の欄で /m/ となります。

母音 子音	a	e (ae, oe)	i (y)	o	u	子音のみ	備考
—	a /a/	e /e/	i /i/	o /o/	u /u/	—	単独母音
b	ba /ba/	be /be/	bi /bi/	bo /bo/	bu /bu/	b /b/	
bs	bsa /psa/	bse /pse/	bsi /psi/	bso /psa/	bsu /psu/	bs /ps/	b + s → ps
bt	bta /pta/	bte /pte/	bti /pti/	bto /pto/	btu /ptu/	bt /pt/	b + t → pt 後ろが母音の時
c	ca /ka/	ce /tʃe/	ci /tʃi/	co /ko/	cu /ku/	c /k/	e, i で /tʃ/
ch	cha /ka/	che /ke/	chi /ki/	cho /ko/	chu /ku/	ch /k/	常に /k/
d	da /da/	de /de/	di /di/	do /do/	du /du/	d /d/	
f	fa /fa/	fe /fe/	fi /fi/	fo /fo/	fu /fu/	f /f/	
g	ga /ga/	ge /dʒe/	gi /dʒi/	go /go/	gu /gu/	g /g/	e, i で /dʒ/
gn	gna /ɲa/	gne /ɲe/	gni /ɲi/	gno /ɲo/	gnu /ɲu/	—	ニャ行に近い
h	ha /a/	he /e/	hi /i/	ho /o/	hu /u/	—	子音字 h は無音 hi の例外時
i, j	ja /ja/	je /je/	ji /ji/	jo /jo/	ju /ju/	—	ヤ行
i, j	ja /ija/	je /ije/	ji /iji/	jo /ijo/	ju /iju/	—	j の前が母音の時
k	ka /ka/	ke /ke/	ki /ki/	ko /ko/	ku /ku/	k /k/	
l	la /la/	le /le/	li /li/	lo /lo/	lu /lu/	l /l/	
m	ma /ma/	me /me/	mi /mi/	mo /mo/	mu /mu/	m /m/	
n	na /na/	ne /ne/	ni /ni/	no /no/	nu /nu/	n /n/	
						n /ŋ/	後が /k, g/ の時
p	pa /pa/	pe /pe/	pi /pi/	po /po/	pu /pu/	p /p/	
ph	pha /fa/	phe /fe/	phi /fi/	pho /fo/	phu /fu/	ph /f/	常に ph = f
qu	qua /kwa/	que /kwe/	qui /kwi/	quo /kwo/	quu /kwu/	—	qu = kw
r	ra /ra/	re /re/	ri /ri/	ro /ro/	ru /ru/	r /r/	常に巻き舌で
s	sa /sa/	se /se/	si /si/	so /so/	su /su/	s /s/	
s	sa /za/	se /ze/	si /zi/	so /zo/	su /zu/	—	母音 + s + 母音の時
sc	sca /ska/	sce /ʃe/	sci /ʃi/	sco /sko/	scu /sku/	sc /sk/	e, i で /ʃ/
t	ta /ta/	te /te/	ti /ti/	to /to/	tu /tu/	t /t/	
			ti /tsi/				ti + 母音の時
th	tha /ta/	the /te/	thi /ti/	tho /to/	thu /tu/	th /t/	常に /t/
v	va /va/	ve /ve/	vi /vi/	vo /vo/	vu /vu/	v /v/	
x	xa /ksa/	xe /kse/	xi /ksi/	xo /kso/	xu /ksu/	x /ks/	二重子音。x = cs
xc	xca /kska/	xce /kʃe/	xcī /kʃi/	xco /ksko/	xcu /ksku/	xc /ksk/	e, i で /kʃ/ 又は /kstʃ/
z	za /za/	ze /ze/	zi /zi/	zo /zo/	zu /zu/	z /z/	古くは z は /zd/

6. ミサ曲文章構造

ミサ曲 Gloria と Credo は文章が長く、全体の内容がつかみにくいかもしれません。この章ではこの2つの歌詞について、全体の構造を図解的に示します。

行の順番は原典のまま変えていませんが、行の中の単語の並びは、意味のまとまりを表すために並びを変えてあるものもあります。ただし、ラテン語は格変化のおかげで単語を並びかえても意味が変わりません。いくつかの行では省略されている語を（ ）で補ってあります。

特に Credo の方は、全体の構造が「(1)私は、(1a)神なる父・(1b)子イエスキリスト・(1c)聖霊と、(1d)教会を信じる。(2)洗礼を認め、(3)死者の復活と来世の生命を待ち望む」という大構造があって、その中にイエスについての話が流れとして挿入されている、という形が分かります。

ミサ曲 Gloria の文章の流れ

	Gloria 栄光が	Deo 神にあれ	in excelsis. 天に於いては
Et	pax 平和が	hominibus bonae voluntatis 善意の人にあれ	in terra. 地に於いては

Laudamus te.	} propter magnam gloriam tuam.	} 我々は {	} {	} 貴方の大きな栄光の故に
Benedicimus te.				
Adoramus te.				
Glorificamus te.				
Gratias agimus tibi				
			{	
			{	
			{	
			{	
			{	

Domine Deus,	(呼び掛け)	神なる主よ
Rex caelestis,	<父に対し>	天の王よ
Deus Pater omnipotens.		全能の父なる神よ
Domine Fili unigenite,	<子に対し>	主である一人子よ
Jesu Christe.		イエス・キリストよ

Domine Deus,			
└─ Agnus Dei, Filius Patris.			
Qui tollis peccata mundi,	miserere nobis.	世の罪を除く者よ、憐れみたまえ 世の罪を除く者よ、願いを聞け 父の右に座る者よ、憐れみたまえ	
Qui tollis peccata mundi,	suscipe deprecationem nostram.		
Qui sedes ad dexteram Patris,	miserere nobis.		
└─ Quoniam	{ tu solus sanctus. Tu solus Dominus. Tu solus altissimus.	なぜならば あなたは	{ 神聖だから 主だから 最も高いから
Jesu Christe.		イエス・キリストよ	

Cum Sancto Spiritu in gloria Dei Patris.	聖霊とともに
---	--------

Amen.	そうで（上に述べたようなこと）あつて欲しい
--------------	-----------------------

ミサ曲 *Credo* の文章の流れ

Credo 私は 信じる	in	① unum Deum , ② Patrem omnipotentem, ③ factorem <u>caeli et terrae</u> , <u>visibilium omnium et invisibilium</u> .	(①=②=③)	・唯一の神 ・全能の父 ・造り主	} を 信じる	
	Et in	④ unum Dominum ⑤ Jesum Christum , ⑥ Filium Dei unigenitum. Et └─ natum ex Patre ante omnia saecula.	(④=⑤=⑥)	・唯一の主 ・イエス・キリスト ・神のひとり子		} を 信じる
①～⑬を	子を	(イエス・キリストのエピソード)		⑦ Deum de Deo, ⑧ lumen de lumine, ⑨ Deum verum de Deo vero.	} 神の中の神を 光の中の光を 真の神の中の真の神を	
				(a) Genitum, (b) non factum, (c) consubstantialem Patri:		イエスは (b) 造られずして (a) うまれ、 (c) 父と一体 である
				→ per quem omnia facta sunt.		
				過去	Qui キリスト	

7. ミサ曲ラテン語辞書

ミサ通常文に使われる全単語を、文中に登場する形のまま掲載し、その基本形や歌詞中での句の説明をします。テキストによる差異も可能な限り掲載しましたので、使用する楽譜の歌詞のテキストがどの版であるかによらず単語を引くことができるようにしてあります。

凡例：

- 動詞** 動（現在 1 複）……現在形 1 人称複数「我々は～する」の活用動詞である
動（完了受動 3 単）……完了形受動態 3 人称単数「彼は～された」の活用動詞である
動（第 4 群 = **veníre**, **véni**, **véntum**）……第 4 群規則動詞の基本形。基本 4 形の残りは **veníre**, **véni**, **véntum**
名詞 名（第 2 格・男単属格）……第 2 格変化の名詞で男性単数属格形である
形容詞 形（第 3 格・女複対格）……第 3 格変化の形容詞で女性複数対格形である
副詞 副
前置詞 前（＋奪格）……後ろに奪格を取る前置詞である
分詞 完了受動分詞（第 2 格・男単主格）……動詞の完了受動分詞。格変化は男性単数主格
未来能動分詞（第 2 格・中単属格）……動詞の未来能動分詞。格変化は中性単数属格
人称代名詞 人称代名（2 単・主格）……2 人称単数（貴方）の人称代名詞の主格
所有代名詞 所有代名（1 複・女単対格）……1 人称複数（我々）の所有代名詞の女性単数対格
関係代名詞 関代（男単主格）……男性単数主格の関係代名詞
接続詞 接

※「→」は基本形を表す。一部の活用形の参照も含む。

※「¶」は歌詞中の例文や関連事項。

※見出し語の「*」印は歌詞には出てこない基本語。

※**adorámus** のようにアクセント位置にアクセント記号を、長母音は下線を付した。（文例を除く）

A (a)

ád, 前（＋対格）～に ¶ **ad dexteram Patri** 父の右側に

adorámus, 動（現在 1 複）我々は崇拝する → **adóro** ¶ **Adoramus te**. 我々は貴方を崇拝する

adorátur, 動（現在受動 3 単）彼（それ）は崇拝される → **adóro**

***adóro**, 動（第 1 群 = **adoráre**, **adorávi**, **adorátum**）崇拝する（**ad-**「～に」＋**oro**「語る、懇願する」）

ágimus, 動（現在 1 複）→ **ágo** ¶ **gratias agimus tibi** 貴方に感謝する → **grátias ágere**＋与格

ágnus, 名（第 2 格・男単主格）小羊、子羊 ¶ **Agnus Dei** 神の子羊

***ágo**, 動（第 3 群 = **ágere**, **égi**, **áctum**）する、行動する

altísimus, 形（第 1-2 格・最上級男単主格）最も高い → **áltus**

***áltus**, 形（第 1-2 格・男単主格）高い

ámen, 副, かくあれかし、そのようであって欲しい、そのようであらせて下さい（ヘブライ語 אָמֵן）

ánte, 前（＋対格）～の前に ¶ **ante omnia saecula** 全ての時代の前に

apostólicam, 形（第 1-2 格・女単対格）使徒継承の → 男性形 **apostólicus** ¶ → **ecclésiám** を見よ

***apóstolus**, 名（第 2 格・男単主格）使徒

ascéndit, 動（完了 3 単）彼（それ）は昇った → **ascéndo**; 反対語 **descéndo**, **descéndit**

***ascéndo**, 動（第 3 群 = **ascéndere**, **ascéndi**, **ascéndum**）昇る

B (be)

baptisma, 名 (第3格・中単対格) 洗礼を →主格も baptisma ¶ unum baptisma 唯一の洗礼を
benedicimus, 動 (現在1複) 我々はほめる →benedico ¶ Benedicimus te.我々は貴方をほめる
*benedico, 動 (第3群 = benedicere, benedixi, benedictum) 讃える (béne「良く」+dico「言う」)
benedictus, 完了受動分詞 (男単主格) 讃えられた →benedico
bonae, 形 (第1-2格・女単属格) 良い →主格 bona、男性形 bonus ¶ bonae voluntatis 良い意志の
*bonus, 形 (第1-2格・男単主格) 良い

C (ce)

caeléstis, 形 (第3格・男単呼格) 天の →主格 caeléstis ¶ Rex caelestis 天の王 (よ)
cáeli, 名 (第2格・中単属格) 天の →主格 cáelum ¶ factorem caeli et terrae 天と地の造り主を
cáeli, 名 (第2格・男複主格) 天 →単数主格 (中性) cáelum ¶ pleni sunt caeli et terra 天と地は満ちている
cáelis, 名 (第2格・男複奪格) 天より →単数主格 (中性) cáelum ¶ descendit de caelis 天より下った
cáelum, 名 (第2格・中単対格) 天 →主格も cáelum ¶ ascendit in caelum 天に昇った
*cáelum, 名 (第2格・中単主格) 天 (複数形は男性名詞化し、主格 cáeli, 属格 caelórum) →cáeli, cáelis
cathólicam, 形 (第1-2格・女単対格) 万人の、公教の →男性形 cathólicus
Christe, 名 (第2格・男単呼格) キリストよ →主格 Christus ¶ Jesu Christe イエス・キリストよ
Christum, 名 (第2格・男単対格) キリストを →主格 Christus ¶ Jesum Christum イエス・キリストを
*Christus, 名 (第2格・男単主格) キリスト、救世主 (Jésus Christus) ¶ Jesus Christus イエス・キリスト
coeléstis, 形 (第3格・男単呼格) 天の →主格 coeléstis = caeléstis ¶ Rex coelestis 天の王 (よ)
cóeli, 名 (第2格・中単属格) 天の →主格 cóelum ¶ factorem coeli et terrae 天と地の造り主を
cóeli, 名 (第2格・男複主格) 天 →単数主格 (中性) cóelum ¶ pleni sunt coeli et terra 天と地は満ちている
cóelis, 名 (第2格・男複奪格) 天より →単数主格 (中性) cóelum ¶ descendit de coelis 天より下った
cóelum, 名 (第2格・中単対格) 天 →主格も cóelum = cáelum ¶ ascendit in coelum 天に昇った
*cóelum, 名 (第2格・中単主格) 天 = cáelum (複数形は男性名詞化する) →cóeli, cóelis
confíteor, 動 (現在1単、形式受動態動詞・第2群 = confitēri, confessus sum) 私は認める、告白する
conglorificátur, 動 (現在受動3単) それは崇拜される →conglorifico
*conglorifico, 動 (第1群 = conglorificáre, conglorificávi, conglorificátum) 崇拜する ¶ →glorifico も見よ
cōnsubstantiálem, 形 (第3格・男単対格) 一体の →主格 cōnsubstantiális ¶ ~ Patri 父と一体
crédo, 動 (現在1単・第3群 = crédere, credidi, créditum) 私は信じる
*crucifigo, 動 (第3群 = crucifigere, -fixi, -fixum) 処刑台にかける、十字架にかける (crux, crucis「十字架」)
crucifixus est, 動 (完了受動3単) 彼は十字架にかけられた、はりつけられた →crucifigo
cuius, cuius, 関代 (男単属格) その～の →主格 qui ¶ cuius regni その人 (主) の王国の
cúm, 前 (+奪格) ～と共に、～と一緒に ¶ cum Sancto Spiritu 聖霊と共に

D (de)

dé, 前 (+奪格) ～から、～の ¶ de caelis 天から; Deum de Deo 神の中の神を
déi, 名 (第2格・男単属格) 神の →déus ¶ Agnus Dei 神の子羊; Filium Dei 神の息子を
deo, 名 (第2格・男単与格) 神に →déus ¶ Gloria in excelsis Deo.天には神に栄光あれ
deo, 名 (第2格・男単奪格) 神 →déus ¶ Deum de Deo 神の中の神を
*deprecátio, 名 (第3格・女単主格) 願い
deprecatiónem, 名 (第3格・女単対格) 願いを →主格 deprecátio ¶ suscipe deprecationem 願いを聞け
descéndit, 動 (完了3単) 彼 (それ) は下った →descendo ¶ descendit de caelis 天より下った
*descendo, 動 (第3群 = descéndere, descendi, descensum) 下る; 反対語 ascendo, ascéndit
déum, 名 (第2格・男単対格) 神を →déus ¶ Credo in unum Deum. 我は唯一の神を信ずる

déus, 名 (第 2 格・男単主格) 神
 déus, 名 (第 2 格・男単呼格) 神よ (第 2 格の呼格の例外) ¶ Domine Deus 神なる主よ
 *dēxtera, 名 (第 1 格・女単主格) 右
 dēxteram, 名 (第 1 格・女単対格) 右 →主格 dēxtera ¶ ad dexteram+属格=～の右側に
 *dies, 名 (第 5 格・男単主格) 日 (特定の日を指す場合は女性名詞となることがある)
 die, 名 (第 5 格・女単奪格) ～の日に →主格 dies ¶ tertia die 3 日目に
 domine, 名 (第 2 格・男単呼格) 主よ
 domini, 名 (第 2 格・男単属格) 主の ¶ in nomine Domini 主の名に於いて
 dominum, 名 (第 2 格・男単対格) 主を ¶ Et (credo) in unum Dominum 唯一の主を (信じる)
 dominus, 名 (第 2 格・男単主格) 主
 dona, 動 (命令法現在 2 単) あなたは与えよ →dono ¶ dona nobis pacem 我々に平和を与えよ
 *dono, 動 (第 1 群 = donāre, donāvi, donātum) 与える (dō, dāre「与える」)

E (e)

ecclesiam, 名 (第 1 格・女単対格) 教会を →主格 ecclesia ¶ apostolicam Ecclesiam 使徒継承の教会を
 elaison, 動 (命令) 憐れみたまえ (ギリシャ語 ελεησον) ¶ Kyrie eleison. 主よ憐れみたまえ
 erit, 動 (未来 3 単) ～だろう、～があるだろう →sūm ¶ non erit finis 終わりはないだろう
 *est, 動 (現在 3 単) 彼 (それ) は～である →sūm
 est, 動 (完了受動 3 単の助動詞。完了受動分詞+est で) 彼は～された →sūm; factus est, passus est
 et, 接, そして、～と (-que も見よ)
 etiam, 副, さらに
 ex, 前 (+奪格) ～より、～から出て ¶ ex Maria Virgine 処女マリアより; ex patre 父より
 excelsis, 形 (第 1-2 格・中複奪格) 非常に高い →主格 excelsus ¶ in excelsis 天のいと高きところには
 exspecto, 動 (現在 1 単・第 1 群 = exspectāre, -tāvi, -tātum) 私は待ち望む (ex-「外を」+specto「眺める」)

F (ef)

*facio, 動 (第 3B 群 = facere, feci, factum) 作る
 facta sunt, 動 (完了受動 3 複) 作られた →facio, factus est ¶ omnia facta sunt 全ては作られた
 *factor, 名 (第 3 格・男単主格) 作る人、造り主 →facio
 factorem, 名 (第 3 格・男単対格) 造り主を →主格 factor ¶ factorem caeli et terrae 天と地の造り主を
 factum, 完了受動分詞 (第 2 格・男単対格) 作られた →factus, facio ¶ non factum 作られずに
 *factus, 完了受動分詞 (第 2 格・男単主格) 作られた →facio, factus est, facta sunt
 factus est, 動 (完了受動 3 単) 彼 (それ) は作られた →facio ¶ homo factus est 人は作られた
 fili, 名 (第 2 格・男単呼格) 息子よ →主格 filius ¶ Domine Fili unigenite 主なるひとり子よ
 filio, 名 (第 2 格・男単奪格) 息子 (から) →主格 filius ¶ cum Patre et Filio 父と子とともに
 filioque, 名=filio (↑) + -que (-que を見よ) ¶ ex Patre Filioque 父と息子より出て
 filium, 名 (第 2 格・男単対格) 息子を ¶ Filium Dei unigenitum 神の唯一の息子を
 filius, 名 (第 2 格・男単主格) 息子 ¶ Filius Patris 父の息子
 finis, 名 (第 3 格・男単主格) 終わり ¶ cuius regni non erit finis 主の王国の終りはないだろう

G (ge)

genitum, 完了受動分詞 (第 2 格・男単対格) 生まれた →gigno ¶ genitum, non factum 作られずに生まれた
 *gigno, 動 (第 3 群 = gignere, genui, genitum) 生む
 gloria, 名 (第 1 格・女単主格) 栄光 ¶ Gloria in excelsis Deo. 天には神に栄光あれ
 gloria, 名 (第 1 格・女単奪格) 栄光 ¶ cum gloria 栄光と共に; in gloria 栄光に於いて
 gloriam, 名 (第 1 格・女単対格) 栄光 ¶ propter magnam gloriam tuam 貴方の大きな栄光の故に

glorificámus, 動（現在 1 複）我々は崇める → **glorífico** ¶ **Glorificamus te**. 我々は貴方を崇める
***glorífico**, 動（第 1 群 = **glorificáre**, **glorificávi**, **glorificátum**）崇める（**glori-**「栄光」+ **fáciō**「作る、～にする」）
***grátia**, 名（第 1 格・女単主格）感謝の念
grátias, 名（第 1 格・女複対格）感謝を → 単数主格 **grátia** ¶ **gratias agimus tibi** 我々は貴方に感謝する
***grátias ágere** + 与格, 動（熟語）～に感謝する

H (ha)

hómings, 名（第 3 格・男複対格）人々 → 単数主格 **hómo** ¶ **propter nos homines** 我々人類のため
homínibus, 名（第 3 格・男複与格）人々に → 単数主格 **hómo** ¶ **hominibus bonae voluntatis** 善意の人に
hómo, 名（第 3 格・男単主格）人 ¶ **homo factus est** 人は作られた
hosánna, 副, 「救い給え」の意味の神を讃美する言葉（ヘブライ語 **הוֹשַׁנְנָה**）。**osánna** とも綴る

I (i)

Iésu, 名（不規則格変化・男単呼格）イエスよ → 主格 **Iésus** ¶ **Iesu Christe** イエス・キリストよ
Iésu, 名（不規則格変化・男単対格）イエスを ¶ **Iesum Chrisum** イエス・キリストを
***Iésus**, 名（不規則格変化・男単主格）イエス（対格 **Iésu** 以外はすべて **Iésu**）¶ → **Christus** を見よ
ín, 前（+ 奪格）～において ¶ **in terra** 地には; **in gloria** 栄光に於て; **in excelsis** いと高い所に
ín, 前（+ 対格）～に向かって、～に対して ¶ **in caelum** 天へ; **Credo in unum Deum**. 私は唯一の神を信じる
incarnátus ést, 動（完了受動 3 単）肉体を与えられた → **incárnō**
***incárnō**, 動（第 1 群 = **incarnáre**, **incarnávi**, **incarnátum**）肉体を与える、人間の姿にする（**cáro**, **cárnis**「肉」）
invisíbilium, 名（第 3 格・中複属格）見えない物の → 単数主格 **invisíbile**; 反対語 **visíbile**, **visibílium**
íterum, 副, 再び ¶ **iterum venturus est** 再び（将来）やってくるだろう
iudicáre, 動（不定法現在）裁く → **iúdicō** ¶ **iudicare vivos et mortuos** 生ける者と死せる者を裁く
iúdicō, 動（第 1 群 = **iudicáre**, **iudicávi**, **iudicátum**）裁く（**iús**「法規」+ **díco**「言う」）

J (je)

Jésu, 名（不規則格変化・男単呼格）イエスよ → 主格 **Jésus** ¶ **Jesu Christe** イエス・キリストよ
Jésu, 名（不規則格変化・男単対格）イエスを ¶ **Jesum Chrisum** イエス・キリストを
***Jésus**, 名（不規則格変化・男単主格）イエス（対格 **Jésu** 以外はすべて **Jésu**）¶ → **Christus** を見よ
iudicáre, 動（不定法現在）裁く → **júdicō** ¶ **iudicare vivos et mortuos** 生ける者と死せる者を裁くために
júdicō, 動（第 1 群 = **iudicáre**, **iudicávi**, **iudicátum**）裁く（**jús**「法規」+ **díco**「言う」）

K (ka)

kýrie, 名（呼格）主よ（ギリシャ語 **κυριε**）¶ **Kyrie eleison**. 主よ憐れみたまえ

L (el)

laudámus, 動（現在 1 複）我々は誉める → **láudo** ¶ **Laudamus te**. 我々は貴方を誉める
***láudo**, 動（第 1 群 = **laudáre**, **laudávi**, **laudátum**）誉める
locútus ést, 動（完了 3 単・形式受動態動詞）それは語った（能動態）→ **lóquor**
***lóquor**, 動（第 3 群・形式受動態動詞 = **lóqui**, **locútus súm**）語る
lúmen, 名（第 3 格・中単主格）光 ¶ **lumen de lumine** 光の中の光を
lúmine, 名（第 3 格・中単奪格）光 → 主格 **lúmen**

M (em)

mágnam, 形（第 1-2 格・女単対格）大きい → 主格 **mágna**; 男性形 **mágnus** ¶ → **glóriam** を見よ
***María**, 名（第 1 格・女単主格）マリア ¶ ***Beata Maria** 祝福されたマリア、幸せなマリア

María, 名 (第1格・女単奪格) マリアより →主格 **María** ¶ **ex Maria Virgine** 処女マリアより
***miséreor**, 動 (第2群・形式受動態動詞 = **miseréri**, **miséritus súm**) 憐れむ
miserére, 動 (命令法現在2単) あなたは憐れめ →**miséreor** ¶ **miserere nobis** 我々に憐れめ
mortuórum, 名 (第2格・男複属格) 死者らの →主格 **mórtuus** ¶ **resurrectionem** ~ = 死者の復活を
mórtuos, 名 (第2格・男複対格) 死者らを →単数主格 **mórtuus** ¶ **vivos et mortuos** 生者と死者を
***mórtuus**, 名 (第2格・男単主格) 死者
múndi, 名 (第2格・男単属格) 世の中の →主格 **múndus** ¶ **peccata mundi** 世の中の罪々を
***múndus**, 名 (第2格・男単主格) 世の中

N (en)

***náscor**, 動 (第3群・形式受動態動詞 = **násci**, **nátus súm**) 生む
nátum, 完了受動分詞 (第2格・男単対格) 生まれた →**náscor**
nóbis, 人称代名 (1複・奪格) 我々 (より) →主格 **nós** ¶ **pro nobis** 我々のために
nóbis, 人称代名 (1複・与格) 我々に →主格 **nós** ¶ **miserere nobis** 我々に憐れめ
nómine, 名 (第3格・中単対格) 名 →主格 **nómen** ¶ **in nomine Domini** 主の名に於いて
nón, 否定, ~でない ¶ **non erit finis** 終わりはないだろう; **non factum** 作られずに
***nós**, 人称代名 (1複・主格) 我々
nós, 人称代名 (1複・対格) 我々 (を) ¶ **propter nos homines** 我々人類のために
***nóster**, 所有代名 (1複・男単主格) 我々の (女性形 **nóstra**、中性形 **nóstrum**)
nóstram, 所有代名 (1複・女単対格) 我々の →男性形 **nóster** ¶ **deprecationem nostram** 我々の願いを

O (o)

***ómne**, 名 (第3格・中単主格) 全ての物
ómnia, 名 (第3格・中複主格) 全ての物は →単数 **ómne** ¶ **omnia facta sunt** 全ては作られた
ómnia, 形 (第3格・中複対格) 全ての (物を) →主格 **ómne** ¶ **ante omnia saecula** 全ての時代の前に
omnípotens, 形 (第3格・男単呼格) 全能の →主格も **omnípotens** (**omni**-「全て」+**pótens**「できる」)
omnipoténtem, 形 (第3格・男単対格) 全能の ¶ **Patrem omnipotentem** 全能の父を
***ómnis**, 形 (第3格・男女単主格) 全ての (中性形単数は **ómne**)
ómnium, 形 (第3格・中複属格) 全ての →男性単数主格 **ómnis** ¶ →**visibílium** を見よ
osánna, 副, 「救い給え」の意味の神を讃美する言葉 (ヘブライ語 **הוֹשַׁנָּה**)。 **hosánna** とも綴る

P (pe)

pácem, 名 (第3格・女単対格) 平和を →主格 **páx** ¶ **dona nobis pacem** 我々に平和を与えよ
pássus ést, 動 (完了3単、形式受動態動詞) 彼は苦しみを受けた (能動態) →**pátior**
páter, 名 (第3格・男単呼格) 父よ →主格も **páter** ¶ **Deus Pater omnipotens** 全能の父なる神よ
páter, 名 (第3格・男単主格) 父
***pátior**, 動 (第3B群・形式受動態動詞 = **páti**, **pássus súm**) 苦しみを受ける
pátre, 名 (第3格・男単奪格) 父より →主格 **páter** ¶ **ex Patre** 父より出て
pátre, 名 (第3格・男単対格) 父を →主格 **páter** ¶ **Patrem omnipotentem** 全能の父を
pátris, 名 (第3格・男単属格) 父の →主格 **páter** ¶ **Filius Patris** 父の息子
páx, 名 (第3格・女単主格) 平和 ¶ **pax hominibus bonae voluntatis** 善意の人々に平和あれ
peccáta, 名 (第2格・中複対格) 罪々を →単数主格 **peccátum** ¶ **peccata mundi** 世の中の罪々を
peccatórum, 名 (第2格・中複属格) 罪々の ¶ **in remissionem peccatorum** 罪々の解放に対して
***peccátum**, 名 (第2格・中単主格) 罪
pér, 前 (+対格), ~によって ¶ **per Prophetas** 予言者によって; **per quem** その~によって
pléni, 形 (第1-2格・中複主格) 十分な、たくさん →単数 **plénus** ¶ **pleni sunt** 十分たくさんある

*plénus, 形（第 1-2 格・男単主格）十分な、たくさん

Póntio Piláto, 名（第 2 格・男単奪格）ポンティウス・ピラトゥスにより ¶ sub〜のもとで

*Póntius Pilátus, 名（第 2 格・男単主格）ポンティウス・ピラトゥス（ローマ総督の名）

pro, 前（+奪格）〜のために、〜の代わりに ¶ pro nobis 我々のために

procédit, 動（現在 3 単）それは進み出る →procédo ¶ ex Patre Filioque procedit 父と子とより出で

*procédo, 動（第 3 群 = procédere, procéssi, procéssum）進み出る

*prophéta, 名（第 1 格・男単主格）予言者（数少ない女性形第 1 格変化をする男性名詞）

Prophétas, 名（第 1 格・男複対格）予言者 →単数主格 prophéta ¶ per Prophetas 予言者により

propter, 前（+対格）〜のために、〜の故に ¶ propter nos homines 我々人類のために

Q (qu)

*-que, 接尾辞, ひととひと（2 つ以上の名詞が並ぶとき、2 番目以降の語尾に -que をつける）→filioque

quem, 関代（男単対格）→主格 qui ¶ per quem その〜によって

qui, 関代（男単主格）その〜は（前に出てきた名詞を指す）¶ Qui tollis peccata... →tollis を見よ

quoniam, 接, 〜だから ¶ Quoniam tu solus sanctus. あなただけが神聖なので

R (er)

régni, 名（第 2 格・中単属格）王国の →主格 régnum ¶ cujus regni non... →finis を見よ

*régnum, 名（第 2 格・中単主格）王国 →réx (régis)

*remissio, 名（第 3 格・女単主格）解放、解き放たれること

remissionem, 名（第 3 格・女単対格）解放を →主格 remissio ¶ →peccatorum を見よ

*resúrgo, 動（第 3 群 = resúrgere, resurréxi, resurréctum）復活する、再び立ち上がる

*resurréctio, 名（第 3 格・女単主格）復活（動詞 resúrgo, resurréxi, resurréxit の名詞形）

resurréctionem, 名（第 3 格・女単対格）復活を →主格 resurréctio ¶ →mortuorum を見よ

resurréxit, 動（完了 3 単）彼は復活した →resúrgo

réx, 名（第 3 格・男単呼格）王よ →主格も réx ¶ Rex caelestis 天の王よ

S (es)

Sábaoth, 名（無変化）万軍（ヘブライ語 סָבָאֹת「軍勢」の意）

sáecula, 名（第 2 格・中複対格）世 →単数主格 sáeculum ¶ ante omnia saecula 全ての世の前に

sáeculi, 名（第 2 格・中単属格）世の →主格 sáeculum ¶ venturi saeculi 来たる世の、来世の

*sáeculum, 名（第 2 格・中単主格）時代、世

*sálus, 名（第 3 格・女単主格）救い、救済

salútem, 名（第 3 格・女単対格）救いを →主格 sálus ¶ propter nostram salutem 我々の救済のため

sánctam, 形（第 1-2 格・女単対格）聖なる→男性形 sánctus ¶ unam sanctam ... 一つの聖なる…

sáncto, 形（第 1-2 格・男単奪格）聖なる →主格 sánctus ¶ cum Sancto Spiritu 聖霊と共に

sánctum, 形（第 1-2 格・男単対格）聖なる→主格 sánctus ¶ Spiritum Sanctum 聖霊を

sánctus, 形（第 1-2 格・男単主格）聖なる ¶ Tu solus sanctus. 貴方だけが神聖である

Scriptúras, 名（第 1 格・女複対格）聖書 →単数主格 scriptúra ¶ secundum Scripturas 聖書によれば

sécula, 名（第 2 格・中複対格）世 →単数主格 séculum = sáeculum ¶ ante omnia secula 全ての世の前に

séculi, 名（第 2 格・中単属格）世の →主格 séculum = sáeculum ¶ venturi seculi 来たる世の、来世の

*séculum, 名（第 2 格・中単主格）時代、世; = sáeculum

secúndum, 前（+対格）〜によれば ¶ secundum Scripturas 聖書によれば

*sédeo, 動（第 2 群 = sedére, sédi, séssum）座る

sédes, 動（現在 2 単）貴方は座る →sédeo ¶ Qui sedes ad ... = 〜に座る（あなた）

sédet, 動（現在 3 単）彼は座る →sédeo

*sepélíq, 動（第4群 = *sepelíre*, *sepelívi*, *sepúltum*）葬る
sepúltus ést, 動（完了受動3単）彼は葬られた → *sepélíq*
símúl, 副, 同時に、一緒に 『*cum ... simul adoratur* = ～と共に一緒にあがめられる
sólus, 形（第1-2格・男単主格）～だけ 『*tu solus...* あなただけが～
spírítu, 名（第4格・男単奪格）霊 → 主格 *spíritus* 『*de Spiritu Sancto* 聖霊によって
spíritum, 名（第4格・男単対格）霊を → 主格 *spíritus* 『*in Spiritum Sanctum* 聖霊を（信じる）
**spíritus*, 名（第4格・男単主格）霊、息 『*Spiritus Sanctus* 聖霊
súb, 前（+奪格）～の下に、もとで 『*sub Pontio Pilato* ポンツィウス・ピラトゥスのもとで
**súm*, 動（不規則 = *esse*, *fúj*, —）～である、～がある 『→ *ést*, *súnt*, *érit* も見よ
súnt, 動（現在3複）～がある → *súm* 『*pleni sunt ... gloria tua* 貴方の栄光で十分に満ちている
súnt, 動（完了受動3複の助動詞。完了受動分詞+suntで）それらは～された → *súm*; *fácta súnt*
súscipe, 動（命令法現在2単）貴方は聞き入れよ → *suscípio* 『*suscipe deprecationem* 願いを聞き入れよ
**suscípio*, 動（第3B群 = *suscípere*, *suscépi*, *suscéptum*）聞き入れる、受け入れる

T (te)

té, 人称代名（2単・対格）貴方を → 主格 *tú* 『*Laudamus te* 我々は貴方を誉める
térra, 名（第1格・女単主格）地、大地; 反対語 *cáelum* 「天」 『*pleni sunt caeli et terra* 天と地は満ちている
térra, 名（第1格・女単奪格）地 → 主格 *térra* 『*in terra* 地には
térrae, 名（第1格・女単属格）地の → 主格 *térra* 『*factorem caeli et terrae* 天と地の造り主を
tértia, 形（第1-2格・女単奪格）第3の → 男性主格 *tértius* 『*tertia die* 3日目に
**tértius*, 形（第1-2格・男単主格）第3の（数詞 *trés*, *tría* 「3」の序数詞）
tíbi, 人称代名（2単・与格）貴方に → 主格 *tú* 『*gratias agimus tibi* 我々は貴方に感謝する
tóllis, 動（現在2単）貴方は取り除く → *tóllo* 『*Qui tollis peccata mundi* 世の罪を除きたもう主よ
**tóllo*, 動（第3群 = *tóllere*, *sústulj*, *sublátum*）取り除く
tú, 人称代名（2単・主格）貴方は 『*Tu solus sanctus* 貴方だけが神聖である
túa, 所有代名（2単・女単奪格）貴方の → 主格 *túa*; 男性形 *túus*; → *tú* 『*gloria tua* 貴方の栄光でもって
túam, 所有代名（2単・女単対格）貴方の → 主格 *túa* 『→ *glóriam* を見よ

U (u)

únam, 形（第1-2格・女単対格）一つの → 主格 *úna*、男性形 *únus* 『*unam sanctam ...* 一つの聖なる～
unigénite, 形（第1-2格・男単呼格）一人子の → 主格 *unigénitus* 『*Domine Fili unigenite* 主なる一人子よ
unigénitum, 形（第1-2格・男単対格）一人子の → 主格 *unigénitus* 『*Filium Dei unigenitum* 神の一人子を
**unigénitus*, 形（第1-2格・男単主格）一人子の (*uni*-「1 (*únus*)」+ *génitus* 「生まれた」) → *únus*, *génitus*
únus, 形（第1-2格・男単対格）一つの、唯一の → 主格 *únus* 『*unum Dominum* 唯一の主を
únus, 形（第1-2格・中単対格）一つの、唯一の → 男性形 *únus* 『*unum baptisma* 唯一の洗礼を
**únus*, 形（第1-2格・男単主格）一つの、唯一の（属格 *uníus*, 与格 *úni*）; 名（第2格・男単主格）「1」

V (u)

**veníq*, 動（第4群 = *veníre*, *vení*, *véntum*）来る
venít, 動（現在3単）彼は来る → *veníq* 『*qui venit in nomine Domini* 主の名のもとに来たる者
ventúri, 形・未来能動分詞（第1-2格・男単属格）来たる → 主格 *ventúrus* 『*venturi saeculi* 来世の
ventúrus, 未来能動分詞（第1格・男単主格）将来きたる → *veníq* 『*venturus est* 将来やって来る
véro, 形（第1-2格・男単奪格）真の、本当の → 主格 *vérus* 『*de Deo vero* 真の神の中の
vérum, 形（第1-2格・男単対格）真の、本当の → 主格 *vérus* 『*Deum verum* 真の神を
**vérus*, 形（第1-2格・男単主格）真の、真実の、正しい、本当の
virgine, 名（第3格・女単奪格）処女 → 主格 *virgo* 『*ex Maria Virgine* 処女マリアより出て

*vírgo, 名（第 3 格・女単主格）処女

*visibile, 名（第 3 格・中単主格）見える物（visi-「見る(video)」+-ibile「可能な」）

visibílium, 名（第 3 格・中複属格）見える物の →主格 visibile ¶ visibílium omium 見える物全ての

*víta, 名（第 1 格・女単主格）生命 →vívus

vítam, 名（第 1 格・女単対格）生命を →主格 víta ¶ vitam venturi saeculi 来世の生命を

*vivíficans, 名（第 3 格・男単主格）生命の与え主 →vivífico

vivificántem, 名（第 3 格・男単対格）生命の与え主を →主格 vivíficans

*vivífico, 動（第 1 群 = vivificáre, vivificávi, vivificátum）生命を与える（vívus「生命」+fácio「作る」）

vívus, 形（第 1-2 格・男複対格）生きる物を →単数主格 vívus ¶ vivos et mortuos 生者と死者を

*vívus, 形（第 1-2 格・男単主格）生きている

*vólo, 動（不規則 = vélle, vólui, —）欲する、思う、意図する

*volúntas, 名（第 3 格・女単主格）意志 →vólo

voluntátis, 名（第 3 格・女単属格）意志の →主格 volúntas ¶ bonae voluntatis 良い意志の

X (ix)

Y (y)

Z (zeta)

~~~~~

◆名詞の格変化

全ての単語が以下の変化表のどれかに当てはまるわけではなく、多くの例外がある

| 名 詞    |    | GLORIA<br>(女) 栄光 | DOMINUS<br>(男) 主 | CAELUM<br>(中) 天     | SAECULUM<br>(中) 世 | FILIUS<br>(男) 息子  | DEUS<br>(男) 神 |     |
|--------|----|------------------|------------------|---------------------|-------------------|-------------------|---------------|-----|
| 格変化    |    | 第 1 格変化<br>(女性型) | 第 2 格変化<br>(男性型) | 第 2 格変化<br>(中性・男性型) | 第 2 格変化<br>(中性型)  | 第 2 格変化<br>特例     | 第 2 格変化<br>特例 |     |
| 単<br>数 | 主格 | gloria           | dominus          | caelum (中性)         | saeculum          | filius            | deus          | ～は  |
|        | 属格 | gloriae          | domini           | caeli               | saeculi           | fili, <i>fili</i> | dei           | ～の  |
|        | 与格 | gloriae          | domino           | caelo               | saeculo           | filio             | deo           | ～へ  |
|        | 対格 | gloriam          | dominum          | caelum              | saeculum          | filium            | deum          | ～を  |
|        | 奪格 | gloria           | domino           | caelo               | saeculo           | filio             | deo           | ～から |
|        | 呼格 | gloria           | domine           | caelum              | saeculum          | <i>fili</i>       | <i>deus</i>   | ～よ  |
| 複<br>数 | 主格 | gloriae          | domini           | caeli (男性)          | saecula           | fili              | dei           | ～は  |
|        | 属格 | gloriarum        | dominorum        | caelorum            | saeculorum        | filiorum          | deorum        | ～の  |
|        | 与格 | gloriis          | dominis          | caelis              | saeculis          | filiis            | deis          | ～へ  |
|        | 対格 | glorias          | dominos          | caelos              | saecula           | filios            | deos          | ～を  |
|        | 奪格 | gloriis          | dominis          | caelis              | saeculis          | filiis            | deis          | ～から |
|        | 呼格 | gloriae          | domini           | caeli               | saecula           | fili              | dei           | ～よ  |

| 名 詞    |    | PATER<br>(男) 父   | BAPTISMA<br>(中) 洗礼   | VIVIFICANS<br>(男) 生命の与え主 | SPIRITUS<br>(男) 霊 | DIES<br>(男) 日 |     |
|--------|----|------------------|----------------------|--------------------------|-------------------|---------------|-----|
| 格変化    |    | 第 3 格変化<br>第 1 類 | 第 3 格変化<br>第 1 類     | 第 3 格変化<br>第 2 類         | 第 4 格変化           | 第 5 格変化       |     |
| 単<br>数 | 主格 | pater            | baptisma             | vivificans               | spiritus          | dies          | ～は  |
|        | 属格 | patris           | baptismatis          | vivificantis             | spiritus          | diei          | ～の  |
|        | 与格 | patri            | baptismati           | vivificanti              | spiritui, [-u]    | diei          | ～へ  |
|        | 対格 | patrem           | baptisma             | vivificantem             | spiritum          | diem          | ～を  |
|        | 奪格 | patre            | baptismate           | vivificante              | spiritu           | die           | ～から |
|        | 呼格 | pater            | baptisma             | vivificans               | spiritus          | dies          | ～よ  |
| 複<br>数 | 主格 | patres           | baptismates          | vivificantes             | spiritus          | dies          | ～は  |
|        | 属格 | patrum           | baptismatum, [-orum] | vivificantium            | spirituum         | dierum        | ～の  |
|        | 与格 | patribus         | baptismatibus, [-is] | vivificantibus           | spiritibus        | diebus        | ～へ  |
|        | 対格 | patres           | baptismates          | vivificantes, [-is]      | spiritus          | dies          | ～を  |
|        | 奪格 | patribus         | baptismatibus, [-is] | vivificantibus           | spiritibus        | diebus        | ～から |
|        | 呼格 | patres           | baptismates          | vivificantes             | spiritus          | dies          | ～よ  |

| 固有名詞<br>外来語 | MARIA<br>(女) マリア | PONTIUS PILATUS<br>(男) ピラトゥス | JESUS<br>(男) イエス | SABAOTH<br>(男) 万軍 |
|-------------|------------------|------------------------------|------------------|-------------------|
| 格変化         | 第 1 格変化          | 第 2 格変化                      | 不規則変化            | 無変化               |
| 主格          | Maria            | Pontius Pilatus              | Jesus            | <i>Sabaoth</i>    |
| 属格          | Mariae           | Pontii Pilati                | <i>Jesu</i>      | <i>Sabaoth</i>    |
| 与格          | Mariae           | Pontio Pilato                | <i>Jesu</i>      | <i>Sabaoth</i>    |
| 対格          | Mariam           | Pontium Pilatum              | Jesum            | <i>Sabaoth</i>    |
| 奪格          | Maria            | Pontio Pilato                | <i>Jesu</i>      | <i>Sabaoth</i>    |
| 呼格          | Maria            | <i>Ponti</i> Pilate          | <i>Jesu</i>      | <i>Sabaoth</i>    |

◆形容詞の格変化

| 形容詞    |    | MAGNUS 大きい |          |          | OMNIS 全ての    |              |         |
|--------|----|------------|----------|----------|--------------|--------------|---------|
| 格変化    |    | 第 1-2 格変化  |          |          | 第 3 格変化      |              |         |
| 性      |    | 男性         | 女性       | 中性       | 男性           | 女性           | 中性      |
| 単<br>数 | 主格 | magnus     | magna    | magnum   | omnis        | omnis        | omne    |
|        | 属格 | magni      | magnae   | magni    | omnis        | omnis        | omnis   |
|        | 与格 | magno      | magnae   | magno    | omni         | omni         | omni    |
|        | 対格 | magnum     | magnam   | magnum   | omnem        | omnem        | omne    |
|        | 奪格 | magno      | magna    | magno    | omni         | omni         | omni    |
|        | 呼格 | magne      | magna    | magnum   | omnis        | omnis        | omne    |
| 複<br>数 | 主格 | magni      | magnae   | magna    | omnes        | omnes        | omnia   |
|        | 属格 | magnorum   | magnarum | magnorum | omnium       | omnium       | omnium  |
|        | 与格 | magnis     | magnis   | magnis   | omnibus      | omnibus      | omnibus |
|        | 対格 | magnos     | magnas   | magna    | omnes, [-is] | omnes, [-is] | omnia   |
|        | 奪格 | magnis     | magnis   | magnis   | omnibus      | omnibus      | omnibus |
|        | 呼格 | magni      | magnae   | magna    | omnes        | omnes        | omnia   |

◆形容詞の比較法

| 形容詞    |    | 規則的比較法         |         |         |                        |            |                            |              |              |
|--------|----|----------------|---------|---------|------------------------|------------|----------------------------|--------------|--------------|
| 級      |    | 原級<br>ALTUS 高い |         |         | 比較級（比級）<br>ALTIOR より高い |            | 最上級（優級）<br>ALTISSIMUS 最も高い |              |              |
| 性      |    | 男性             | 女性      | 中性      | 男性・女性                  | 中性         | 男性                         | 女性           | 中性           |
| 単<br>数 | 主格 | altus          | alta    | altum   | altior                 | altius     | altissimus                 | altissima    | altissimum   |
|        | 属格 | alti           | altae   | alti    | altioris               | altioris   | altissimi                  | altissimae   | altissimi    |
|        | 与格 | alto           | altae   | alto    | altiori                | altiori    | altissimo                  | altissimae   | altissimo    |
|        | 対格 | altum          | altam   | altum   | altiozem               | altius     | altissimum                 | altissimam   | altissimum   |
|        | 奪格 | alto           | alta    | alto    | altiore                | altiore    | altissimo                  | altissima    | altissimo    |
|        | 呼格 | alte           | alta    | altum   | altior                 | altius     | altissime                  | altissima    | altissimum   |
| 複<br>数 | 主格 | alti           | altae   | alta    | altiores               | altiora    | altissimi                  | altissimae   | altissima    |
|        | 属格 | altorum        | altarum | altorum | altiorum               | altiorum   | altissimorum               | altissimarum | altissimorum |
|        | 与格 | altis          | altis   | altis   | altioribus             | altioribus | altissimis                 | altissimis   | altissimis   |
|        | 対格 | altos          | altas   | alta    | altiores               | altiora    | altissimos                 | altissimas   | altissima    |
|        | 奪格 | altis          | altis   | altis   | altioribus             | altioribus | altissimis                 | altissimis   | altissimis   |
|        | 呼格 | alti           | altae   | alta    | altiores               | altiora    | altissimi                  | altissimae   | altissima    |

| 形容詞              | 不規則的比較法（単数主格のみ掲載） |       |        |     |         |        |          |         |          |
|------------------|-------------------|-------|--------|-----|---------|--------|----------|---------|----------|
| 級                | 原級                |       |        |     | 比較級（比級） |        | 最上級（優級）  |         |          |
| 性                | 男性                | 女性    | 中性     |     | 男性・女性   | 中性     | 男性       | 女性      | 中性       |
| 単<br>数<br>主<br>格 | bonus             | bona  | bonum  | 良い  | melior  | melius | optimus  | optima  | optimum  |
|                  | malus             | mala  | malum  | 悪い  | pejor   | pejus  | pessimus | pessima | pessimum |
|                  | magnus            | magna | magnum | 大きい | major   | majus  | maximus  | maxima  | maximum  |
|                  | parvus            | parva | parvum | 小さい | minor   | minus  | minimus  | minima  | minimum  |
|                  | multus            | multa | multum | 多い  | —       | plus   | plurimus | plurima | plurimum |

## ◆代名詞の格変化

| 人称代名詞  |    | 1 人称<br>EGO 私 | 2 人称<br>TU あなた |
|--------|----|---------------|----------------|
| 単<br>数 | 主格 | ego           | tu             |
|        | 属格 | mei           | tui            |
|        | 与格 | mihi, [mi]    | tibi           |
|        | 対格 | me            | te             |
|        | 奪格 | me            | te             |
|        | 呼格 | ego           | tu             |
|        |    | NOS 我々        | VOS あなた達       |
| 複<br>数 | 主格 | nos           | vos            |
|        | 属格 | nostrum, -i   | vestrum, -i    |
|        | 与格 | nobis         | vobis          |
|        | 対格 | nos           | vos            |
|        | 奪格 | nobis         | vobis          |
|        | 呼格 | nos           | vos            |

| 関係代名詞  |    | QUI その人が、その物が |        |        |
|--------|----|---------------|--------|--------|
| 性      |    | 男性            | 女性     | 中性     |
| 単<br>数 | 主格 | qui           | quae   | quod   |
|        | 属格 | cujus         | cujus  | cujus  |
|        | 与格 | cui           | cui    | cui    |
|        | 対格 | quem          | quam   | quod   |
|        | 奪格 | quo           | qua    | quo    |
|        | 呼格 | qui           | quae   | quod   |
| 複<br>数 | 主格 | qui           | quae   | quae   |
|        | 属格 | quorum        | quarum | quorum |
|        | 与格 | quibus        | quibus | quibus |
|        | 対格 | quos          | quas   | quae   |
|        | 奪格 | quibus        | quibus | quibus |
|        | 呼格 | qui           | quae   | quae   |

※人称代名詞の属格は、所有以外の意味で用いる（配分の属格など）。所有を表すには次の所有代名詞を使う。

※3 人称の人称代名詞は無く、指示代名詞（確定代名詞）**is, ea, id** を英語の he, she, it のように用いる。

※このページの代名詞以外にも、再帰代名詞、指示代名詞、強意代名詞、疑問代名詞、不定代名詞などがある。

| 所有代名詞  |    | 1 人称単数<br>MEUS 私の |        |        | 2 人称単数<br>TUUS あなたの |        |        |
|--------|----|-------------------|--------|--------|---------------------|--------|--------|
| 性      |    | 男性                | 女性     | 中性     | 男性                  | 女性     | 中性     |
| 単<br>数 | 主格 | meus              | mea    | meum   | tuus                | tua    | tuum   |
|        | 属格 | mei               | meae   | mei    | tui                 | tuae   | tui    |
|        | 与格 | meo               | meae   | meo    | tuo                 | tuae   | tuo    |
|        | 対格 | meum              | meam   | meum   | tuum                | tuam   | tuum   |
|        | 奪格 | meo               | mea    | meo    | tuo                 | tua    | tuo    |
|        | 呼格 | mi, [meus]        | mea    | meum   | tue                 | tua    | tuum   |
| 複<br>数 | 主格 | mei               | meae   | mea    | tui                 | tuae   | tua    |
|        | 属格 | meorum            | mearum | meorum | tuorum              | tuarum | tuorum |

| 所有代名詞  |    | 1 人称複数<br>NOSTER 我々の |           |           | 2 人称複数<br>VESTER あなた達の |           |           |
|--------|----|----------------------|-----------|-----------|------------------------|-----------|-----------|
| 性      |    | 男性                   | 女性        | 中性        | 男性                     | 女性        | 中性        |
| 単<br>数 | 主格 | noster               | nostra    | nostrum   | vester                 | vestra    | vestrum   |
|        | 属格 | nostri               | nostrae   | nostri    | vestri                 | vestrae   | vestri    |
|        | 与格 | nostro               | nostrae   | nostro    | vestro                 | vestrae   | vestro    |
|        | 対格 | nostrum              | nostram   | nostrum   | vestrum                | vestrarum | vestrum   |
|        | 奪格 | nostro               | nostra    | nostro    | vestro                 | vestra    | vestro    |
|        | 呼格 | noster               | nostra    | nostrum   | vester                 | vestra    | vestrum   |
| 複<br>数 | 主格 | nostri               | nostrae   | nostra    | vestri                 | vestrae   | vestra    |
|        | 属格 | nostrorum            | nostrarum | nostrorum | vestrorum              | vestrarum | vestrorum |

※所有代名詞の複数形の各変化は主格と属格のみ掲載。基本的には形容詞の第 1-2 格変化のように格変化する。

◆動詞の活用

| 動詞  |       | LAUDO ほめる (基本 4 形＝laudo, laudare, laudavi, laudatum) |             |             |               |               |              |        |
|-----|-------|------------------------------------------------------|-------------|-------------|---------------|---------------|--------------|--------|
| 群   |       | 第 1 群規則動詞                                            |             |             |               |               |              |        |
| 態   |       | 能 動 態 (能 相)                                          |             |             |               |               |              |        |
| 数   |       | 単 数                                                  |             |             | 複 数           |               |              |        |
| 人称  |       | 1 人称                                                 | 2 人称        | 3 人称        | 1 人称          | 2 人称          | 3 人称         |        |
| 法   | 時 制   | 私は                                                   | あなたは        | それ・彼は       | 我々は           | あなた達は         | それらは         |        |
| 直接法 | 現 在   | laudo                                                | laudas      | laudat      | laudamus      | laudatis      | laudent      | ほめる    |
|     | 未完了過去 | laudabam                                             | laudabas    | laudabat    | laudabamus    | laudabatis    | laudabant    | ほめていた  |
|     | 未 来   | laudabo                                              | laudabis    | laudabit    | laudabimus    | laudabitis    | laudabunt    | ほめるだろう |
|     | 完 了   | laudavi                                              | laudavisti  | laudavit    | laudavimus    | laudavistis   | laudaverunt  | ほめた    |
|     | 過去完了  | laudaberam                                           | laudaveras  | laudaverat  | laudaveramus  | laudaveratis  | laudaverant  | ほめた    |
|     | 未来完了  | laudavero                                            | laudaveris  | laudaverit  | laudaverimus  | laudaveritis  | laudaverint  | ほめただろう |
| 命令  | 現 在   | —                                                    | lauda       | —           | —             | laudate       | —            | ほめよ    |
|     | 未 来   | —                                                    | laudato     | laudato     | —             | laudatote     | laudanto     | ほめよ    |
| 接続法 | 現 在   | laudem                                               | laudes      | laudet      | laudemus      | laudetis      | laudent      | ほめる    |
|     | 未完了過去 | laudarem                                             | laudares    | laudaret    | laudaremus    | laudaretis    | laudent      | ほめていた  |
|     | 完 了   | laudaverim                                           | laudaveris  | laudaverit  | laudaverimus  | laudaveritis  | laudaverint  | ほめた    |
|     | 過去完了  | laudavisse                                           | laudavisses | laudavisset | laudavissemus | laudavissetis | laudavissent | ほめた    |
| 不定法 | 現 在   | laudare                                              |             |             |               |               |              | ほめる    |
|     | 完 了   | laudavisse                                           |             |             |               |               |              | ほめた    |
|     | 未 来   | fut.p. esse                                          |             |             |               |               |              | ほめるだろう |

| 態   |       | 受 動 態 (所 相)  |                    |            |              |              |             |          |
|-----|-------|--------------|--------------------|------------|--------------|--------------|-------------|----------|
| 数   |       | 単 数          |                    |            | 複 数          |              |             |          |
| 人称  |       | 1 人称         | 2 人称               | 3 人称       | 1 人称         | 2 人称         | 3 人称        |          |
| 法   | 時 制   | 私は           | あなたは               | それは        | 我々は          | あなた達は        | それらは        |          |
| 直接法 | 現 在   | laudor       | laudaris, -are     | laudatur   | laudamur     | laudamini    | laudatur    | ほめられる    |
|     | 未完了過去 | laudabar     | laudabaris, -are   | laudabatur | laudabamur   | laudabamini  | laudabantur | ほめられていた  |
|     | 未 来   | laudabor     | laudaberis, -are   | laudabitur | laudabimur   | laudabimini  | laudabuntur | ほめられるだろう |
|     | 完 了   | p.p. sum     | p.p. es            | p.p. est   | p.p. sunt    | p.p. estis   | p.p. sunt   | ほめられた    |
|     | 過去完了  | p.p. eram    | p.p. eras          | p.p. erat  | p.p. eramus  | p.p. eratis  | p.p. erant  | ほめられた    |
|     | 未来完了  | p.p. ero     | p.p. eris          | p.p. erit  | p.p. erimus  | p.p. eritis  | p.p. erunt  | ほめられただろう |
| 命令  | 現 在   | —            | laudare            | —          | —            | laudamini    | —           | ほめられよ    |
|     | 未 来   | —            | laudator           | laudator   | —            | —            | laudantor   | ほめられよ    |
| 接続法 | 現 在   | lauder       | lauderis, -ere     | laudetur   | laudemur     | laudemini    | laudentur   | ほめられる    |
|     | 未完了過去 | laudarer     | laudareris, -arere | laudaretur | laudaremur   | laudaremini  | laudentur   | ほめられていた  |
|     | 完 了   | p.p. sim     | p.p. sis           | p.p. sit   | p.p. simus   | p.p. sitis   | p.p. sint   | ほめられた    |
|     | 過去完了  | p.p. essem   | p.p. esses         | p.p. esset | p.p. essemus | p.p. essetis | p.p. essent | ほめられた    |
| 不定法 | 現 在   | laudari      |                    |            |              |              |             | ほめられる    |
|     | 完 了   | p.p. esse    |                    |            |              |              |             | ほめられた    |
|     | 未 来   | laudatum iri |                    |            |              |              |             | ほめられるだろう |

fut.p.=未来能動分詞、p.p.=完了受動分詞。いずれも主語の性・数・格に応じて格変化する。次ページ参照。

|     |     |    | 分 詞               |            |            |          | 動形容詞        | 動名詞<br>(中性) |
|-----|-----|----|-------------------|------------|------------|----------|-------------|-------------|
|     |     |    | 現在能動分詞            | 未来能動分詞     | 完了受動分詞     | 目的能動分詞   |             |             |
|     |     |    | ほめている             | ほめようとする    | ほめられた      | ほめるために   | ほめられるべき     | ほめること       |
| 男 性 | 単 数 | 主格 | laudans           | laudaturus | laudatus   | —        | laudandus   | —           |
|     |     | 属格 | laudantis         | laudaturi  | laudati    | —        | laudandi    | laudandi    |
|     |     | 与格 | laudanti          | laudaturo  | laudato    | —        | laudando    | laudando    |
|     |     | 対格 | laudantem         | laudaturum | laudatum   | laudatum | laudandum   | laudandum   |
|     |     | 奪格 | laudante, [-anti] | laudaturo  | laudato    | laudatu  | laudando    | laudando    |
|     | 複 数 | 主格 | laudantes         | laudaturi  | laudati    |          | laudandi    |             |
|     |     | 属格 | laudantium        | laudatorum | laudatorum |          | laudandorum |             |
|     |     | 与格 | laudantibus       | laudaturis | laudatis   |          | laudandis   |             |
|     |     | 対格 | laudantes, -antis | laudaturos | laudatos   |          | laudandos   |             |
|     |     | 奪格 | laudantibus       | laudaturis | laudatis   |          | laudandis   |             |
| 女 性 | 単   | 主格 | laudans           | laudatura  | laudata    |          | laudanda    |             |
|     | 複   | 主格 | laudantes         | laudaturae | laudatae   |          | laudandae   |             |
| 中 性 | 単   | 主格 | laudans           | laudaturum | laudatum   |          | laudandum   |             |
|     | 複   | 主格 | laudantia         | laudatura  | laudata    |          | laudanda    |             |

※上の表では男性形のみ詳細に格変化を示した（呼格は主格と同じなので省略）。女性形・中性形は主格のみ掲載したが、基本的に形容詞と同じ格変化をする。

※目的能動分詞は性・数の変化をせず、動詞派生の副詞という性格を持つ（対格は目的を、奪格は観点を表す）。

※動形容詞は「未来受動分詞」と言える性格を持ち、義務・予定・必要などを表す。

※動名詞は中性名詞として扱われる（単数のみ）。動名詞に主格は無く、その代用には不定法 laudare を用いる。

●第1群規則動詞以外は概要のみ示す。

| 動詞          |       |    | 群  |      | 第 2 群                             | 第 3 群                        | 第 3B 群                            | 第 4 群                             | 不規則                           |
|-------------|-------|----|----|------|-----------------------------------|------------------------------|-----------------------------------|-----------------------------------|-------------------------------|
|             |       |    |    |      | SEDEO<br>座る                       | AGO<br>行う                    | FACIO<br>作る                       | VENIO<br>来る                       | SUM<br>在る                     |
| 基本 4 形      |       |    |    |      | sedeo<br>sedere<br>sedi<br>sessum | ago<br>agere<br>egi<br>actum | facio<br>facere<br>feci<br>factum | venio<br>venire<br>veni<br>ventum | sum<br>esse<br>fui<br>futurum |
| 態           | 法     | 時制 | 数  | 人称   |                                   |                              |                                   |                                   |                               |
| 能動態<br>(能相) | 直説法   | 現在 | 単数 | 1 人称 | sedeo                             | ago                          | facio                             | venio                             | sum                           |
|             |       |    |    | 2 人称 | sedes                             | agis                         | facis                             | venis                             | es                            |
|             |       |    |    | 3 人称 | sedet                             | agit                         | facit                             | venit                             | est                           |
|             |       |    | 複数 | 1 人称 | sedemus                           | agimus                       | facimus                           | venimus                           | sumus                         |
|             |       |    |    | 2 人称 | sedetis                           | agitis                       | facitis                           | venitis                           | estis                         |
|             |       |    |    | 3 人称 | sedent                            | agunt                        | faciunt                           | veniunt                           | sunt                          |
|             |       | 完了 | 単数 | 1 人称 | sedi                              | egi                          | feci                              | veni                              | fui                           |
|             |       |    |    | 2 人称 | sedisti                           | egisti                       | fecisti                           | venisti                           | fuisti                        |
|             |       |    |    | 3 人称 | sedit                             | egit                         | fecit                             | venit                             | fuit                          |
|             |       |    | 複数 | 1 人称 | sedimus                           | egimus                       | fecimus                           | venimus                           | fuius                         |
|             |       |    |    | 2 人称 | sedistis                          | egistis                      | fecistis                          | venistis                          | fuistis                       |
|             |       |    |    | 3 人称 | sederunt, -ere                    | egerunt                      | fecerunt                          | venerunt                          | fuerunt                       |
|             | 命令法現在 |    | 単  | 2 人称 | sede                              | age                          | fac                               | veni                              | es                            |
|             | 不定法現在 |    |    |      | sedere                            | agere                        | facere                            | venire                            | esse                          |

|         |        |    |    |      |               |              |          |               |         |
|---------|--------|----|----|------|---------------|--------------|----------|---------------|---------|
| 受動態(所相) | 直說法    | 現在 | 單數 | 1 人稱 | sedeor        | agor         | fio ※※   | venior        | —       |
|         |        |    |    | 2 人稱 | sederis, -ere | ageris, -ere | fis      | veniris, -ire |         |
|         |        |    |    | 3 人稱 | sedetur       | agitur       | fit      | venitur       |         |
|         |        |    | 複數 | 1 人稱 | sedemur       | agimur       | fimus    | venimur       | —       |
|         |        |    |    | 2 人稱 | sedemini      | agimini      | fitis    | venimini      |         |
|         |        |    |    | 3 人稱 | sedentur      | aguntur      | fiunt    | veniuntur     |         |
| 分詞      | 現在能動分詞 |    |    |      | sedens        | agens        | faciens  | veniens       | —       |
|         | 未來能動分詞 |    |    |      | sessurus      | acturus      | facturus | venturus      | futurus |
|         | 完了受動分詞 |    |    |      | sessus        | actus        | factus   | ventus        | —       |

※上記動詞はミサ曲中に登場するものを掲載した。なお、sedeo は第2群活用であるが、完了形 sedi と

完了受動分詞 sessum は第2群規則に当てはまらない。受動態完了は「完了受動分詞+esse」で表すため省略。

※「基本4形」＝直説法能動態現在1人称単数、不定法能動態現在、直説法能動態完了1人称単数、目的分詞。

この4つの形があれば全ての活用形を導出できる（不規則動詞の一部の活用を除く）。

※※facio は、現在・未完了過去・未来で受動態を作らず、別の不規則動詞 fio 「なる、作られる」の各時制を利用。

### ◆形式受動態動詞（異態動詞、形式所相動詞）の活用

| 形式受動態動詞        |             |     | 群    |                      | 第 2 群                       |                              | 第 3 群                      |                            | 第 3B 群                     |
|----------------|-------------|-----|------|----------------------|-----------------------------|------------------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|
| 相              | 法           | 時制  | 数    | 人称                   | MISEREOR<br>憐れむ             | CONFITEOR<br>認める             | NASCOR<br>生まれる             | LOQUOR<br>語る               | PATIOR<br>受ける              |
| 能 相<br>(能 動 態) | 直 説 法       | 現 在 | 単 数  | 1 人称                 | miser <sup>eor</sup>        | confite <sup>or</sup>        | nascor                     | loquor                     | patior                     |
|                |             |     |      | 2 人称                 | miser <sup>eris, -ere</sup> | confite <sup>ris, -ere</sup> | nasc <sup>eris, -ere</sup> | loque <sup>ris, -ere</sup> | patis <sup>ris, -ire</sup> |
|                |             |     |      | 3 人称                 | miser <sup>etur</sup>       | confite <sup>tur</sup>       | nasc <sup>itur</sup>       | loqui <sup>tur</sup>       | patis <sup>tur</sup>       |
|                |             |     | 複 数  | 1 人称                 | miser <sup>emur</sup>       | confite <sup>mur</sup>       | nascimur                   | loquimur                   | patimur                    |
|                |             |     |      | 2 人称                 | miser <sup>emini</sup>      | confite <sup>mini</sup>      | nascimini                  | loquimini                  | patimini                   |
|                |             |     |      | 3 人称                 | miser <sup>entur</sup>      | confite <sup>ntur</sup>      | nascuntur                  | loquuntur                  | patiuntur                  |
|                |             | 完 了 | 単 数  | 1 人称                 | miserit <sup>us sum</sup>   | confessus <sup> sum</sup>    | natus <sup> sum</sup>      | locutus <sup> sum</sup>    | passus <sup> sum</sup>     |
|                |             |     |      | 2 人称                 | miserit <sup>us es</sup>    | confessus <sup> es</sup>     | natus <sup> es</sup>       | locutus <sup> es</sup>     | passus <sup> es</sup>      |
|                |             |     |      | 3 人称                 | miserit <sup>us est</sup>   | confessus <sup> est</sup>    | natus <sup> est</sup>      | locutus <sup> est</sup>    | passus <sup> est</sup>     |
|                |             |     | 複 数  | 1 人称                 | miseriti <sup> sumus</sup>  | confessi <sup> sumus</sup>   | nati <sup> sumus</sup>     | locuti <sup> sumus</sup>   | passi <sup> sumus</sup>    |
|                |             |     |      | 2 人称                 | miseriti <sup> estis</sup>  | confessi <sup> estis</sup>   | nati <sup> estis</sup>     | locuti <sup> estis</sup>   | passi <sup> estis</sup>    |
|                |             |     |      | 3 人称                 | miseriti <sup> sunt</sup>   | confessi <sup> sunt</sup>    | nati <sup> sunt</sup>      | locuti <sup> sunt</sup>    | passi <sup> sunt</sup>     |
| 命令法現在          |             | 単   | 2 人称 | miser <sup>ere</sup> | confite <sup>re</sup>       | nascere                      | loquere                    | patire                     |                            |
| 不 定 法 現 在      |             |     |      | miser <sup>eri</sup> | confite <sup>ri</sup>       | nasci                        | loqui                      | pati                       |                            |
| 分 詞            | 現 在 能 動 分 詞 |     |      |                      | miser <sup>ens</sup>        | confite <sup>ns</sup>        | nascens                    | loquens                    | patiens                    |
|                | 未 来 能 動 分 詞 |     |      |                      | miserit <sup>urus</sup>     | confessus <sup>urus</sup>    | naturus                    | locuturus                  | passurus                   |
|                | 完 了 受 動 分 詞 |     |      |                      | miserit <sup>us</sup>       | confessus                    | natus                      | locutus                    | passus                     |

※分詞、及び分詞を含む活用（上記では直説法完了）において、分詞は主語に応じて性・数・格を一致させる。上記は男性形のみ掲載しているが、女性形・中性形にもなる。

### ◆前置詞の支配

|         |                                                                 |
|---------|-----------------------------------------------------------------|
| 奪格支配    | a (ab) 「～から」； cum 「～と共に」； de 「～から」； ex (e) 「～から外へ」； pro 「～のために」 |
| 対格支配    | ad 「～まで」； ante 「～の前に」； per 「～を通じて、～によって」； propter 「～のゆえに」       |
| 奪格・対格支配 | in 「(奪格) ～(の中) で / (対格) ～(の中)へ」； sub 「(奪格) ～の下で / (対格) ～の下へ」    |

## ◆ラテン語の辞書を引く際に

ラテン語の辞書における活用語の見出し語は一般的に次のようになっています。

名詞……単数主格  
形容詞……男性形単数主格  
動詞……直説法現在 1 人称単数（「私は～する」の形）

例えば、

名詞 「主」 単数主格 **dominus** が見出し語  
形容詞 「大きい」 男性形単数主格 **magnus** が見出し語  
形容詞 「全能の」 男性形単数主格 **omnipotens** が見出し語  
動詞 「ほめる」 直説法現在 1 人称単数 **laudo** が見出し語

さらに、格変化・活用の仕方の概略を示すために、代表的ないくつかの語形が併記されます。一般的に、次のような語形が併記されます。

名詞……(1)単数主格, (2)単数属格  
形容詞……(1)男性形単数主格, (2)女性形単数主格, (3)中性形単数主格（単数主格が男性≠女性≠中性）  
                  (1)男性・女性形共通の単数主格, (2)中性形単数主格（     〃     男性＝女性＝中性）  
                  (1)男性・女性・中性形共通の単数主語, (2)その単数属格（     〃     男性＝女性＝中性）  
                  （性で形が変わるものは性で列挙、性で形が変わらないものは名詞のように単数属格を併記）  
動詞……(1)直説法現在 1 人称単数, (2)不定法現在, (3)直説法完了 1 人称単数, (4)目的分詞  
                  （目的分詞＝完了受動分詞中性単数主格。形式受動態動詞では(3)は(4)から導出できるので(4)は省略）

例えば、

名詞 「主」 見出し語は、**dominus, domini** 又は **dominus, -i**  
形容詞 「大きい」 見出し語は、**magnus, magna, magnum** 又は **magnus, -a, -um**  
形容詞 「全能の」 見出し語は、**omnipotens, omnipotentis** 又は **omnipotens, -entis**  
動詞 「ほめる」 見出し語は、**laudo, laudare, laudavi, laudatum** 又は **laudo, -are, -avi, -atum**

となり、これらの活用語尾の表示から、例えば次のような見出し語が辞書に掲載されていた場合、

**gloria, -ae** → 第 1 格変化の名詞（多くは女性名詞）  
**deus, -i** → 第 2 格変化（男性名詞型）の名詞（多くは男性名詞）  
**Jesus, -u** → 規則格変化に当てはまらない名詞  
**altus, -a, -um** → 第 1-2 格変化の形容詞で、単数主格は男・女・中性のすべてで語形が異なる。  
**omnis, -e** → 第 3 格変化の形容詞で、単数主格は男性と女性と同じで、中性が異なる。  
**omnipotens, -entis** → 第 3 格変化の形容詞で、単数主格は男・女・中性のすべてで語形が同一。  
**laudo, -are, -avi, -atum** → 第 1 群活用の動詞  
**loquor, -qui, locutus est** → 第 3 群活用の形式受動態動詞  
**venio, -ire, veni, ventum** → 第 4 群活用の動詞

といったことが判別できます。特定の活用が規則変化に当てはまっているかどうかもある程度分かります。

ただし、規則変化に当てはまらない単語の場合は、他の活用形が何であるかは読み取れませんし、「**deus** は第 2 格変化だが呼格は **deus** のままである」といった個別の規則を読み取ることもできません。特殊な活用や、基本形を探るのが困難な活用の語形については、これらも見出し語に掲載している次ページの[1]の辞典が推奨です。また、個別の単語の変化形の特例については、これに詳しい[3]の参考書が推奨です。



## 《参考書》

- [1] 田中秀央 編「羅和辞典 **LEXICON LATINO-JAPONICUM**」増訂新版 研究社  
最大の特徴は、ほとんど全ての単語に活用基本形や直説の語源を掲載している点。ラテン語辞書を引く時のポイントを押さえた非常に秀逸な辞書。中辞典レベルで買う人がいたら薦めます。
- [2] Harpercollins College Outline “**WHEELLOCK'S LATIN GRAMMAR**”, 4th edition revised.  
英語で書かれたラテン語文法書。向こうの中学 3 年くらい向けで、巻末の格変化、活用一覧が充実している。洋書なので、入手は難しいかも。
- [3] 小林標 著「独習者のための 楽しく学ぶラテン語」大学書林  
日本語で書かれたラテン語文法書。どちらかという一度学習したことのある人向けです。比較的わかりやすく書かれており、注意すべき個別点も詳しい。
- [4] Hodder & Stoughton: Teach Yourself Books “**LATIN DICTIONARY**” (羅英・英羅辞典)  
ラテン語－英語の相互引き辞書で、語彙は少ないですが英語からラテン語へ引けるのが便利。
- [5] 英和辞典、英英辞典、仏和辞典  
これらは案外役に立ちます。特に研究社「リーダース」英和辞典は、専門用語が豊富で語源説明が詳しく、ラテン語の基本形を探るのに威力を発揮しました。
- [6] Pocket Books: “**BEN-YEHUDA'S POCKET ENGLISH-HEBREW HEBREW-ENGLISH DICTIONARY**”  
ヘブライ語－英語の相互引き辞書。ヘブライ語を祖語に持つ言葉の探索に有力。
- [7] ギリシャ語文法書（書名忘れた）  
ギリシャ語の部分の語形を探るのに使いました。

---

コール・シャンティ

## ミサ通常文のラテン語解説

|             |          |                 |
|-------------|----------|-----------------|
| 平成 12 年 1 月 | 初 版      | 発 行             |
| 平成 12 年 9 月 | 同 第二刷    | 発 行             |
| 平成 17 年 2 月 | 改訂第二版    | 発 行             |
| 平成 17 年 3 月 | 同 第二刷    | 発 行             |
| 平成 23 年 3 月 | 改訂 WEB 版 | 先 行 公 開 (第三版相当) |
| 平成 23 年 8 月 | 改訂第三版    | 発 行             |

編 者 白 石 雅 之  
[shira@shantey.net](mailto:shira@shantey.net)

発行者 第二版第二刷まで 混声合唱団コール・シャンティ  
改訂 WEB 版以降 白 石 雅 之

WEB 版 [http://blog.livedoor.jp/missa\\_ordinarium/](http://blog.livedoor.jp/missa_ordinarium/)

※WEB 版は随時更新されます。

---